

平成 27 年度指定 スーパーグローバルハイスクール 研究報告書 ＜第 4 年次＞



平成 31 年 3 月



京都府立鳥羽高等学校

平成30年度 京都府立鳥羽高等学校 ～S G Hのあゆみ～

研究開発単位Ⅰ：総合的な学習の時間「イノベーション探究Ⅰ」



京都文化博物館の村野正景・西山剛学芸員による
「資料論」「地域遺産論」



福知山公立大学の杉岡秀紀准教授による
フィールドワークとワークショップ入門



京都光華女子大学の乾明紀准教授による
チーム・ビルディング等のワークショップ

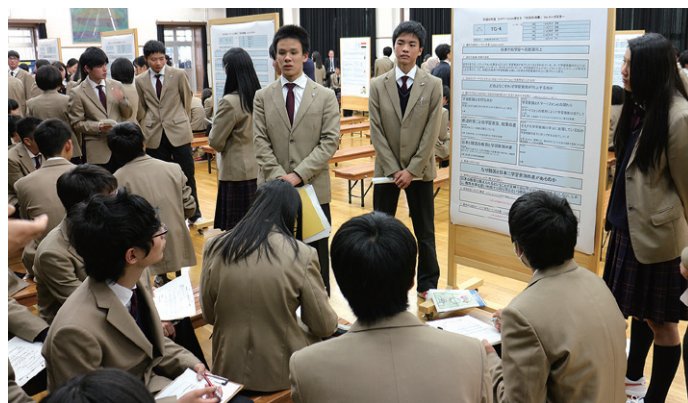


京都府立図書館レファレンスにて文献調査の手法を学ぶ

総合的な学習の時間「イノベーション探究Ⅱ」



大阪大学の進藤修一教授と柿澤寿信講師による
ワークショップ「よい研究発表とは」



S G H事業研究発表会「イノベーション探究Ⅱ」
ポスターセッション

総合的な学習の時間「イノベーション探究Ⅲ」

鳥羽グローバル・サミット



S D G s の達成に向けて、海外の大学生と英語でディスカッションし、提言発表

KYOTO フィールドワーク



上海の復旦大学生とともに、嵐山で海外からの観光客にインタビュー調査

研究開発単位Ⅱ：グローバル・コンピテンシーを高める教科横断的科目群

「グローバル・コミュニケーションⅠ」



N U S、復旦大学、きょうと留学生ハウスの学生へ京都の伝統・文化を英語で発信

「グローバル・コミュニケーションⅡ」



海外の大学生と英語ディベートの演習

「ソーシャル・インテリジェンス」



「イノベーション探究Ⅰ」との教科横断的な取組として「京の智」のデータ分析を実施

「京都の風土・世界の風土」



国立民族学博物館におけるフィールドワーク

研究開発単位Ⅲ：新しい視座と高い言語能力を確立する戦略群

海外インターンシップ（上海）



上海市嘉定一中において京都の伝統・文化を英語で発表

海外インターンシップ（韓国）



ハンヨン高校生とともに、吉洞市場においてインタビュー調査を実施

海外インターンシップ（台湾）



台湾片岡股份有限公司、上銀科技股份有限公司におけるインターンシップ

海外インターンシップ（シンガポール）



ホリバ・インスツルメンツにおける現地社員とのコミュニケーション研修

研究開発単位Ⅳ：鳥羽の学びネットワークを活用したリベラルアーツ教育の研究開発

S G H全国高校生フォーラム



全国のS G H校・S G Hアソシエイトの生徒等とポスター発表

S G U連携（立命館大学）



S G U立命館大学において、「イノベーション探究Ⅰ」課題研究発表会に向けた宿泊研修を実施



ソーシャル・イノベーションで挑むグローバル・リーダーの育成

～育む5つの力 価値創造力・協働力・突破力・寛容力・教養力～



課題研究『ソーシャル・イノベーション』

主題

総合的な学習の時間「イノベーション探究ⅠⅡⅢ」等を通して、「京」の
智恵を再発見し、グローバル・イシューに挑む新しい価値を創造する。

領域

地域研究領域

「京」と世界について地域課題・価値を発見し課題解決
京都ベンチャースピリッツの涵養

千年の都「京」の智の 価値再発見と創造

伝統・文化領域

生徒の主体的な学び

イノベーション探究
ⅠⅡⅢの展開

多様で実践的な学び

グローバル・コンピテンシーを高める教科横断的科目

グローバル・コミュニケーション

ソーシャル・インテリジェンス

京都の風土・世界の風土

新しい視座と高い言語能力を確立する戦略

京都府海外サテライト校留学

海外インタナショナル

海外勤務者帰国子女特別入学選抜

・英語で身につける戦略的スキルと多文化対話力（全学年）

・ICTスキルと社会的リテラシーの向上

・多角的にとらえる文化の多様性と複合性

・英語圏に設置した中等教育機関での中期留学を単位認定

・連携企業と短期雇用契約を結び海外事業所等でインターンシップ

・グローバルマインドをさらに伸ばす環境と実践

SGU

- ・京都大学
- ・京都工芸繊維大学
- ・大阪大学
- ・立命館大学

学術機関

- ・京都教育大学
- ・京都府立大学
- ・龍谷大学
- ・京都府立図書館
- ・京都府立総合資料館
- ・けいはんなオーブ・イノベーションセンター
- ・京都文化博物館

伝統・文化

- ・冷泉家時雨亭文庫
- ・裏千家
- ・末生流笹岡
- ・山ばな平八茶屋
- ・亀屋陸奥
- ・墨光堂

海外教育機関

- ・シンガポール国立大学
- ・タイ国立コンケン大学
- ・台南第一高級中学
- ・上海体育学院
- ・上海体育運動技術学院
- ・京都府海外サテライト校

企業・団体

- ・稲盛財団
- ・堀場製作所
- ・片岡製作所
- ・カルピス株式会社
- ・日本スポーツ振興センター
- ・国立スポーツ科学センター
- ・JICA関西

SGH

- ・京都府立嵯峨野高等学校
- ・名城大学附属高等学校

グローバルネットワーク京都校

- ・京都府立高等学校 7校

リベラルアーツ教育

「鳥羽の学びネットワーク」～学びの質・深まりを強化～

はじめに

京都府立鳥羽高等学校長 山塾 茂彦

平成 27 年度にスーパーグローバルハイスクールに指定していただいた本校 S G H 研究開発の第 4 年次は、指定期間完了までの工程だけでなく、その後の発展させた内容も視野に入れて研究開発に取り組んだ年度でありました。

学校現場においては、教育活動を精選しつつ体系化しながら、知識の習得と活用・探究のバランスを絶えず意識し、不断の努力を続けています。これまでの教職員アンケート結果推移を見ますと、論理的思考力・問題解決能力等の育成のためのイノベーション探究の取組、課題研究の効果的な手法としてのグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の取組に対する評価が、年を追うごとに高い数値となっています。指導者側に深く根付き、全校で浸透しているとの実感がもてるようになるには、一定の時間も必要であったことがわかります。本校で昨年開発した研究計画書は、研究アプローチの再構築を目的として、リサーチクエスションの検討や仮説再設定のプロセスを経て、最終的な研究主題設定に導くものでした。この計画書をベースにしたことによって、生徒と教師のどちらもが、「研究結果という型だけにとらわれるのではなく、研究の姿勢やプロセスこそが重要」という確たる認識をもつようになったと感じています。

京都を代表するグローバル企業である株式会社片岡製作所の御支援を得て実施している海外インターンシップは、その独創性と効果について高い評価を得ていますが、今年度新たに「学校外における学修の単位認定」の対象とする運びとなりました。今後は広範な高大社連携の柔軟な単位認定に係る研究に一層弾みをつけたいと考えています。「鳥羽の学びネットワーク」の一つ、冷泉家の御指導による古典和歌の授業では、創作や披講とともに、生徒による代表歌の英訳も取り入れ活動の幅を広げています。これらの活動の運営母体である鳥羽披講会が、平成 30 年度の文部科学大臣優秀教職員表彰を受賞しました。

価値創造力・協働力・突破力・寛容力・教養力の 5 つの力を育む種々の取組は、着実に成果を挙げています。第 2 回となる「鳥羽グローバル・サミット」は、海外大学生・留学生の参加が、昨年の 12 ヶ国・地域の 19 人から、今年は 21 ヶ国・地域の 33 人に拡大し、交流の規模や学びの深化という点でさらに充実したものになりました。2 期生を迎えた専門学科「グローバル科」では、S G H の研究成果を発展させた取組をとおしてグローバル人材育成に取り組んでいます。専門科目に取り入れたグローバル・キャリアパス・プログラムは、高社連携がもつ教育力の大きさと可能性に改めて気づかされる取組でありました。また、部活動では E S S が、パーラメンタリーディベートに初めて挑戦して、京都代表として全国大会に出場し善戦しました。

最終年次を前にして、次期学習指導要領への円滑な移行はもちろん、学校設定科目の教材化、社会の持続的な発展を牽引するための多様な力の育成など、挑戦していくべき事柄は多くあります。学校といましては、研究主題「ソーシャル・イノベーションで挑むグローバル・リーダーの育成」のもとに質の高い教育実践を行い、Society5.0 の新しい地平を見据え、全国の公立高等学校のモデルとなり得るような実践をたゆまず続けて行きたいと思います。本校のスーパーグローバルハイスクールの取組に関わっていただいたすべての方々に感謝申し上げますとともに、今後も引き続きお見守りくださり、御指導や御助言をいただきますようお願いし、巻頭の挨拶とさせていただきます。

目次

平成 30 年度スーパーグローバルハイスクール研究報告書

1 平成 30 年度 S G H 研究開発完了報告書（別紙様式 3）	1
2 鳥羽高校 S G H 事業の概要	
(1) 学校の概要	12
(2) 構想調書の概要	13
(3) 5 カ年研究開発計画・評価計画	15
(4) 平成 30 年度の取組状況	
ア 研究開発組織の概要	
(ア) 運営指導委員	18
(イ) 校内組織	18
イ 研究開発内容	19
ウ 成果	
(ア) 仮説の検証	34
(イ) 生徒の変容	35
(ウ) 教職員の変容	36
エ 次年度以降の課題	36
オ 資料	
(ア) 校内組織図・各グループの実施内容一覧	37
(イ) 仮説を検証するための指標	41
(ウ) 教職員アンケート結果	42
3 具体的な活動内容	
(1) 研究開発単位Ⅰ：総合的な学習の時間「イノベーション探究ⅠⅡⅢ」	
ア 総合的な学習の時間「イノベーション探究Ⅰ」（総合的な学習の時間・1年・1単位）	43
イ 総合的な学習の時間「イノベーション探究Ⅱ」（総合的な学習の時間・2年・1単位）	47
ウ 総合的な学習の時間「イノベーション探究Ⅲ」（総合的な学習の時間・3年・1単位）	53
(2) 研究開発単位Ⅱ：グローバル・コンピテンシーを高める教科横断的科目群	
ア 「グローバル・コミュニケーションⅠ」（学校設定科目・1年・3単位）	55
イ 「グローバル・コミュニケーションⅡ」（学校設定科目・2年・3単位）	61
ウ 「グローバル・コミュニケーションⅢ」（学校設定科目・3年・2単位）	67
エ 「ソーシャル・インテリジェンス」（学校設定科目・1年・2単位）	71
オ 「京都の風土・世界の風土」（学校設定科目・2年・2単位）	75
(3) 研究開発単位Ⅲ：新しい視座と高い言語能力を確立する戦略群	
ア 京都府海外サテライト校留学	79
イ 海外インターンシップ	
(ア) 韓国	80
(イ) 上海	82
(ウ) 台湾	84
(エ) 海外研修アンケート	86
ウ 海外の高校とのワークショップ	
(ア) 韓国・ハンヨン高校	89
(イ) 上海・上海市嘉定一中	90
(ウ) 台湾・台中市立台中工業高級中等学校	91
(エ) 台湾・高雄市天主教明誠高級中学、台湾・国立竹北高級中学	92

エ	鳥羽グローバル・サミット.....	93
(4)	研究開発単位Ⅳ：鳥羽の学びネットワークを活用したリベラルアーツ教育の研究開発	
ア	アクティブ・ラーニングを取り入れた公開授業・研究授業.....	97
イ	伝統・文化学習.....	98
ウ	グローバル思考力コンテスト.....	99
エ	S G U連携・大阪大学ワークショップ.....	100
オ	S G U連携・立命館大学宿泊研修.....	103
カ	J I C A 関西ワークショップ.....	105
キ	高大社連携事業.....	107
(5)	その他の取組	
ア	各種コンテスト参加	
(ア)	日本政策金融公庫「高校生ビジネスプラン・グランプリ」.....	108
(イ)	京都府教育委員会「グローバルネットワーク京都交流会」.....	110
イ	外国語教育	
(ア)	実用英語技能検定（英検）.....	112
(イ)	G T E C.....	113
(6)	成果の普及・広報	
ア	成果の普及・広報の実施状況.....	114
イ	S G H 事業研究発表会.....	115
ウ	S G H 教職員研修.....	117
	専門学科「グローバル科」、学校設定教科「グローバル」.....	118
	第1回S G H 運営指導委員会.....	120
	第2回S G H 運営指導委員会.....	123
	各研究グループの業務内容・担当者一覧.....	127
	S G H 事業に関する生徒アンケート結果.....	131
	平成30年度教育課程.....	140

(別紙様式3)

平成31年3月29日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所	京都市下京区中堂寺命婦町1-10
管理機関名	京都府教育委員会
代表者名	教育長 橋本 幸三 印

平成30年度スーパーグローバルハイスクールに係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

平成30年4月2日（契約締結日）～平成31年3月29日

2 指定校名

学校名 京都府立鳥羽高等学校

学校長名 山埜 茂彦

3 研究開発名

ソーシャル・イノベーションで挑むグローバル・リーダーの育成

4 研究開発概要

平成30年度はSGH対象を第1・2学年全員と第3学年の3クラスとし、平成29年度の529名から764名へと対象生徒を増やした。

平成29年度までのSGH海外研修の成果を踏まえ、学校設定教科「グローバル」における学校設定科目として「海外インターンシップ」を教育課程内に位置づけ、単位認定を行った。

SGHの取組を踏まえて開講した専門学科「グローバル科」を中心に、総合的な学習の時間「イノベーション探究ⅠⅡⅢ」を核とし、学校設定教科「グローバル」内に設置した学校設定科目「ソーシャル・インテリジェンス」・「京都の風土・世界の風土」や、「グローバル・コミュニケーションⅠⅡⅢ」との教科横断的な取組を推進した。

本校生とシンガポール国立大学、復旦大学（上海）、SGU京都大学への留学生等による国際会議「鳥羽グローバル・サミット」を開催し、SDGsの達成に向けた提言を英語で行った。

本校生徒による中学生対象のSGH課題研究ワークショップを開催する等、成果普及に取り組んだ。

5 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	業務日程（月）											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
グローバルネットワーク京都事業 ・グローバルネットワーク京都交流会												
府立高校生グローバルチャレンジ事業 ・説明会、オリエンテーション ・エディンバラ語学研修 ・オーストラリア語学研修 ・短期留学チャレンジ												
府立高校海外サテライト校事業 ・オーストラリア留学（夏期） ・オーストラリア留学（冬期）												
SGH推進委員会												
SGH運営指導委員会												

(2) 実績の説明

グローバルネットワーク京都事業は、探究的・体験的・実践的学習により国際社会に貢献できるリーダーの育成を目指し、平成25年度から京都府が独自に実施している事業である。府立高校47校のうち9校を指定し、鳥羽高校は、その幹事校として事業の牽引役を担っている。中心となる事業としてグローバルネットワーク校生徒が課題研究の成果を発表し合う「グローバルネットワーク京都交流会」を参加者400名規模で年1回開催しており、鳥羽高校は、管理機関と協働し、企画・立案・運営に携わり、ネットワーク事業の普及に尽力した。また、京都府が実施している府立高校生グローバルチャレンジ事業において、鳥羽高校からは、夏季休暇中に4週間程度の語学研修を行うエディンバラ語学研修に2年生3名、同じく夏季休暇中に2週間程度の語学研修を行うオーストラリア語学研修に1年生3名、また、英語圏での短期留学を支援する海外短期留学チャレンジ事業において、2年生1名を派遣した。

さらに府立高校海外サテライト校事業では、鳥羽高校から1年生1名、2年生1名をオーストラリアに派遣した。これは2～4ヶ月程度の中期留学を行うものであり、2年生は8月下旬から12月下旬にかけて、また1年生は1月下旬から3月下旬にかけて現地の公立の中等教育学校で現地の生徒と同じ授業を受けた。加えて、現地校で学習した内容について、4ヶ月程度の留学については8単位を、2ヶ月程度の留学については4単位を単位認定することとした。

これらの海外での語学研修において、より高い語学力、コミュニケーション能力を身に付けさせるとともに、国際感覚を育み、異文化理解を体感させることで、鳥羽高校が目指すグローバル人材の育成を支援した。

研究計画の作成や教育課程の編成においては、海外インターンシップの単位認定に向け、指導主事等が指導・助言を行い、SGH事業の有効な運用に向け支援を行った。

また、運営指導委員会において、学識経験者の委員からの指導とともに、教育委員会からも、研究開発の取組内容に関する指導・助言を行った。

なお、年間を通してSGHの対象となった生徒数は1年生320名（グローバル科80名・普通科240名）、2年生320名（グローバル科81名・普通科239名）、3年生普通科124名である。

6 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目		実施期間（契約日～平成31年3月29日）											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①	イノベーション探究ⅠⅡⅢ												→
	学校設定科目												→
②	京都府海外サテライト校留学									→	→	→	→
③	海外インターンシップ					→		→		→	→		
	海外の高校・大学とのワークショップ												
④	運営指導委員会の開催						—					—	
⑤	成果の公表・普及・成果発表会												→
⑥	グローバル・リーダー育成推進会議												→
⑦	研究開発実施報告書の作成										→	→	→

(2) 実績の説明

ア 研究開発の実施規模

1年生全員 320名（グローバル科 80名・普通科 240名）、2年生全員 320名（グローバル科 81名・普通科 239名）、3年生普通科 124名

イ 研究開発単位Ⅰ：総合的な学習の時間「イノベーション探究ⅠⅡⅢ」（業務項目①）

(ア) 「イノベーション探究Ⅰ」（1単位）

- ・「京の智」を再発見するために、伝統・文化領域における地域再発見プログラムをと
おして課題研究を実施するとともに、「京の智」を発信することにより価値再認識能
力を高めた。
- ・立命館大学、福知山公立大学、京都光華女子大学、京都文化博物館、京都府立図書館
と連携した取組を行った。立命館大学びわこ・くさつキャンパスにおいて、課題研究
宿泊研修を実施した。
- ・平成31年2月23日（土）に課題研究発表会を行い、校外から指導及び助言を受けた。
- ・成果物として、課題研究校内発表会の発表資料及び生徒間の相互評価を記載した実践
報告書を作成した。

(イ) 「イノベーション探究Ⅱ」（1単位）

- ・1年次の地域再発見プログラムで培った地域文化の価値の再発見・発信力を研鑽する
ために、正義論への入門プログラムである「グローバル・ジャスティスプログラム」
を実施した。
- ・グローバル伝統・文化、エリアスタディ、グローバル・サイエンスの3領域から1つ
を選択させ、賛否両論となる社会課題についてグループ協働で課題研究を実施した。
- ・大学から専門性の高い指導を継続して受けつつ、課題発見から研究発表に至る一連の
課題研究を深化させるために大阪大学と連携し、アカデミック・ライティング等の研
修を実施した。また、京都大学、福知山公立大学、京都光華女子大学の准教授・TA
や、京都大学、京都工芸繊維大学等で学ぶ外国人留学生と連携した取組を行った。
- ・平成30年11月15日（木）に開催したSGH事業研究発表会において、全国のSGH
校、SGHアソシエイト、SGU及び本校1年生等を対象に課題研究内容に関するポ
スターセッションを英語・日本語で行い外部評価を受けた。
- ・成果物として、ポスターセッションの資料及び生徒間の相互評価や外部評価をまとめ
た実践報告書を作成した。
- ・今年度からSGH対象を1・2年生全員に広げ、普通科における「総合的な学習の時

間」において、専門学科「グローバル科」の生徒を対象とした「イノベーション探究ⅠⅡ」に準じる内容を実施した。

(ウ) 「イノベーション探究Ⅲ」 (1単位)

- ・2年次に取り組んだグローバル・イシューに関する課題研究内容について英語論文の作成に取り組み、成果物集を作成した。
- ・平成30年7月11日(水)から15日(日)に開催した「鳥羽グローバル・サミット」において、シンガポール国立大学や復旦大学(上海)の大学生、きょうと留学生ハウスの学生との英語によるディスカッションをとおして研究内容を深め、グローバル・イシューの解決に向けた提言発表を行った。

ウ 研究開発単位Ⅱ：グローバル・コンピテンシーを高める教科横断的科目群(業務項目①)

課題分析能力、多文化協働力、実践的英語コミュニケーション能力を向上させるために、課題研究を核とした教科横断的な学校設定科目の学習をとおして、グローバル・コンピテンシーを高める取組を実施した。海外の大学生・高校生、京都在住の留学生T Aと計画的・継続的に連携しながら、各授業を行った。

(ア) 「グローバル・コミュニケーションⅠ」 (3単位)

英語で表現する力を向上させるために、「イノベーション探究Ⅰ」の伝統・文化領域の課題研究内容についての英語でのプレゼンテーションやディスカッションを行った。

(イ) 「ソーシャル・インテリジェンス」 (2単位)

課題研究に関して、ICT機器を用いたデータの収集・分析、結果を解釈する能力を向上させる取組を行った。

(ウ) 「グローバル・コミュニケーションⅡ」 (3単位)

「イノベーション探究Ⅱ」のテーマについて英語でディスカッション等を行い、批判的思考力を育成した。

(エ) 「京都の風土・世界の風土」 (2単位)

「イノベーション探究Ⅱ」のグローバル伝統・文化領域と関連し、異なる地域の関係性を見いだす力を身につけさせた。

(オ) 「グローバル・コミュニケーションⅢ」 (2単位)

「イノベーション探究Ⅲ」と関連し、英語論文作成に必要な表現や構成等、アカデミック・ライティングの学習に取り組んだ。

エ 研究開発単位Ⅲ：新しい視座と高い言語能力を確立する戦略群

多文化協働力、教養力、多角的視座、実践的英語コミュニケーション能力等を育成するために、国内外における鳥羽の学びネットワークと連携した教育活動を実施した。

(ア) 海外サテライト校留学(業務項目②)

海外で生活しながら行う多様な学びにより、異文化理解を深め、多面的・多角的な課題分析・解決能力を養う。オーストラリア中期留学へ2名が参加した。

(イ) 海外インターンシップ(業務項目③)

多文化協働力等を育成するために、片岡製作所、堀場製作所、三菱UFJ銀行上海支店、上銀科技股份有限公司等のグローバル企業と連携し、韓国ソウル、上海、台湾、シンガポールにおいてインターンシップを実施した。

(ウ) 海外の高校とのワークショップ(業務項目③)

様々な価値観や考え方を学ぶことで多角的な視座と多文化協働力を育成するために、上海市嘉定一中、韓国・ハンヨン高校、台中市立台中工業高級中等学校等との協働による課題研究、海外でのフィールドワーク等を行った。

(エ) 海外大学とのワークショップ（業務項目③）

多文化協働力等の育成に加え、海外の大学生から課題研究の手法等を学ぶために、7月に「鳥羽グローバル・サミット」を開催した。シンガポール国立大学、復旦大学（上海）、きょうと留学生ハウスの学生とともに「イノベーション探究Ⅲ」の課題研究内容に関する提言、学校設定科目「グローバル・コミュニケーションⅠⅡ」等における協働学習、KYOTOフィールドワークをとおした「イノベーション探究ⅠⅡ」の課題研究内容の深化に取り組んだ。12月には國立台湾大学において、伝統・文化領域の課題研究の現地調査や英語による課題研究の成果発表を行った。

オ 研究開発単位Ⅳ：鳥羽の学びネットワークを活用したリベラルアーツ教育の研究開発（業務項目⑤）

(ア) アクティブ・ラーニングの実践

平成30年度は「アクティブ・ラーニングの研究・実践～批判的思考（クリティカル・シンキング）」を学校全体のテーマと定め、1学期に公開授業、2学期に研究授業を実施し、各教科内で研究協議を行った。また、11月15日（木）のSGH事業研究発表会において1・2年生の全授業を公開し、校外よりフィードバックを受け、授業改善に取り組んだ。

(イ) JICA関西ワークショップ

専門的見地を有するJICA職員より指導・助言を受けて課題研究内容を深化させるために、7月27日（金）に本校にてワークショップを実施し、88名が参加した。

(ウ) 各種コンテストへの参加

課題研究の成果発表と深化を目的として、日本政策金融公庫「高校生ビジネスプラン・グランプリ」に22名、SGH甲子園に4名の生徒が参加した。

(エ) グローバル・思考力コンテスト

資料等の分析能力、批判的思考力、課題解決能力、協働力の育成を目的として、1月31日（木）に1・2年生全員対象のグループ対抗による課題解決方法を提案するコンテストを実施した。生徒間の相互評価を行うなど、ピア・ラーニングを推進した。

(オ) 京都府教育委員会「グローバルネットワーク京都交流会」

2月2日（土）に、グローバル教育を推進する府立9校の交流会に幹事校として参加した。SGH台湾海外研修の参加者が課題研究内容について英語でプレゼンテーション、「イノベーション探究Ⅱ」の3グループが課題研究内容についてポスターセッションを行った。

(カ) ユネスコスクール

京都外国語大学から指導を受け、チャレンジ期間を終了し、加盟申請を行った。

カ 運営指導委員会の開催（業務項目④）

専門的見地から指導・助言を受け、SGHの研究開発内容を改善するために、第1回を9月28日（金）、第2回を2月13日（水）に実施した。指導・助言内容を受け、以後のアクション・プランを作成し、部長会議等をとおして学校全体で情報共有した。

キ 成果の普及・広報・成果発表会（業務項目⑤）

・11月11日（日）にSGU大阪大学全学教育推進機構主催の「学問への扉」開設記念シ

ンポジウム「初年次教育の再構築－新しい形の高大接続と大学初年次教育を考える－」において、大阪大学と連携したSGHの研究開発内容について本校教員が発表した。

- ・中学生を対象としたSGH課題研究ワークショップを10月27日(土)、12月15日(土)に開催。京都府全域の69校から104名の中学生が参加し、本校生徒がTAとして中学生への課題研究の指導を行った。
- ・「イノベーション探究Ⅲ」英語論文集・「イノベーション探究」実践報告書を作成・配布・英語版ホームページを107回、日本語版を95回更新、TOBA SGH NEWSを3回発行、研究発表会等を13回実施（SGH事業研究発表会等）
- ・7月4日(水)に京都府立高校の教職員を対象としたSGH教職員研修を実施。鳥羽の学びネットワークを活用し、京都光華女子大学准教授である乾明紀氏とともに「イノベーション探究Ⅱ」における課題研究の指導方法を共有
- ・京都府外の学校訪問の受入れ8回（東京都立三田高校、長崎県議会文教厚生委員会現地調査、青森県深い学び研究協議会（地歴公民部会）、福岡市立福翔高校、新潟県立国際情報高校、岡山県立玉野光南高校、兵庫県立須磨東高校、滋賀県立守山高校）。SGH校に加え、SGH校以外の高校へも課題研究の指導法や独自教材を普及

ク グローバル・リーダー育成推進会議（業務項目⑥）

SGH事業を学校体制で行うために、担当副校長、グローバル育成推進部より3名、研究グループ主任等5名、事務部1名が、各グループの研究開発の進捗状況や今後の工程、課題と改善方法について週1回、年間計29回会議を開催した。会議資料は分掌内で供覧するとともに、部長会議・職員会議で情報共有を行った。

ケ 研究開発実施報告書の作成（業務項目⑦）

年度末に研究開発実施報告書を作成した。

7 目標の進捗状況、成果、評価

(1) 目標の進捗状況

活動指標（アウトプット）については、課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した数が前年度の131回から241回へ増加した。帰国・外国人生徒の受入れ者数が指定初年度7名、前年度9名、本年度10名と着実に増加している。次年度はさらにアジア高校生架け橋プロジェクトをとおして2名の留学生を受け入れる予定である。先進校としての研究発表会を13回行い、成果普及に取り組んだ。また、成果目標（アウトカム）については、公的機関から表彰された生徒数が前年度の2名から7名に増加した。なお、卒業生への調査を本年度から実施し、SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合は52.1%であった。

(2) 成果及び評価

ア 授業アンケート

仮説検証の基礎資料として、「イノベーション探究ⅠⅡⅢ」と4つの学校設定科目において独自作成のループリック評価を行うとともに、生徒によるアンケート評価を実施した。グローバル・リーダーとして育む5つの力や、課題研究に必要とされる能力を定量的に評価しつつ、アクティブ・ラーニングへの指導法転換に継続的に取り組んだ。

イ 生徒の変容

全学年を対象として年2回継続実施している「SGH事業に関する生徒アンケート」により、SGH事業による生徒の変容を定量的に評価した。

3年生については前年度と今年度の第2回に実施した結果について「4 そう思う」と「3 ややそう思う」の肯定的評価を比較すると、全20質問中11質問で上昇が見られた。特に、グローバル・リーダーとして育む5つの力に関する質問11から質問20のうち8質問が上昇し、研究開発中の教育課程、「イノベーション探究ⅠⅡⅢ」における課題研究を核とした取組が、5つの力の育成に効果的であるという前年度と同様の検証結果となった。

2年生については、前年度と今年度の第2回に実施した結果について「4 そう思う」と「3 ややそう思う」の肯定的評価を比較すると、全20質問中15質問で数値が上昇した。質問13「異なる価値観を持つ人とコミュニケーションを取ることができる」が9.2%と最も高く上昇し、次いで質問20「読書や様々な体験をとおして、幅広い教養を身につけようとしている」が7.0%、質問4「高校・大学卒業後に、海外で仕事をしたり、国際的に活躍したい」が5.8%上昇した。SGHの取組をとおして、生徒の異文化コミュニケーション能力や教養力が育成され、また、グローバルなキャリア観が育成された。

1年生については、今年度の第1回と第2回に実施した結果、全体で全20質問のうち6質問、専門学科グローバル科では16質問で上昇が見られた。1年生全体では質問2「高校生として、自主的に留学または海外研修に行きたい」が7.5%、グローバル科では、質問1「自主的に社会貢献や自己研鑽活動に取り組んでいる」が12.4%とそれぞれ最も大きく上昇した。各学科の特性を活かしつつ、国内外の大学生・高校生、グローバル企業等の鳥羽の学びネットワークと連携した取組をとおして、自主性を育むとともに、社会に開かれた学びを推進することができた。

ウ 教職員の変容

「SGH事業に関する教職員アンケート」を平成27年度は年1回、平成28年度以降は年2回、継続的に実施している。10項目・各4点満点の平均値が平成27年度1月は1.8であったのに対し、平成30年度第1回は3.4、第2回は3.5と着実に増加している。質問10「校外向けの発表会や説明会・HP・パンフレット等を用いて、研究成果の普及に積極的に取り組んでいる」の平均値が3.8と最も高く、全教職員で分担しながら発表会等に取り組んだ成果がみられた。また、質問1「学校全体として体制を整え、組織的に取り組んでいる」の平均値が3.7と高く、1人1役を全教職員が担い、働き方改革を推進しながら4年間SGH事業を推進してきた成果がみられた。

エ 仮説の検証

SGH中間評価を受け、PDCAサイクルをさらに機能的にさせるために、運営指導委員会等によるフィードバックを受けつつ、鳥羽高校独自で作成した「仮説を検証するための指標」を用いながら仮説の検証を継続している。なお、検証方法については、独自のルーブリック、生徒への相対的成長実感を問うアンケート、学校設定教科・科目履修生徒のCEFRレベル、校内・校外からの評価など、多様な方法を取り入れている。

各指標における4点満点のA・B評価については、仮説1が4.00、仮説2が3.33、仮説3が4.00と前年度同様に高い数値となった。また、A評価のみを前年度と比較すると、仮説1が1.92から2.17、仮説2が2.75から3.08と上昇し、仮説3が昨年度と同じ2.33と

なった。

仮説 1 については、「イノベーション探究ⅠⅡⅢ」と学校設定科目の横断的取組が効果的に機能しており、特に、前年度と比較して、総合的な学習の時間「イノベーション探究Ⅰ」の A 評価が 38.6%から 45.8%、「イノベーション探究Ⅱ」の A 評価が 24.1%から 48.1%に上昇するなど、SGU 大阪大学等との連携や運営指導委員による指導・助言をとおした教材開発と指導方法の改善が成果に結びついた。また、SGH 中間評価を受け、教科横断的な取組をさらに推進したこと、アクティブ・ラーニングを軸とした活動をさらに多く取り入れたことも成果に結びついた。

仮説 2 については、前年度と比較して、SGH 海外研修参加者の実用英語技能検定準 2 級以上の取得状況が 65.3%から 72.4%に上昇するなど、英語を用いた現地調査等の事前学習と外国語学習を効果的に関連づけることができた。また、SGH の取組を発展させて平成 29 年度に開講した専門学科「グローバル科」と普通科の 2 年生の実用英語技能検定取得者の割合を比較すると、グローバル科の生徒は普通科の生徒よりも CEF R の A 2 レベルでは 40.2%、B 1 レベルでは 26.2%高く、海外において課題研究の調査や海外の大学生等と協働学習を行うことや、国内において鳥羽グローバル・サミット等の国際会議に向けた取組を行うことが、生徒のグローバル・マインドセットの涵養につながることを裏付けできた。

仮説 3 については、前年度と比較して、SDG s をテーマとしたグローバル思考力コンテストの A 評価が 38.1%から 46.0%に上昇するなど、グローバル社会の課題に関心を持ちつつ、チームで課題解決に取り組む力が向上した。また、JICA 関西や日本政策金融公庫と連携した取組については肯定的評価がそれぞれ 90.5%、93.8%となるなど、鳥羽の学びネットワークと連携しつつ、グローバルな視点から社会に開かれた教育課程の研究開発を進めることができた。

8 次年度以降の課題及び改善点

(1) アジア高校生架け橋プロジェクトをとおしたグローバルで多様な学習環境の整備

2 名の留学生をアジアから受け入れることで、多くの生徒が英語を用いて海外の高校生とともに課題研究等の協働学習を行える環境を整備し、グローバルなマインドを育成する。

(2) 成果普及の取組の推進

鳥羽グローバル・サミットの取組を発展させ、これまで参加した海外の大学生に加え、京都府教育委員会グローバルネットワーク京都 9 校間で連携した国際会議を開催する。今年度実施した中学生対象の SGH 課題研究ワークショップを拡充し、小学生対象の SGH 課題研究ワークショップを行う。また、4 年次までに作成した「イノベーション探究ⅠⅡⅢ」の年間指導計画・教材集に加え、「京都の風土・世界の風土」についても教材集を作成し、HP 上での公開をとおしてオープン・リソース化する。

(3) ICT を用いた英語教育の推進

CEF R の B 1 レベルに到達した生徒の割合を今年度の 12.5%から次年度は 50%に上昇させるため、ICT を用いたオンラインによる個別最適化された英語教育を推進する。

【担当者】

担当課	京都府教育庁指導部高校教育課	T E L	075-414-5859
氏 名	星野 詠志	F A X	075-414-5847
職 名	指導主事	e-mail	e-hoshino41@pref.kyoto.lg.jp

ふりがな	きょうとふりつとばこうとうがっこう	指定期間	27～31
学校名	京都府立鳥羽高等学校		

平成30年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数								
a	SGH対象生徒:		43人	185人	230人	295人	人	972人
	SGH対象生徒以外:	125人	147人	221人	339人	128人	71人	人
目標設定の考え方: 生徒が自主的・主体的に取り組めるような課題の意識付けを積極的に行い、90%以上の達成を目指す。								
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数								
b	SGH対象生徒:		24人	31人	60人	58人	人	324人
	SGH対象生徒以外:	6人	13人	9人	0人	1人	0人	人
目標設定の考え方: 留学・海外研修ガイダンスを実施し、より多くの生徒が自主的に留学・海外研修に行く環境を整備する。								
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		78%	52%	61%	56.3%	%	95%
	SGH対象生徒以外:	18.9%	25.6%	44%	36%	42%	43.6%	%
目標設定の考え方: 海外研修やSGU留学生等との協働学習を通して生徒の意識を高める。								
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数								
d	SGH対象生徒:		5人	4人	2人	7人	人	108人
	SGH対象生徒以外:	6人	17人	5人	1人	1人	0人	人
目標設定の考え方: 参加大会を増やし、HEnDA高校生英語ディベート大会やビジネスプラン・グランプリの入賞を目指す。								
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合								
e	SGH対象生徒:		5.0%	7.8%	8.1%	12.5%	%	95%
	SGH対象生徒以外:	0.4%	0.6%	2.3%	4.2%	3.8%	6.1%	%
目標設定の考え方: 英検など外部検定試験の受検を促しつつ、E-learningなど自主的に語学学習に取り組む環境を整備する。								
(その他本構想における取組の達成目標)								
f	SGH対象生徒:							
	SGH対象生徒以外:							
目標設定の考え方:								

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	0人	13人	33人	387人	379人	374人	人	380人
目標設定の考え方: 28年度から2年生360人全員が海外で課題研究を行い、さらに20人が自主的に別の海外研修に参加する。								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	0人	50人	167人	407人	602人	762人	人	400人
目標設定の考え方: 校外で行われる研修会を積極的に紹介し、その参加を促す環境作りを行う。								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	0校	5校	7校	9校	9校	15校	校	20校
目標設定の考え方: H28年度からは海外研修を実施し、海外大学や海外パートナー高校との連携をさらに深めていく。								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	0回	12回	58回	180回	131回	241回	回	300回
目標設定の考え方: SGUとの高大連携をさらに推進し、大学教員、留学生やTAとの課題研究を行う体制を整備する。								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	0人	12回	58回	47回	260回	203回	回	30回
目標設定の考え方: 片岡製作所にて海外インターンシップを実施するなど、「鳥羽の学びネットワーク」との連携を拡充する。								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	362人	362人	387人	266人	258人	270人	人	560人
目標設定の考え方: 現在の取組に加えて、The Global Enterprise Challengeなど国内外の公益性高い大会に出場する。								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	8人	11人	7人	6人	9人	10人	人	30人
目標設定の考え方: 海外帰国子女特別入学者選抜を継続実施すると共に、京都府海外サテライト校から留学生を受け入れる。								
先進校としての研究発表回数								
h	2回	6回	8回	11回	13回	13回	回	10回
目標設定の考え方: SGH、SGU、運営指導委員、中学関係者、保護者、地域などに広く研究成果を発表する。								
外国語によるホームページの整備状況								
i	○整備されている △一部整備されている ×整備されていない							
	×	○	○	○	○	○		○
目標設定の考え方: 26年度に外国語のホームページを整備した。国内外への成果普及を英語で継続的に行う。								
京都の伝統・文化をグローバル社会に普及することを目的とした国際交流に参加した人数								
j	40人	365人	427人	481人	643人	640人	人	720人
目標設定の考え方: 冷泉家披露、茶道、華道などを通して海外パートナー校と交流し、京都の伝統・文化を世界に発信する。								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全校生徒数(人)			1,080	1,037	1,000	960	
SGH対象生徒数			120	205	529	764	
SGH対象外生徒数			960	832	471	196	

1. 本構想において実現する成果目標の設定(アウトカム)の内訳	
b 自主的に留学又は海外研修に行く生徒数	グローバルチャレンジ事業海外短期留学7人(オーストラリア3人、エディンバラ3人、マルタ共和国1人)、京都府教育委員会サテライト校事業留学2人(オーストラリア2人)、日韓高校生交流(派遣)事業1人、SGH海外研修29人(韓国10人、上海10人、台湾9人)、京都府高校生による陝西省訪問プログラム9人、アメリカ留学1人、グローバル・セミナー9人
d 公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数	税に関する高校生の作文 下京税務署長賞1人、下京納税協会会長賞1人、京都市下京区・南区租税教育推進協議会会長賞1人、PDA京都高校生即興型英語ディベート交流大会2位4人
2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標(アウトプット)の内訳	
a 課題研究に関する国外の研修参加者数	グローバルチャレンジ事業海外短期留学7人(オーストラリア3人、エディンバラ3人、マルタ共和国1人)、京都府教育委員会サテライト校事業留学2人(オーストラリア2人)、日韓高校生交流(派遣)事業1人、SGH海外研修29人(韓国10人、上海10人、台湾9人)、上海研修41名、シンガポール研修276名、京都府高校生による陝西省訪問プログラム9人、グローバル・セミナー9人
b 課題研究に関する国内の研修参加者数	国立民族学博物館フィールドワーク81人、京都文化博物館ワークショップ80人、JICA関西ワークショップ88人、大阪大学ワークショップ162人、福知山公立大学ワークショップ160人、京都光華女子大学ワークショップ161人、株式会社片岡製作所インターシップ30名
c 課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数	高雄市天主教明誠高級中学、シンガポール国立大学、復旦大学、ハンヨン高校、国立竹北高級中学、上海市嘉定一中、台中市立台中工業高級中等学校、國立台湾大学、マドラス・アルジュニード高校、西安外国語大学、西安外国語大学付属西安外国語学校、西安交通大学附属中学校、西北大学、Pioneer High School、カリフォルニア大学バークレー校
d 課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)	京都光華女子大学6、福知山公立大学24、大阪大学・大学院28、京都大学・大学院26、京都工芸繊維大学・大学院10、シンガポール国立大学20、復旦大学10、京都府立大学3、同志社大学1、立命館大学8、京都橘大学1、龍谷大学1、京都美術工芸大学1、國立台湾大学18、第16回高大連携教育フォーラム参加者41、西安外国語大学26、西北大学13、カリフォルニア大学バークレー校4
e 課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)	京都文化博物館3、国立民族学博物館1、株式会社コミュニティ・ラボ2、JICA関西4、一般財団法人自治体国際化協会(CLAIR)ソウル事務所5、株式会社韓国片岡8、京都南ロータリークラブ11、京都南ロータリーアクトクラブ8、株式会社日本政策金融公庫3、京都府立図書館2、公益財団法人 冷泉家時雨亭文庫4、裏千家7、未生流笹岡1、独立行政法人日本貿易振興機構(ジェトロ)上海事務所1、上海片岡貿易有限公司3、株式会社三菱UFJ銀行上海支店3、ジエールアカデミア株式会社1、株式会社和える1、株式会社エージェンシーアシスト1、Nisai Virtual Academy2、独立行政法人日本貿易振興機構(ジェトロ)2、株式会社堀場製作所1、小川珈琲株式会社1、株式会社桂建材店1、京都府商工労働観光部経済交流課1、京都中小企業家同友会50、台湾片岡股份有限公司5、上銀科技股份有限公司5、バンク・オブ・アメリカ1、きょうと留学生ハウス2、京都府名誉友好大使21、京都青果合同株式会社1、大成印刷紙業株式会社1、HORIBA Instruments (Singapore) Pte Ltd7、株式会社みずほ銀行シンガポール支店6、JTBシンガポール・インバウンド支店1、IBM Global Services Pte Ltd3、Leeden National Oxygen Ltd3、SHINOBI SAUCE PTE LTD3、Albirex Singapore PTE LTD2、株式会社松栄堂4、株式会社岡墨光堂1、株式会社ジェイアール西日本ホテル開発1、株式会社片岡製作所7、オートデスク株式会社2
f グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数	京都府教育委員会グローバルネットワーク京都論文コンテスト169人、第6回高校生ビジネスプラン・グランプリ22人、税に関する高校生の作文40人、環境保全高校生論文コンクール31人、SGH全国高校生フォーラム4人、SGH甲子園4人
g 帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む)	海外勤務者帰国子女特別入学者選抜9人、留学生1人
h 先進校としての研究発表回数	大阪大学全学教育推進機構主催「学問への扉」開設記念シンポジウム1回、日本ESD学会第2回近畿地方研究会1回、京都府教育委員会グローバルネットワーク京都交流会1回、グローバル科説明会1回、学校説明会3回、SGH事業研究発表会1回、SGH全国高校生フォーラム1回、高大社連携フューチャーセッション1回、第16回高大連携教育フォーラム1回、「イノベーション探究I」課題研究発表会1回、SGH甲子園1回
i 外国語によるホームページの整備状況	平成26年度から外国語によるホームページを開設
j 京都の伝統・文化をグローバル社会に普及することを目的とした国際交流に参加した人数	1年生320人(グローバルカフェ、華道パフォーマンス等) 2年生320人(グローバルカフェ、海外研修等)

2 鳥羽高校SGH事業の概要

(1) 学校の概要

1 学校名・校長名

- (1) 学校名 京都府立鳥羽高等学校
(2) 校長名 山埜 茂彦

2 所在地・電話番号・FAX番号・URL

- (1) 所在地 京都市南区西九条大国町1
(2) 電話番号 075-672-6788
(3) FAX番号 075-691-7448
(4) URL <http://www.kyoto-be.ne.jp/toba-hs/>

3 課程・学科・学年別生徒数・学級数及び教職員数

- (1) 課程・学科・学年別生徒数・学級数（平成30年5月1日現在）

課程	学科	第1学年		第2学年		第3学年		計	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
全日制	普通科	240	6	239	6	320	8	799	20
	グローバル科	80	2	81	2	—	—	161	4

- (2) 学科・専攻・コース

学年	普通科					専門学科
1年	スポーツ総合専攻	文科スポーツコース	理数人文コース	—	—	グローバル科
2年	スポーツ総合専攻	文科スポーツコース	理数人文コース	—	—	グローバル科
3年	スポーツ総合専攻	文科スポーツコース	理数人文コース	理数人文 グローバルコース	—	—

- (3) 教職員数（平成30年5月1日現在）

職名	校長	副校長	事務長	教諭	講師	養護教諭	事務職員	学校図書館司書	実習助手	技術職員	計	カウンセラー	校医・校歯科医	校薬剤師	非常勤職員
計	1	2	1	67	2	5	1	2	3	84	7	10			

(2) 構想調書の概要

指定期間		ふりがな		きょうとふりつとばこうとうがっこう			②所在都道府県		京都府		
27～31		① 学校名		京都府立鳥羽高等学校							
③対象学科名		④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模				
		1 年		2 年		3 年		4 年		計	
		362		353		351				1066	
										3 年 351 人	
⑥研究開発構想名		ソーシャル・イノベーションで挑むグローバル・リーダーの育成									
⑦研究開発の概要		リベラルアーツ教育を基軸に、国内外の学術機関や企業等と連携した鳥羽の学びネットワークを活用して、グローバル・イシューに挑む新しい価値創造を目指す課題研究「ソーシャル・イノベーション」により、価値創造力・協働力・突破力・寛容力・教養力を備えたグローバル・リーダーを育成する教育システムを研究開発する。									
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	(1) 目的・目標 ＜目的＞ 未来を見すえた新たな価値を創り出す価値創造力、異文化コミュニケーションを通じて課題に取り組む協働力、困難な課題と向き合い解決する突破力、多様な価値観を尊重する寛容力、幅広い見識を持ち広い視野で社会を俯瞰する教養力を備え、持続可能な豊かな社会を創造することに貢献するグローバル・リーダーを育成する。 ＜目標＞ ① 京都や世界の智慧を多面的に考察し、再認識して新たな価値を創造し発信する。 ② 異なる文化背景を持つ人々と課題解決に向けて、主体的・協働的に取り組む。 ③ オープンエンドの問いを多角的にとらえ、解決の糸口を見いだす。 ④ 多文化社会において価値観の違いを理解し、共生できる能力を身につける。 ⑤ 地球規模で考え、行動するための基盤となる豊かな教養を身につける。									
		(2) 現状の分析と研究開発の仮説 本校は明治 33 年に創立された旧制京都第二中学校の伝統を継承する普通科の公立高校であり、冷泉家時雨亭文庫常務理事冷泉貴実子氏による和歌の作成・披講の指導や、論理的思考力を育成する独自の思考力コンテストを実施している。また、SGHアソシエイト校として、グローバル人材育成を目指して、生徒の海外派遣及び他国からの高校生受入れや、積極的な社会参画を促すシティズンシップ教育を推進している。その一方で、武道・スポーツ活動が盛んで、健康・スポーツ領域に関する生徒の意識が高い。これらが、自律する人間を育成する「鳥羽式文武両道」として府民から高い評価を得ている。しかし、現状では、これらの取組は対象や活動規模が限定したものとなっている。これを克服し、より大きな視野で活躍するグローバル・リーダーの育成を目指し、次の仮説に基づく研究開発を行う。 仮説 1：総合的な学習の時間「イノベーション探究ⅠⅡⅢ」及び学校設定科目「グローバル・コミュニケーションⅠⅡⅢ」等は、課題の発見・分析能力、多文化協働による主体的な課題解決能力を高める手段として有効である。 仮説 2：京都府海外サテライト校への中期留学等の方策は、新しい視座と高い言語能力を確立する上で有効である。 仮説 3：鳥羽の学びネットワークを活用したリベラルアーツ教育は、広い視野でグローバル社会を俯瞰できる教養力を育成するために有効である。									

⑧-2 課題研究	(3) 成果の普及 ・ グローバル・サミットを平成 29 年度より実施。英語による課題研究発表、論文集作成。 ・ 文部科学省 S G H ホームページ、本校ホームページ、京都府教育委員会主催「グローバルネットワーク京都交流会」にて発表。
	(1) 課題研究内容 S G H アソシエイト校として、鳥羽の学びネットワークと連携・推進してきた多様で高度な教育活動を活用し、教科科目を体系化するリベラルアーツ教育を基軸とし、グローバル・コンピテンシーを高める教科横断的科目や、海外インターンシップなどの戦略的手法による多様で実践的な学びを、総合的な学習の時間「イノベーション探究ⅠⅡⅢ」を核とする生徒の主体的な学びに一体化させつつ、目標を達成する。 (2) 実施方法・検証評価 ＜実施方法＞ 1 年次：グローバル・コンピテンシーの基礎の習得 「イノベーション探究Ⅰ」における京都フィールドワーク（伝統・文化領域、健康・スポーツ領域）、京都や世界の智慧の再認識、生徒の研究課題発見。「グローバル・コミュニケーションⅠ」における発展的英語運用能力、「ソーシャル・インテリジェンス」における I C T 活用スキル並びに統計学等を用いた分析手法の習得。希望者対象の海外インターンシップ（ソウル・台湾・上海・シンガポール）。 2 年次：批判的思考力と多文化対話力の獲得 「イノベーション探究Ⅱ」における多文化協働 P B L（シンガポール国立大学、海外パートナー高校）、海外フィールドワーク、生徒の研究課題の仮説検証。「グローバル・コミュニケーションⅡ」における批判的思考力及び多文化対話力の習得。「京都の風土・世界の風土」における文化の多様性と複合性の理解。京都府海外サテライト校への中期留学。シンガポール・マレーシアにおける海外研修。希望者対象の海外インターンシップ（ソウル・台湾・上海・シンガポール）。 3 年次：グローバル・サミットにおける新たな価値提言 「イノベーション探究Ⅲ」における価値創造（地域研究領域）、鳥羽の学びネットワークと連携したグローバル・サミットにおける提言。「グローバル・コミュニケーションⅢ」における英語論文の作成及びプレゼンテーション。 ＜検証評価＞ 検証評価については、運営指導委員会並びに、S G U やグローバル企業などからなる鳥羽の学びネットワーク等から積極的に外部評価を受けることを予定している。 (3) 必要となる教育課程の特例等 ・ 平成 28 年度より京都府海外サテライト校への中期留学を単位認定 ・ 「ソーシャル・インテリジェンス」による、「情報」の代替 ・ 「京都の風土・世界の風土」による、「地理歴史」の代替
	⑧-3 上記以外 (1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 国際バカロレアの趣旨を踏まえた教育課程の研究 (2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 なし (3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の実施内容・実施方法 海外帰国子女特別入学者選抜の継続実施 (4) 幹事校としての取組（該当する場合のみ記入） なし
⑨その他 特記事項	・ 京都府教育委員会指定「グローバルネットワーク京都」幹事校

(3) 5ヵ年研究開発計画・評価計画

1 第1年次（平成27年度）

初年度の重点として「グローバル・リーダー育成推進部」を軸とした校内組織を立ち上げ、研究開発対象である1年生に対する教育活動を開始する。「イノベーション探究Ⅰ」「グローバル・コミュニケーションⅠ」「ソーシャル・インテリジェンス」の3つの科目等の教育課程及び関連教育活動の研究開発を着実に実施する。

ア 総合的な学習の時間「イノベーション探究Ⅰ」等の研究開発

①「イノベーション探究Ⅰ」

課題研究ワークショップ（SGUと連携）、成果発表会

②学校設定科目「グローバル・コミュニケーションⅠ」

③学校設定科目「ソーシャル・インテリジェンス」

④SGU等鳥羽の学びネットワークと連携した課題研究実施の詳細な日程等を調整

イ 課題設定・解決能力と実践的教養力の育成と指導法の蓄積

①海外パートナー校生徒との課題研究（鳥羽高校会場、パートナー校会場）

国立台南第一高級中学・吉林第一中学校・ハンヨン高等学校との協働研究、新規パートナー校開拓

②海外インターンシップ

株式会社片岡製作所等と連携し、ソウル・台湾・上海・シンガポールで実施

③海外大学学生とのワークショップ

NUS（シンガポール国立大学）日本研究会との課題研究ワークショップ

H-Lab・嵯峨野高校・鳥羽高校によるSGH夏季グローバルワークショップ

④ユネスコスクールの申請準備

⑤実践的英語コミュニケーション能力の向上に向けた各種英語検定の積極的な活用

ウ 鳥羽の学びネットワークと連携した教育活動の推進

①「イノベーション探究ⅠⅡⅢ」「グローバル・コミュニケーションⅠⅡⅢ」「ソーシャル・インテリジェンス」「京都の風土・世界の風土」におけるTA（大学生・大学院生）募集、選考、決定事務

②鳥羽の学びネットワークと協力して京都フィールドワークを実施

エ 海外勤務者帰国子女特別入学者選抜、外国人教員の採用

海外勤務者帰国子女特別入学者選抜の継続実施 帰国・外国人教員の選考及び採用事務

オ 評価計画

教職員の自己点検・評価に加えて、鳥羽の学びネットワーク、運営指導委員、学校評議員、保護者等のアンケートにより積極的に外部評価を取り入れる。

2 第2年次（平成28年度）

第1年次の教育活動に関する評価を踏まえて、改善を加えながら「イノベーション探究Ⅱ」の研究開発を着実に実施する。申請段階の計画に第1年次の実施内容・評価を合わせて、課題研究を行う体制を整備する。また、SGHコースの専門性を高める取組を行う。

ア 「イノベーション探究Ⅱ」等の研究開発

①総合的な学習の時間「イノベーション探究ⅠⅡ」、学校設定科目「グローバル・コミュニケーションⅠⅡ」、「ソーシャル・インテリジェンス」、「京都の風土・世界の風土」の着実な実施

②SGU等鳥羽の学びネットワークとの継続的な連携の定着

③「イノベーション探究ⅠⅡ」成果発表会

イ 課題設定・解決能力と実践的教養力の育成と指導法の蓄積

第1年次に計画しているイ①～⑤の継続とともに、以下の⑥を計画する。

⑥2年生全員を対象とした海外研修をシンガポール・マレーシア、上海にて実施

ウ 鳥羽の学びネットワークと連携した教育活動の推進

①外国人TA（大学生・大学院生）の募集・運用システムの定着

②鳥羽の学びネットワークと連携し京都フィールドワークを実施 実施方法、内容の改善

エ 海外勤務者帰国子女特別入学者選抜、外国人教員の採用

- ①海外勤務者帰国子女特別入学者選抜の継続実施 多言語教育活動の充実
- ②第1年次に引き続き、帰国・外国人教員を採用 課題研究の英語による指導を依頼する。

オ 評価計画

教職員の自己点検・自己評価に加えて、鳥羽の学びネットワーク、運営指導委員、学校評議員、保護者等のアンケートにより積極的に外部評価を取り入れる。

3 第3年次（平成29年度）

3年間の研究開発の成果として中間評価を実施する。課題研究「ソーシャル・イノベーション」に関する英語論文を作成し、鳥羽グローバル・サミットを実施し、英語によるプレゼンテーション、ディスカッションを行う。2年間の研究開発を踏まえ、1年生全員をSGH対象に広げるとともに、SGHコースの専門性をさらに高める取組を行う。

ア 総合的な学習の時間「イノベーション探究Ⅲ」等の研究開発

- ①「イノベーション探究Ⅲ」、「グローバル・コミュニケーションⅢ」の着実な実施とともに、第1年次と第2年次の実施内容について検証・評価を行う。課題研究内容について6月に行われる鳥羽グローバル・サミットにおいて発表するとともに、英語論文の作成に取り組む。SGU等国際化を推進する大学へのSGH入試やAO入試においても取組が活かせるように、高大接続を見据えて高校3年間をととした課題研究ができる教育活動を行う。
- ②鳥羽グローバル・サミット
「イノベーション探究Ⅲ」における課題研究の成果について、英語によるポスター発表、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。生徒・保護者・SGH校・海外のパートナー校・鳥羽の学びネットワーク等に幅広く公開し、研究開発内容の普及を行う。
- ③「鳥羽SGH成果発表会」
3年間の課題研究について作成した英語論文を冊子化し、研究発表及びプレゼンテーションを行う。生徒・保護者・SGH校・海外パートナー校・鳥羽の学びネットワーク等に幅広く公開し、研究開発内容の普及を行う。
- ④多文化対話力の向上に向けた各種英語検定等の積極的な活用

イ 課題設定・解決能力と実践的教養力の育成と指導法の蓄積

- 第2年次に計画しているイ①～③及び⑤⑥の継続とともに、④について以下のように計画する。
- ④ユネスコスクールとして、世界中のユネスコスクールと連携しながら課題研究を実施

ウ 鳥羽の学びネットワークと連携した教育活動の推進

- ①外国人TA（大学生・大学院生）支援による課題研究の実施
- ②鳥羽の学びネットワークと協力して京都フィールドワークを実施 実施方法、内容の改善

エ 海外勤務者帰国子女特別入学者選抜、外国人教員の採用

- ①海外勤務者帰国子女特別入学者選抜の継続実施 多言語教育活動の充実
- ②第2年次に引き続き、帰国・外国人教員を採用 課題研究の英語による指導を依頼する。

オ 評価計画

課題研究に3年間取り組んだ生徒の変容やこれまでの取組について中間まとめを作成するとともに、教員・保護者・学校・大学・企業・国際機関等の変容についても同様に評価の中間まとめを作成し、第4・5年次の研究開発内容の改善につなげる。

4 第4年次（平成30年度）

第3年次の中間評価をふまえ、グローバル・リーダー育成指導法に関する研究開発の普及とその指導を行うことのできる教員の資質向上に向けたガイドラインの作成を行う。また、研究指定最終年度である第5年次に向けて再検討が必要な箇所について改善し、研究開発の課題を整理する。

1・2年生全員にSGH対象を広げるとともに、SGHコースの専門性をさらに高める取組を行う。

ア 「イノベーション探究ⅠⅡⅢ」等の研究開発

- ①「イノベーション探究ⅠⅡⅢ」等の着実な実施とともに、第1・2年次に行われる研究開発科目等の教育課程上の配置、つながりについて検証・評価を行う。また、「イノベーション探究ⅠⅡⅢ」とおとした課題研究の在り方について、その継続性やその教育効果について検証を行う。

②鳥羽グローバル・サミット

「イノベーション探究Ⅲ」におけるこれまでの課題研究の成果について、英語によるポスター発表、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。生徒・保護者・鳥羽の学びネットワーク等に幅広く公開し、研究開発内容の普及を行う。

③鳥羽SGH成果発表会

3年間の課題研究について作成した英語論文を冊子化し、研究発表及びプレゼンテーションをとおし、生徒・保護者・鳥羽の学びネットワーク等に広く公開し、成果を普及する。

イ 課題設定・解決能力と実践的教養力の育成と指導法の蓄積

第3年次に計画しているイ①～⑥を継続する。

ウ 鳥羽の学びネットワークと連携した教育活動の推進

①外国人TA（大学生・大学院生）の支援による課題研究の実施

②鳥羽の学びネットワークと協力し京都フィールドワークを実施 実施方法、内容を改善

エ 海外勤務者帰国子女特別入学者選抜、外国人教員の採用

①海外勤務者帰国子女特別入学者選抜の継続実施 多言語教育活動の充実

②第3年次に引き続き、帰国・外国人教員を採用 課題研究の英語による指導を依頼する。

オ 教職員対象課題研究ワークショップ、研究成果報告会

研究開発内容・手法の普及を目的として、教職員対象の課題研究ワークショップを実施し、実際に課題研究の手法を体験しながら広く成果の普及をはかる。また、SGU等鳥羽の学びネットワークから講師を招き、パネルディスカッションをとおして研究成果の検証を行う。

カ 評価計画

第3年次に行った中間評価を踏まえた検討項目について、適切な改善・修正がなされているかを評価する。生徒の変容のみならず、教員・保護者・鳥羽の学びネットワークの変容についても可能な限り数値的なデータを収集する。また、第3年次末に卒業した生徒への追跡調査を開始し、グローバル・リーダーとしての資質を育てることができたかについて継続的な評価を実施する。

5 第5年次（平成31年度）

グローバル・リーダーを育成する指導・評価方法のまとめと公表を行うとともに、第4年次に整理した研究開発の課題について、これまでの取組を踏まえた新たな発展的研究開発を実施する。全校生徒をSGH対象とし、学校全体でグローバル・リーダーを育成する体制を確立する。

ア 総合的な学習の時間「イノベーション探究ⅠⅡⅢ」等の研究開発

第4年次に計画したア①～③について、PDCAサイクルの検討を行い、第5年次につなげる。

イ 課題設定・解決能力と実践的教養力の育成と指導法の蓄積

第4年次に計画しているイ①～⑥を継続する。

ウ 鳥羽の学びネットワークと連携した教育活動の推進

①外国人TA（大学生・大学院生）の支援による課題研究の実施

②鳥羽の学びネットワークと協力し京都フィールドワークを実施 実施方法、内容の改善

エ 海外勤務者帰国子女特別入学者選抜、外国人教員の採用

①海外勤務者帰国子女特別入学者選抜の継続実施 多言語教育活動の充実

②第4年次に引き続き、帰国・外国人教員を採用 課題研究の英語による指導を依頼する。

オ 教職員対象課題研究ワークショップ、研究成果報告会

研究開発内容・手法の普及を目的として、教職員対象の課題研究ワークショップを実施し、実際に課題研究の手法を体験しながら広く成果の普及をはかる。また、SGU等鳥羽の学びネットワークから講師を招き、パネルディスカッションをとおして研究成果の検証を行う。

カ 評価計画

これまでの研究開発内容に関する最終検証・総括的評価を行う。単なる実践報告ではなく、具体的な成果と課題について、本校が連携するSGU・運営指導委員等から専門的見地に基づく評価を受け、今後発展的に研究を進める内容についても同様に明らかにする。

(4) 平成 30 年度の取組状況

ア 研究開発組織の概要

(7) 運営指導委員

専門的見地から指導・助言を行う運営指導委員を4名にお願いした。年2回運営指導委員会を実施し、指導・助言を受けてSGH事業の取組を改善した。

運営指導委員長	三田 康明 氏	京都府国際センター 常務理事
運営指導委員	三谷 宏治 氏	K. I. T. 虎ノ門大学院 教授
運営指導委員	スティーブン ハーダー 氏	京都ノートルダム女子大学 准教授
運営指導委員	北尾 哲郎 氏	日東薬品工業株式会社 代表取締役社長

(4) 校内組織

グローバル・リーダー育成推進部を前年度から2名増やし6名とし、企画、運営、広報等を担当することとした。

前年度と同様に、教職員の希望調査に基づき、4つの研究グループを編成し、教職員はいずれかの研究グループに所属することで学校体制を整え、研究開発を進めた。

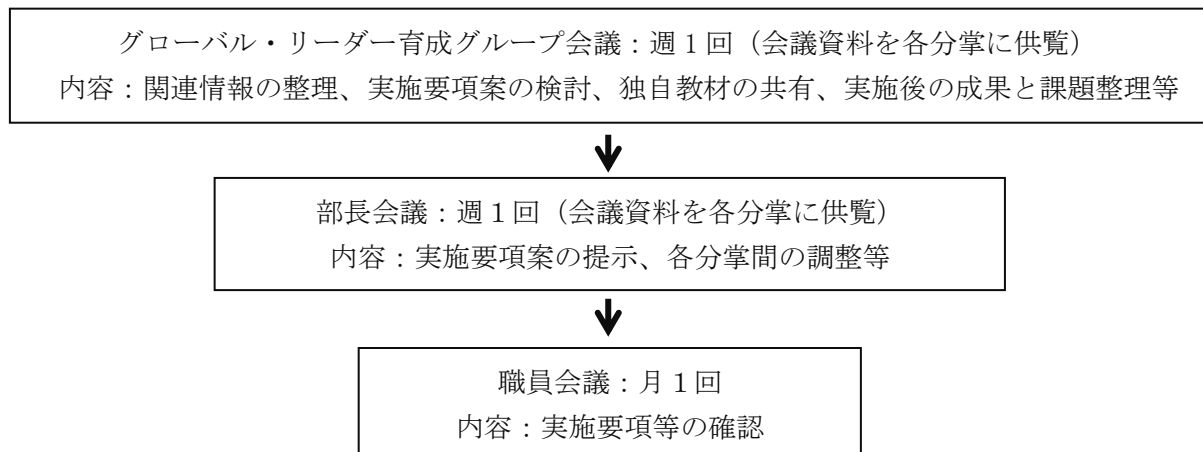
担当副校長、グローバル育成推進部、各研究グループの主任・副主任、事務部の10名が、週1回（年間29回）グローバル・リーダー育成グループ会議を開催し、各グループの研究開発の進捗状況や今後の工程、課題と改善方法等について議論しながら、着実に第4年次の計画を実施した。

会議資料を各学年・分掌内で供覧し、全教職員が情報を共有できるようにした。研究グループごとの会議を年に1回、職員会議後に実施するとともに、必要に応じてグループ内で連携しながら事業を進めた。

各グループの連携については、各グループの実施内容一覧を年度当初より教職員全員で共有し、総合的な学習の時間「イノベーション探究ⅠⅡⅢ」等における課題研究と学校設定科目及び普通科目が横断的になるよう考慮した。また、課題研究を核として、海外研修、各種行事、グローバル思考力コンテスト等と関連を深める取組を行った。

SGH研究開発1年次の平成27年度から、京都府公立学校教員採用選考試験スペシャリスト特別選考により採用された高い専門性や幅広い知見のある外国人教員1名を配置し、「イノベーション探究Ⅲ」、「グローバル・コミュニケーションⅡⅢ」、海外研修等の指導を、英語指導助手1名とともに行っている。

【会議の流れ】



イ 研究開発内容

<研究開発単位Ⅰ>：総合的な学習の時間「イノベーション探究ⅠⅡⅢ」

■総合的な学習の時間「イノベーション探究Ⅰ」（総合的な学習の時間・1年・1単位）

(1) 目的

- ア 遺すべき地域の価値＝「京の智」を再発見する。
- イ ソーシャル・イノベーションの主体者としての意識を形成する。
- ウ 価値創造力・協働力・突破力・寛容力・教養力を養う。

(2) 仮説との関係 仮説1

(3) 実施内容

土曜授業を中心に計17回の授業及び課題研究宿泊研修を実施した。全体のテーマを「京の智」の再発見とし、地域創造、人権、文化財、教育、産業の5つの探究領域から「京の智」を探究することにより課題研究を進めた。また、夏休みには生徒それぞれが設定した場所でのフィールドワークを実施した。

ア 1学期

- (ア) 課題研究「ソーシャル・イノベーション」、「イノベーション探究ⅠⅡⅢ」の趣旨理解
- (イ) 地域創造、人権、文化財、教育、産業の5つの探究領域についてのオリエンテーション
- (ウ) 葵祭フィールドワーク
- (エ) 講義及びワークショップ「資料論」・「地域遺産論」～文化財を創ろう～
京都文化博物館 学芸員 村野正景氏、西山剛氏
- (オ) 講義及びワークショップ「フィールドワーク&ワークショップ入門」
福知山公立大学 杉岡秀紀准教授
福知山公立大学、京都府立大学の本校OGからTA3名
- (カ) 「京都フィールドワーク」に向けて

イ 夏休み

京都フィールドワーク（探究領域：地域創造、人権、文化財、教育、産業）

ウ 2学期

- (ア) 京都フィールドワーク成果確認、研究グループ編成
- (イ) 講義及びワークショップ「チームがうまく機能する秘訣と課題研究の手法を知る」
京都光華女子大学 乾明紀准教授
- (ウ) 研究グループ別協働探究学習ガイダンス
- (エ) 講義及びワークショップ「聞き手の心に火を付ける！プレゼンテーション術」
福知山公立大学 杉岡秀紀准教授
福知山公立大学からTA1名
- (オ) 研究グループ別協働探究学習
- (カ) 京都府立図書館レファレンス

エ 3学期

- (ア) 「イノベーション探究Ⅰ」課題研究宿泊研修（立命館大学びわこ・くさつキャンパス）
立命館大学入学センター入試広報課 新田葵氏
立命館大学からTA5名
- (イ) 課題研究校内発表会
 - ・平成31年2月23日（土）10：40～12：30 会場：本校
 - ・校外からの助言者
京都光華女子大学 乾明紀准教授
福知山公立大学 杉岡秀紀准教授
京都府立図書館 福島幸宏副主査
 - ・終了後に校外の助言者、TAから講評

(4) 評価方法

- ア 各回のワークシート・発表資料等を指導者が評価
- イ 課題研究校内発表会では、生徒間の相互評価も実施

(5) 成果

研究グループ別協働探究学習をととして、個人調査の成果を活かしつつ、グループでのプレゼンテーションに結びつけることができた。ガイダンスやワークショップをととして調査手法を具体的に理解させ、「研究計画書」を活用してグループ内の役割分担を明確にすることができた。また、夏季休業中にインタビュー調査を行ったことにより、探究内容の質的向上が見られた。

学校設定科目「グローバル・コミュニケーションⅠ」、「ソーシャル・インテリジェンス」との科目間連携は年々深めることができおり、統計データの活用や、英語でプレゼンテーションする能力も養うことができた。

S G U等の鳥羽の学びネットワークとの連携を今年度も密に行い、ワークショップやレファレンス、課題研究宿泊研修等を実施し、課題研究を効果的に進めることで、研究手法を身につけさせることができた。

(6) 課題

2年次の「イノベーション探究Ⅱ」に移行するにあたって、質疑応答を意識した指導体制を整えていくことが課題である。また、文献調査の際に、インターネット中心ではなく、書籍を活用させることも課題である。そのために例年行っている春休みの課題図書今年度も引き続き設定し、本に触れる機会を増やすとともに、メディアリテラシーについても指導する。

■総合的な学習の時間「イノベーション探究Ⅱ」（総合的な学習の時間・2年・1単位）

(1) 目的

- ア グローバル・イシューを探究し、国・民族・宗教を超えた課題を発見する。
- イ 公正な視点で課題解決に向けた仮説を構築する。

(2) 仮説との関係 仮説1

(3) 実施内容

土曜授業を中心に計17回実施した。また、夏休み中に大阪大学豊中キャンパスで半日間の高大連携プログラムを実施した。

ア 1学期

- (ア) 春休み課題図書読書成果発表会、ガイダンス（趣旨説明）
- (イ) 研究グループ決定・研究テーマ検討
- (ウ) 講義及びワークショップ「鳥羽高校の課題研究について」
京都光華女子大学 乾明紀准教授
- (エ) 国立民族学博物館フィールドワーク ＊「京都の風土・世界の風土」との共催
特別展示・常設展示見学
- (オ) 講義及びワークショップ「よい研究発表とはどのようなものか？」
大阪大学 進藤修一教授、柿澤寿信講師
- (カ) 「研究計画書 Ver. 1」作成

イ 夏休み

講義及びワークショップ「アカデミック・ライティング講座」
大阪大学 進藤修一教授、堀一成准教授、坂尻彰宏准教授、大阪大学大学院T A 6名

ウ 2学期

- (ア) 「研究計画書 Ver. 2＝ポスター」作成
- (イ) ポスターセッションリハーサル 大阪大学 進藤修一教授、大阪大学・大学院T A 10名
- (ウ) S G H事業研究発表会でのポスターセッション（課題研究中間発表）
- (エ) 「研究計画書 Ver. 3＝研究概要」作成

エ 冬休み

「研究ノート」個人担当分作成

オ 3学期

(ア) 「研究ノート」＝研究グループ論文作成

(イ) 「研究ノート」輪読

カ 春休み

「イノベーション探究Ⅲ」に向けた英語論文作成

(4) 評価方法

ワークシート、記録ノート、ポスターセッション、「研究計画書」、「研究ノート」等をループリッ
ク等で評価

(5) 成果（昨年度の課題をふまえて）

ア 課題研究の流れの確立・深化

研究グループで作成する「研究計画書」をそのままポスター化し、課題研究中間発表を行い、さらにバージョンアップし、個人考察を経て、研究グループ論文「研究ノート」を編集するという一連の流れを昨年度整理した。今年度は、次の①～⑤の流れを確立し、鳥羽高校の課題研究を深化させた。①Step 1「研究テーマ（仮）決定シート」を作成し、「ツッコミシート」で仮研究テーマに磨きをかける。②Step 2「研究計画書 Ver. 1」を作成し、大阪大学アカデミック・ライティング講座に個人の「調査シート」を持参し、リサーチクエストに磨きをかける。③Step 3「研究計画書 Ver. 2＝ポスター」を作成し、ポスターセッションをとおして仮説に磨きをかける。④Step 4「研究計画書 Ver. 3＝研究概要」を作成し、課題発見→リサーチクエストの掘り下げ→仮説構築 までの流れを確認する。⑤Step 5「研究ノート」を作成し、3年次の「英語論文」へと接続する。

また、2年次のスタートあたり「先行研究検索シート」を用いて必ず先行研究論文に当たることとし、課題研究の質を担保した。

イ 高大社連携の一層の緊密化・継続化

これまで本校の課題研究を協働で作りに上げてきた、大学・研究機関・社会教育機関・企業の方々と、昨年度までの諸課題を持ち寄り、身につけさせたい力を共通で認識し、定期的な打合せをとおし、課題研究の質を向上させることができた。

ウ 「京都の風土・世界の風土」との連携

学校設定科目である「京都の風土・世界の風土」の授業で、グローバル・イシューの考察に資する民族・宗教等の内容や難民問題に関するテーマ学習を行ったほか、地球規模で事象を考察するためのフィールドワークや授業を共催することにより、課題研究の時間不足を解消し、内容を深化させることができた。

エ 「グローバル・コミュニケーションⅡ」との連携

学校設定科目である「グローバル・コミュニケーションⅡ」の授業で、昨年度に引き続き「イノベーション探究Ⅱ」の研究テーマをもとにグループを作り、研究テーマに関連したトピックで海外大学生とディベートを行った。海外大学生との協働学習をとおしてグローバルな視点を持たせることができた。

オ 「イノベーション探究Ⅲ」との接続

2年次に作成した「研究ノート」を「英語論文」にする課題を春休みに課したことにより、3年次の「イノベーション探究Ⅲ」へのスムーズな移行が可能となった。また、英語のパラグラフ・ライティングを意識して「研究ノート」の指導を行うことにより、「英語論文」の指導を充実させた。

カ 企業連携の強化

実社会においてどのような課題があるのか、またどのような対策がとられているのかなどを調査しつつ、キャリア観を育成するために、企業との連携を一層進めた。本年度も京都中小企業家同友会と連携した。今年度は2つの研究グループが、中小企業の経営課題について課題研究を行った。7月には経営者インターンシップを実施し、経営者に密着して経営課題について学び、社員の方々とディスカッションを行った。11月には「2018 高大社連携研修事業」（京都中小企業家同友会主催）に本校生が参加し、課題研究の発表を行ったほか、「中小企業の本気の経営課題に

学生はどこまで取り組むことが出来るのか!？」というテーマで、経営者・大学生とグループ討論を行った。さらに、一連の経験を代表生徒が12月に行われた第16回高大連携教育フォーラム（京都高大連携研究協議会主催）においてパネリストとして発表した。

(6) 課題

ワークシートや「研究計画書」、「研究ノート」等の様式が確立したため、鳥羽高校オリジナルテキスト（デジタル版）が実質上でできあがっている。最終年度の微調整を経て完成させる。また、最終年度中に、教員間で課題研究指導のノウハウを共有していく必要がある。

■総合的な学習の時間「イノベーション探究Ⅲ」（総合的な学習の時間・3年・1単位）

(1) 目的

1・2年次の課題研究を統合し、「ユニバーサルプログラム」において、価値の普遍化を図り、未来を見すえた新たな価値を創り出す価値創造力を高める。

(2) 仮説との関係 仮説1

(3) 実施内容

「イノベーション探究Ⅱ」における課題研究内容について英語論文を作成した。また、7月のグローバル・サミットでは各班で完成させた英語論文をもとに、海外大学生及び京都で学ぶ留学生に新たな提言を英語で行い、価値創造力を高めた。

(4) 評価方法

英語論文及びプレゼンテーション、ディスカッションの状況を考慮して評価を行った。

(5) 成果

2・3年次に共通して用いる課題研究の型を研究開発し、効率よく効果的に英語論文作成を行った結果、83.8%の生徒が英語論文を書く力が向上したと肯定的に回答するなど、英文アカデミック・ライティングの力を伸ばすことができた。また、海外の大学生とのディスカッションをとおして、83.9%の生徒が価値創造力が向上したと肯定的に回答するなど、グローバルで多様性を感じられる学びが創造力を育成することを検証できた。

(6) 課題

英語論文の作成及び指導をより効果的に行うために、ICTを用いて同時作業できる環境を整備する。生徒アンケートの結果から、鳥羽グローバル・サミットにおいて即興性が求められるディスカッションに課題が見られたので、1学期の準備段階からディスカッションの練習機会を増やす。

<研究開発単位Ⅱ>：グローバル・コンピテンシーを高める教科横断的科目群

■「グローバル・コミュニケーションⅠ」（学校設定科目・1年・3単位）

(1) 目的

- ア グローバル社会における多様性を受け入れる姿勢と多文化対話力を育成する。
- イ 課題探究内容を効果的に英語でプレゼンテーションする能力を養う。
- ウ 基本的なディベートをとおして批判的思考力を養う。

(2) 仮説との関係 仮説1

(3) 実施内容

「英語表現Ⅰ」の学習内容を発展させ、総合的な学習の時間「イノベーション探究Ⅰ」の課題研究内容と関連させた様々なテーマで、プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートに取り組んだ。

ア 1学期 プレゼンテーション、ディスカッション

話し方、アイコンタクト、姿勢といったプレゼンテーション技術の基礎を学んだ後、「鳥羽グローバル・サミット」で来校した海外の大学生に向けてプレゼンテーションを行った。海外ではあまり知られていないが、外国人が関心を持つ京都文化ー“Deep Kyoto”ーという「イノベーション探究Ⅰ」に関連させたテーマを設定し、生徒が各自で発表内容を調べ、iPadを使ってプレゼンテーション資料を作成した。当日は生徒6～7名につき海外の大学生1名の少人数グループに分

かれて発表し、グループディスカッションを行った。

発表内容の例：Fake Maiko

History of Street Names in Kyoto

イ 2学期 プレゼンテーション、ディスカッション

総合的な学習の時間「イノベーション探究Ⅰ」において取り組んでいる、京の智の再発見に向けた課題研究の内容について英語でプレゼンテーションし、互いに質問、意見や感想を英語で述べた。また、グループの課題研究内容の方向性について、ディスカッションと提案を行った。

ウ 3学期 ディベート

基本的なディベートのルール、構成、説得力のある表現方法、批判的思考について学んだ。ディベートの定義や理由、反論の仕方、ジャッジの方法などを学んだ後、8人制のグループディベートを行った。ディベート中は、他の生徒による相互評価を行った。

ディベートテーマの例：Japan should protect itself with nuclear weapons.

We should abolish the death penalty.

Japan should invite more foreign people as workers.

(4) 評価方法

定期考査、各種テスト、取組状況に加えて、スピーチやディベートのパフォーマンス評価、プレゼンテーションやディスカッションについてはルーブリックを用いた評価等、総合的に評価した。

(5) 成果

総合的な学習の時間「イノベーション探究Ⅰ」と学校設定科目「グローバル・コミュニケーションⅠ」を同じ教員が担当することにより、教科横断的な取組をさらに円滑に行うことができた。

生徒アンケートについては、質問10「英語を学ぶ必要性を感じ、主体的に英語を学ぶ意欲が高まった」について73.8%が「4そうである」と回答し、質問4「京都や日本の伝統・文化について、英語でプレゼンテーションする能力が向上した」について92.6%が肯定的に回答するなど、京都の伝統・文化を海外の大学生・高校生に英語で発信する取組をとおして、プレゼンテーション能力を育成し、英語の学習意欲を高めることができた。

(6) 課題

生徒アンケートの質問5「英語プレゼンテーションをとおして、わかりやすい英語で説明する能力が向上した」と質問8「基本的な英語ディベート等をとおして、論理的に表現する力が向上した」について、それぞれ「4そうである」と回答した生徒の割合が35.0%と、他の質問より低い結果となった。結論を先に伝える、理由を整理して伝える、具体例を示すなど、わかりやすく自分の考えを伝える話し方について指導を充実させることを課題とする。

■「グローバル・コミュニケーションⅡ」（学校設定科目・2年・3単位）

(1) 目的

ア 実践的コミュニケーション能力を向上させ、多文化対話力を身につける。

イ 課題研究内容についてのディベートを行うことで、戦略的・批判的思考力を身につける。

ウ 課題研究に関する英語論文作成のために、アカデミック・ライティングの基本的な能力を身につける。

(2) 仮説との関係 仮説1

(3) 実施内容

「英語表現Ⅱ」の学習内容に加え、ディベートとアカデミック・ライティングに取り組んだ。ディベートについては、「グローバル・コミュニケーションⅠ」で学んだディベートの基本を踏まえ、即興パラメンタリーディベートを学習した。授業では、1学期から2学期まで19回にわたって定義、主張、反論、質問等の仕方を練習し、7月のグローバル・サミットで「イノベーション探究Ⅱ」の課題研究に関連させた論題について生徒同士のディベートを行い、ジャッジは海外の大学生及び留学生のTAが担当した。

論題(例) : Japan should approve same-sex marriage.

Developed countries should eliminate poverty around the world.

We should replace paper money with virtual money.

2 学期から 3 学期にかけて、8 回の授業においてアカデミック・ライティングに取り組んだ。パラグラフの構成 (Topic Sentence, Supporting Sentence, Concluding Sentence) を学習し、パラグラフ・ライティングの演習を実施した。演習では、相互評価や教師によるフィードバックを行い、パラグラフ単位ごとに書き直しをさせた。

(4) 評価方法

定期考査に加え、T A によるフィードバック、パフォーマンス評価、相互評価、ルーブリック評価をととして総合的に評価した。

(5) 成果

質問 5 「課題研究に関する英語ディベートをととして、事実や意見などを批判的に多様な観点から考察する能力が向上した」が昨年度の 19.5% から今年度は 41.6% に、質問 11 「パラグラフ構成や展開を意識して、論理的に英文を書く力が向上した」が昨年度の 19.5% から今年度は 32.5% までそれぞれ上昇した。「イノベーション探究Ⅱ」との教科横断的な取組をととして、アカデミック・ライティングの力や論理的思考力を向上させることができた。

(6) 課題

生徒アンケートの質問 7 「授業や海外大学生との英語ディベートをととして、英語で質疑応答する能力が向上した」について「4 そうである」と回答したのは 23.4%、質問 12 「英語によるアカデミック・ライティングに必要な語彙や表現を増やすことができた」については同様に 20.8% の回答となり、他の質問と比べて低かった。即興で英語を話す機会を継続して増やすとともに、英語論文で頻繁に使用する表現について、3 年次の「グローバル・コミュニケーションⅢ」において定着させることを課題とする。

■「グローバル・コミュニケーションⅢ」(学校設定科目・3 年・2 単位)

(1) 目的

グローバル社会における多文化対話力を育成するとともに、課題研究について英語論文を作成、その内容についてプレゼンテーション、ディスカッションを行う力を身につける。

(2) 仮説との関係 仮説 1

(3) 実施内容

学校設定科目「グローバル・コミュニケーションⅢ」では、「英語表現Ⅱ」の学習内容に加えて、「イノベーション探究Ⅲ」における英語論文作成のために必要とされる知識、技能に加え、英語によるプレゼンテーション及びディスカッションに取り組んだ。また、鳥羽グローバル・サミットにおいて論文のプレゼンテーションを行い、海外の大学生や京都の留学生とともに英語によるディスカッションを行った。

(4) 評価方法

定期考査をはじめとする各種テスト等により総合的に評価を行った。また、授業内で行うアクティビティの取組状況も評価の一助とした。鳥羽グローバル・サミットにおけるプレゼンテーションについては、本校独自に作成したルーブリックに基づいて評価を行った。

(5) 成果

英語で論文を書くという学習をととして、様々な表現を使用する能力が向上した。また、自らの考えを英語で論理的にまとめ、発表していくという一連の取組によって、英語を学ぶ必要性を感じ、さらには英語を学習する意欲がより高まった。

(6) 課題

英語論文を作成する上で、英語による論理的な文章を作成する力は向上したが、一方で実際のプレゼンテーションやディスカッションに備えた練習や指導が不足していたと思われる。英語論文作成に意識が行きがちであるが、会話や討論をする際の表現力の向上を生徒にどのように指導していくのが課題である。

■「ソーシャル・インテリジェンス」(学校設定科目・1年・2単位)

(1) 目的

- ア 身の回りのデータの収集と分析、結果の解釈に取り組み、実践的な情報リテラシーと統計リテラシーの育成をめざす。
- イ 実際の問題解決の場で、最適なツールを利用し、事実に基づく問題解決能力を身につける。

(2) 仮説との関係 仮説1

(3) 実施内容

学校設定科目「ソーシャル・インテリジェンス」では、「社会と情報」の内容に「数学Ⅰ」のデータ分析を加え、さらに総合的な学習の時間「イノベーション探究Ⅰ」との教科横断的な取組をととして課題分析能力を育成した。

1学期は「社会と情報」の内容を精選し、通常1・2学期をかけて学ぶ内容を圧縮して学んだ。また、6月末からは、表現実習「文化祭ポスター」制作に取り組んだ。

2学期以降は、「社会と情報」の内容を学ぶクラスとは異なる内容として、問題解決の統計的手法の1つである「PPDAC (Problem → Plan → Data → Analysis → Conclusion → Problem → …) サイクル」について学んだ。今年度から、総合的な学習の時間「イノベーション探究Ⅰ」において「現状探究」、「イノベーション探究Ⅱ」において「原因探究」をねらいとした課題研究をそれぞれ行っているが、これらに取り組む上で必要とされる統計手法の考え方について指導を行った。

また、ICTスキルの向上を目指し、グラフの特徴について学び、目的に応じた使い分けを学習した。題材については、今年度も日本政府観光局(JNTO)の資料を用いつつ、グループごとに各国の訪日外客数等を比較し分析するアクティブ・ラーニングを行った。

2学期中旬から「イノベーション探究Ⅰ」の研究テーマに関連した統計資料を個人で作成させ、傾向や特徴の読み取り分析をさせた。昨年度と同様に、立命館大学びわこ・くさつキャンパスにおいて課題研究宿泊研修を実施し、大学生TAからアドバイスも受けた。

2月7日(木)に学年発表会にてクラス代表が発表した。また、2月23日(土)の「イノベーション探究Ⅰ」において、校外の鳥羽の学びネットワーク関係者を招き、全ての班が発表した。

(4) 評価方法

実習への取組状況、レポートや課題の提出状況、定期考査をはじめ各種テスト等により総合的に評価した。

(5) 成果

生徒アンケートの「4そうである」の回答については、質問8「協働力の育成」について80.0%、質問10「探究活動への活用」が73.8%、質問2「グラフの種類・用途」の理解について75.0%とそれぞれ高く、総合的な学習の時間「イノベーション探究ⅠⅡⅢ」における課題研究で必要とされるICTを用いた課題分析の基礎的な能力を、教科横断的な取組をととして習得させることができた。

(6) 課題

課題研究内容を効果的に伝えるICTの活用についてさらに指導を行う。ICTを活用しつつ、グループ内で協働して課題分析や課題解決に向けて協働する力は育成できたが、一方で、「数学Ⅰ」のデータ分析と横断的に理解を深めるため、数学科と情報科で科目のねらいについて共有した上で指導を行うことが課題である。

■「京都の風土・世界の風土」(学校設定科目・2年・2単位)

(1) 目的

- ア 身近な地域と世界の風土を探究することにより、相互の関係性を具体的にかつグローバルな視点から理解する力を養う。
- イ 自ら課題を設定し、調査や討議などを行って、まとめる力を身につける。

(2) 仮説との関係 仮説1

(3) 実施内容

4月から5月にかけては、京都の風土を中心に学習した。「京都はなぜ千年以上都市であり続けられるのか?」というテーマのもと、昨年度実施した「イノベーション探究Ⅰ」で再発見した「京の

智」をさらに深化させた。5月末からは、世界の風土について考察し、幅広い視野の獲得を図り、国立民族学博物館へのフィールドワークも昨年度に引き続き実施した。6月からは、世界の宗教や民族問題について理解を深めるとともに、「イノベーション探究Ⅱ」とも連携を図りながら、本科目で習得した広い視野や文化の多様性への理解を課題探究活動に取り入れた。7月の鳥羽グローバル・サミットにおいては、海外大学生と英語を活用しながら京都と海外都市の構造を比較する協働学習を行った。2学期は主として、「難民問題から考える」をテーマとして取り上げ、グループワークをととしてグローバル・イシューを自分ごととしてとらえさせる取組を行った。1月からは、3年次の選択科目に応じた講座授業を展開した。

(4) 評価方法

ワークシートやクラス発表に加えて、定期考査による基本的な知識の定着度合について評価した。

(5) 成果

担当者間で連携し、授業をととして科目のねらいを明確に伝えることができたことで、アンケート項目のすべてにおいて、「4そうである」と回答した生徒の割合が昨年度を上回った。また、質問項目6「世界の諸問題（グローバル・イシュー）を自分ごととしてとらえ、考える力が身についた」について、「4そうである」と回答した生徒の割合が昨年度よりも37.8%上昇し、伸び率が最も高い質問となるなど、グローバル・マインドシップの涵養に結びつけることができた。

(6) 課題

「京都の風土・世界の風土」で身につく力を、グローバル・イシューを探究する「イノベーション探究Ⅱ」と今後さらに横断的に連携させたい。そのためには、年度当初の京都の風土を学習する際に、ローカルな課題とグローバルな課題がどれだけ密接に関わっているかをいかに提示できるかが重要であると考え。京都の都市構造と外国の都市構造を比較する授業等を4月から展開していくことで、「京都の風土・世界の風土」の学習がグローバル・イシューの探究と密接に関わっているということを、年度当初に生徒に理解させたい。

また、次年度のSGH研究開発5年次に向けて、「京都の風土・世界の風土」の教材化・冊子化を行い、HP上での公開をととして、成果普及に取り組む。

<研究開発単位Ⅲ>：新しい視座と高い言語能力を確立する戦略群

■府立高校海外サテライト校事業

(1) 目的

より高い語学力・コミュニケーション能力を身につけるとともに、自ら課題を設定し、日本と海外を比較しながら、その解決策を考察する取組を行う。

(2) 仮説との関係 仮説2

(3) 実施内容

京都府教育委員会からの支援を受け、オーストラリア・クイーンズランド州に夏期4ヶ月間、冬期2ヶ月間、留学先学校の相当学年の生徒とともに、英語で行われる授業を受ける。また、現地の歴史・文化のうち、自ら設定した内容について日本との違いを考察し、理解を深める取組を行う。

(4) 実施方法

1・2年生全員に希望者を募った結果、2年生女子1名が平成30年8月から12月まで、1年生女子1名が平成31年1月から3月まで留学することとなった。留学修了後は、今年度履修中の科目の単位を認定するとともに留学による単位を追加認定する予定である。

(5) 成果

留学中の様子を随時本校ホームページに掲載し、留学報告会を実施することで成果の普及を図った。また、留學生徒の英語運用能力についても帰国後のGTEC等の成績を用いて検証を行う。

■海外短期留学チャレンジ補助事業、オーストラリア語学研修補助事業、エディンバラ語学研修補助事業、日韓高校生交流（派遣）事業、京都府高校生による陝西省訪問プログラム、グローバル・セミナー

(1) 目的

より高い語学力・コミュニケーション能力を身につけるとともに、国際感覚の育成や異文化理解の促進を図る。

(2) 仮説との関係 仮説2

(3) 実施内容

ア 海外短期留学チャレンジ補助事業、オーストラリア語学研修補助事業、エディンバラ語学研修補助事業

京都府教育委員会の支援を受けて、夏季休業中に2～3週間程度の語学研修を行う。海外短期留学チャレンジ補助事業では自ら留学先を選択、オーストラリア語学研修補助事業では現地公立高校で、エディンバラ語学研修補助事業ではエディンバラカレッジにおいてそれぞれ研修を行う。

イ 日韓高校生交流（派遣）事業

文部科学省が主催する事業で、9月6日（木）から11日（火）まで大韓民国を訪問し、現地交流などをおして、韓国語、日本語を第2外国語として勉強する高等学校生の相互交流を図る。

ウ 京都府高校生による陝西省訪問プログラム

京都府の支援を受けて、12月21日（金）から26日（水）まで中国陝西省を訪問し、現地教育機関、文化施設等を見学することで日中の相互理解を図るとともに、異文化理解の促進を行う。

エ グローバル・セミナー

本校独自に行うプログラムで、3月21日（木）から29日（金）までアメリカ・サンフランシスコを訪れ、カリフォルニア大学バークレイ校を拠点に、高校訪問、現地企業訪問を行うことで、異文化における創造力や発想力を理解するとともに、英語を用いた発信力やコミュニケーション能力の向上を目指す。

(4) 実施方法

ア 京都府教育委員会による選考を経て、2年生女子1名が8月に約3週間マルタ共和国にて、1年生男子1名および1年生女子2名が7・8月に2週間程度オーストラリアにて、2年生女子3名が7・8月に4週間程度エディンバラにて、それぞれ語学研修を行った。

イ 文部科学省から承認された2年生女子1名が参加し、研修を行った。

ウ 1年生男子3名、女子3名、2年生女子3名が参加した。研修にあたり京都府職員も交えて校内で事前研修会を行った。

エ 1年生男子5名、女子4名が参加した。研修にあたり校内で合計10回にわたる事前学習を行った。

(5) 成果

いずれの研修においても、本校ホームページに掲載（京都府高校生による陝西省訪問プログラムについては京都府国際課のホームページにも掲載）することにより成果の普及を図った。また、日韓高校生交流（派遣）事業については、研修報告会を2年生生徒全員に行うことにより、さらなる成果普及を行った。

■海外の高校とのワークショップ

(1) 目的

同世代の海外の高校生徒との交流をおして、様々な価値観を学び、多文化対話力を身につける。また、グローバル・イシューに関する協働学習を行い、実践的英語力を身につける。

(2) 仮説との関係 仮説2

(3) 実施内容

ア 高雄市天主教明誠高級中学（台湾）

平成30年5月30日（水）に鳥羽高校にて実施。生徒34名が来校し、英語と中国語による伝統・文化領域の課題研究内容に関するプレゼンテーションやディスカッションを行った。

イ ハンヨン高校（韓国）

平成30年8月8日（水）にソウル特別市のハンヨン高校および吉洞市場にて実施。SGH韓国ソウル海外研修参加者10名、ハンヨン高校生徒15名が参加。午前中、ハンヨン高校にてフィー

ルドワーク準備。午後、吉洞市場を訪れ、日韓両国の伝統的市場の発展に向けた考察と相互提案を行った。コミュニケーションの手段として、英語、韓国語、日本語を用いた。

また、平成31年2月20日（水）に鳥羽高校、東寺にて実施。ハンヨン高校生徒19名が来校し、本校生徒93名が参加。本校の授業をととして多文化協働学習を実施するとともに、伝統・文化領域の課題研究に関連づけて、東寺にてフィールドワークを行った。

ウ 国立竹北高級中学交流会（台湾）

平成30年10月23日（火）に鳥羽高校にて実施。生徒32名が来校し、英語による伝統・文化に関するShow&Tell、体育の授業参加や見学を行った。

エ 上海市嘉定一中（中国）

平成30年11月1日（木）、上海市嘉定一中にて実施。SGH上海海外研修参加者10名、上海市嘉定一中生徒10名が参加。英語、中国語を用いて、本校生徒による日本・学校紹介プレゼンテーション、嘉定一中生徒による中国の民族衣装についてのプレゼンテーション、本校2年生「イノベーション探究Ⅱ」の課題研究内容に関するプレゼンテーション、インタビュー調査を行った。

オ 台中市立台中工業高級中等学校（台湾）

平成30年12月26日（水）に台中市立台中工業高級中等学校にて実施。SGH台湾海外研修参加生徒9名、台中市立台中工業高級中等学校生徒26名が参加。英語を用いて、課題研究内容に関するプレゼンテーション、インタビュー調査、ディスカッション及び伝統・文化に関する多文化協働学習を行った。

(4) 成果

ハンヨン高校と伝統的な市場の保存問題についてPBLを行い、上海市嘉定一中では京都の伝統・文化についての英語によるプレゼンテーション、台中市立台中工業高級中等学校ではさらに授業参加も行うなど、課題研究に関する現地調査や発表を核としながら多様なプログラムを研究開発できた。その結果、生徒アンケート質問4「異なる文化の人々と協力して課題に取り組む力（多文化協働力）」のA評価が79.3%となった。

SGH事業をととして、ハンヨン高校と継続的に相互訪問を行うネットワークが構築され、来校時には多くの生徒が協働学習できる仕組みができた。

(5) 課題

質問3「現状分析を踏まえた上で、新しい提案をする力（価値創造力）が向上した」について、肯定的評価は93.1%と高かったが、A評価のみ抽出すると51.7%とやや低かった。ハンヨン高校とのPBL形式を他の取組にも広げ、海外の高校生と協働して提案する活動を増やす。

■京都インターンシップ、海外インターンシップ

(1) 目的

上海、ソウル、台湾、シンガポールにおいて、グローバル企業で外国人職員とともに働く経験をととして、将来的に国際的なビジネスで活躍できるグローバル・リーダーとしての資質を向上させる。また、課題研究に関するフィールドワークを外国人職員とともに行うことにより、多文化協働による主体的な課題解決能力を高める。

(2) 仮説との関係 仮説2

(3) 実施内容

ア 片岡製作所京都本社インターンシップ

平成30年7月24日（火）にSGH韓国ソウル海外研修参加生徒10名とSGH上海海外研修参加生徒10名、12月7日（金）にSGH台湾海外研修参加生徒10名が株式会社片岡製作所レーザー工場を訪れ、片岡宏二代表取締役社長から会社概要・企業のグローバル展開、将来的にグローバル・ビジネスでリーダーとして活躍するために必要とされる資質等についてレクチャーをいただき、積極的な質疑応答がなされた。その後、レーザー工場を見学しながら、最新レーザー技術を学んだ。

イ 海外インターンシップ

・平成30年8月7日（火）株式会社韓国片岡、SJT社

- ・平成30年11月2日（金）上海片崗貿易有限公司、三菱UFJ銀行上海支店
- ・平成30年12月25日（火）台湾片岡股份有限公司、上銀科技股份有限公司
- ・平成31年1月24日（木）ホリバ・インスツルメンツ（シンガポール）

韓国、上海、台湾では、午前中に現地での事業展開についてのレクチャーを受けるとともに、現地職員に質疑応答を行った。午後は韓国ではSJT社、上海では三菱UFJ銀行上海支店、台湾では上銀科技股份有限公司を訪れ、現地職員から多文化協働による働き方について学び、事業所等における就業体験を行った。

シンガポールでは、海外研修のプログラムとしてSGH対象クラスから希望者を募り、ホリバ・インスツルメンツにおいて、英語で名刺を作成して現地職員に挨拶や質疑応答等を行うなど、実践的英語コミュニケーション能力の育成とグローバルなキャリア教育を合わせた取組を行った。

また、全訪問先において、現地職員等に対して、課題研究の仮説に基づくインタビュー調査を実施し、グローバル企業の社員からの助言を受け、課題研究内容を深化させることができた。

(4) 成果

3年次までの取組を踏まえて教育課程の研究開発を進め、「海外インターンシップ」の単位認定を行った。海外インターンシップ参加者への質問9「海外で働くこと、国際的な仕事について関心が高まった」のA評価が69.0%、肯定的評価が93.1%となり、高い数値となった。また、質問7「日本や世界の文化について学ぶことで、様々な知識を得るとともに、視野が広がった（教養力）」のA評価が96.6%となり、現地で働く日本人社員や外国人社員へのインタビュー調査をとおして、海外に出て初めて知ることができる様々な知識を得るとともに、グローバル社会を俯瞰するために必要な教養が身につくことを検証できた。

(5) 課題

海外インターンシップを単位として認定することによる教育的効果、高大接続に向けた活用について研究開発および成果検証を継続する。また、他の高校における海外研修のプログラムとして普及できるように、海外インターンシップのモデル化を推進する。

■海外大学の学生とのワークショップ

(1) 目的

海外大学の学生との協働により課題研究内容を深化させるとともに、SGUと海外大学で行われている研究手法を比較しながら、効果的な課題研究の手法を身につける。また、協働研究をとおして多文化対話力を向上させ、実際の海外大学における学生生活を体験し、将来的に海外留学や海外で働くことへの意欲を高める。

(2) 仮説との関係 仮説2

(3) 実施内容

ア 鳥羽グローバル・サミット

平成30年7月11日（水）～15日（日）に本校及び京都市内で実施。シンガポール国立大学から4名、復旦大学（上海）から2名の大学生が参加した。また、京都大学、京都工芸繊維大学、京都府立大学、同志社大学、立命館大学、龍谷大学で学ぶ京都府名誉友好大使や、きょうと留学生ハウスの留学生27名が参加した。

11日（水）開会式、12日（木）・13日（金）に総合的な学習の時間「イノベーション探究Ⅲ」の課題研究内容を踏まえて、英語でディスカッションを行い、協働しながら作成した提言を英語で発表した。また、海外の大学生の授業参加等を行うとともに、SGHの取組を広げるために、グローバル・ランチ、グローバル・カフェを全校生徒・教職員を対象に開催した。

14日（土）・15日（日）は希望者対象に「KYOTO フィールドワーク」を開催し、グループごとの課題研究テーマに基づき海外の大学生等とフィールドワークを実施し、発見した「京の智」について英語でプレゼンテーションを行った。

イ 復旦大学生との上海フィールドワーク

平成30年11月3日（土）に上海市内において、鳥羽グローバル・サミットに参加した復旦大学生とともに課題研究に関するインタビュー調査を実施した。

ウ 国立台湾大学ワークショップ

平成 30 年 12 月 27 日（木）に国立台湾大学にて実施し、課題研究内容に関する英語によるインタビュー調査、日本と台湾の伝統・文化等に関する結びつきについて考察した。

(4) 成果

鳥羽グローバル・サミット終了後に生徒アンケートを実施し、生徒の変容について調査した。

SDGs の達成に向けた「イノベーション探究ⅠⅡⅢ」における課題研究を核とし、「グローバル・コミュニケーションⅠⅡⅢ」と教科横断的に取り組んだ結果、質問 5「英語を学ぶ必要性を感じ、英語を学ぶ意欲が高まった」について、3 年生の 97.6%、2 年生の 96.2%、1 年生の 96.3%が肯定的に回答するなど、今年度についても事前学習とサミット期間をとおして、英語の学習意欲を向上させることができた。

希望者対象の KYOTO フィールドワーク参加者については、ほぼ全質問について A 評価がさらに高くなり、特に、質問 10「事前学習や海外の学生との協働学習を通じて、様々な知識を得るとともに、視野が広がった」の A 評価が 78.6%、質問 7「異なる文化の人々と協力して課題に取り組む力（多文化協働力）が向上した」の A 評価が 71.4%と高かった。

また、今年度から S G H 対象を 1・2 年生全員と 3 年生 3 クラスに広げたことにより、さらに多くの生徒が海外大学生や京都の留学生と協働して課題研究を行うことができた。

(5) 課題

次年度から京都のグローバル企業や国際機関の関係者、京都府教育委員会グローバルネットワーク京都の連携校の高校生に対しても参加を募り、SDGs の達成に向けてより多様な方々が参加できる仕組み作りを行い、課題研究内容を深化させる。

<研究開発単位Ⅳ>鳥羽の学びネットワークを活用したリベラルアーツ教育の研究開発

■アクティブ・ラーニングを取り入れた公開授業・研究授業

(1) 目的

「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」をテーマとし、生徒が主体的に学習に取り組み、コミュニケーション活動をとおした深い学びを実践するための工夫について研究を行う。

(2) 仮説との関係 仮説 3

(3) 実施内容

教科・科目ごとにアクティブ・ラーニングを取り入れた研究授業を実践し、授業参観教員にアンケートを実施した。

(4) 実施期間・実施人数

ア 公開授業：

実施期間：平成 30 年 7 月 9 日（月）～7 月 18 日（水）

実施人数：9 名（国語科 2 名、地理歴史・公民科 1 名、数学科 1 名、理科 2 名、英語科 2 名、保健体育科 1 名）

イ 研究授業・公開授業

実施期間：平成 30 年 11 月 1 日（木）～11 月 28 日（水）

（平成 30 年 11 月 15 日（木）は S G H 事業研究発表会）

実施人数：研究授業 10 名（国語科 1 名、地理歴史・公民科 1 名、数学科 1 名、理科 1 名、英語科 3 名、保健体育科 2 名、情報科 1 名）

公開授業 22 名（国語科 1 名、地理歴史・公民科 4 名、数学科 2 名、理科 3 名、英語科 2 名、保健体育科 4 名、芸術科 3 名、第 2 外国語 3 名）

(5) 成果

S G H 中間評価を受けて、S G U 等との連携によるアクティブ・ラーニング型の探究学習を増やし、アクティブ・ラーニングへの指導法転換をさらに進めた。また、S G H 事業研究発表会における研究授業等において、鳥羽の学びネットワーク関係者や全国の S G H 校・S G H アソシエイト等の教員からフィードバックを受け、授業改善に取り組んだ。その結果、4 点満点の教職員アンケートの質問 5「S G H による取組が、課題の解決に向けて主体的・協働的に学ぶ授業となっており、

学校全体の授業改善につながっていると思う」について、全教職員の平均が平成27年度の1.9から3.4へ上昇するなど、教職員の意識や指導方法の変容に結びついた。

(6) 課題

Society 5.0を支えるグローバルな人材育成を進めるにあたり、ICTの使用頻度をより増やしたアクティブ・ラーニングへの指導法転換を図るなど、質的な指導法改善に取り組む。

■ JICA関西ワークショップ

(1) 目的

ア JICA職員との協働学習をととして専門的見地から指導・助言を受けることにより、各自が取り組むSGH課題研究内容を深化させる。

イ 地球規模の課題や多様な文化、世界と日本のつながりを学び、異文化を理解し、多文化協働のための方策を考える。

(2) 仮説との関係 仮説3

(3) 実施内容

平成30年7月27日(金)、鳥羽高校を会場として、1・2年生グローバル科及び普通科88名を対象に実施した。講師2名を迎え、JICA・青年海外協力隊の取組や日本の国際貢献のあり方、グローバルな視点でのキャリア教育をテーマとしたワークショップを行った。

(4) 成果

鳥羽高校の卒業生であるJICA職員が講師として来校したこともあり、JICA・青年海外協力隊を身近に感じるとともに、スポーツなどをととした様々な日本の国際貢献のあり方について考えることができるよい機会となった。

(5) 課題

生徒アンケート質問4「将来、機会があれば、国際的なボランティアに参加したい」の肯定的評価が83.1%、質問6「将来、留学や海外研修を通じて、海外におけるワークショップに参加したい」が82.0%と他の質問項目に比べてやや低かった。事後指導として、国際的なボランティアや留学・海外研修について、具体的なイメージを生徒へ持たせる指導を行う。

■ 各種コンテストへの参加：日本政策金融公庫「高校生ビジネスプラン・グランプリ」

(1) 目的

グローバルな社会またはビジネス課題に関する公益性の高いコンテストへの参加をととして課題分析能力・課題解決能力を高めるとともに、総合的な学習の時間「イノベーション探究ⅠⅡⅢ」やSGH海外研修で取り組んでいる内容をビジネスの観点から深める機会とする。

(2) 仮説との関係 仮説3

(3) 実施内容

SGH韓国ソウル海外研修参加者、SGH上海海外研修参加者及び1・2年生希望者の合計22名が、課題研究のテーマに関連させたビジネスプランを作成し、コンテストに応募した。ビジネスプランの作成過程で、株式会社日本政策金融公庫より坂井俊一郎氏を招き、ワークショップを2回開催した。

平成30年6月20日(水) ビジネスプランサポート授業【基礎編】

平成30年7月25日(水) ビジネスプランサポート授業【実践編】

(4) 成果

生徒アンケート質問4「新しい提案をする能力(価値創造力)が向上した」について、4段階評価で45.5%が「4そうである」、91.0%が肯定的に回答した。自分たちのアイデアを事業計画や予算を含むビジネスプランとして作成することをととし、具体的な提案をする能力が高まった。

(5) 課題

質問3「課題を分析する能力が向上した」について、A評価が18.2%、肯定的評価が90.9%と、他の質問と比べて低かった。学校設定科目「ソーシャル・インテリジェンス」と連携し、統計的な分析手法をビジネスプラン作成に使用できるように指導する。

■グローバル思考力コンテスト

(1) 目的

グローバルな課題をテーマとしたチーム対抗の課題解決型コンテストをととして、資料等の分析能力・批判的思考力・課題解決能力について育成および評価するとともに、生徒間の相互評価による多角的な視点の獲得に取り組む。

また、全校体制で取り組んできたアクティブ・ラーニングの推進や普通教科のSGH化をととした生徒の協働力育成を評価する機会として位置づけるとともに、アンケート等を用いた分析を行い、今後の授業改善へとつなげる。

(2) 仮説との関係 仮説3

(3) 実施内容

平成31年1月31日(木)6限LHRに1・2年生全員を対象としてホームルーム教室にて実施した。担任の監督のもと、4名を基本とするグループに分かれて実施した。「2050年の社会」を視野に入れた取り組むべき最重要課題の検討に取り組んだ。

評価については、SGHグローバル思考力コンテスト担当が全グループの解答をそれぞれ、分析力、論理力、想像力、表現力の4つの観点で評価し、最優秀賞1グループ・優秀賞3グループを選出した。

(4) 成果

生徒アンケートの質問2「チームで協働しながら、コンテストに取り組むことができた(協働力)」のA評価が59.7%と最も高く、答えのない課題についてチームで協働しながら解決法を提案するという本取組のねらいを達成することができた。

(5) 課題

質問6「様々な角度から、資料の分析をすることができた(課題分析能力)」のA評価が32.6%、肯定的評価が74.9%と、他の質問と比べて低かった。課題分析能力の向上を目的として研究開発したリサーチクエスションの手法をコンテストに導入し、平常の授業との関連を深める。

■グローバルネットワーク京都交流会

(1) 目的

京都府教育委員会が指定したグローバル教育を推進するグローバルネットワーク京都9校の生徒・教職員が集まり、課題研究内容のプレゼンテーションやポスターセッションをととして、課題研究内容を深化させるとともに、課題研究の手法の共有・改善を行う。また、グローバルネットワーク京都の幹事校として、他の連携校に対し、SGH研究開発の成果普及を図る。

(2) 仮説との関係 仮説3

(3) 実施内容

平成31年2月2日(土)に京都工芸繊維大学において実施。グローバルネットワーク京都9校、大学関係者等が参加した。全体テーマである「持続可能な国際社会の展望」について、事前実施された論文コンテスト表彰に加え、各グローバルネットワーク校は、午前にプレゼンテーション、午後にポスターセッションに参加した。

(4) 成果

平成30年11月15日(木)の「イノベーション探究Ⅱ」ポスターセッションにおいて校内外からフィードバックを受け、さらに課題研究を行った上で2月の「グローバルネットワーク京都交流会」で発表するなど、成果発表を年間指導計画の中に計画的・継続的に位置づけながら研究内容を深める仕組みを作ることができた。今回のフィードバックをさらに「イノベーション探究Ⅲ」における英語論文内容の深化につなげさせたい。

また、管理機関である京都府教育委員会と連携しながら、グローバルネットワーク京都の幹事校として、国内外をフィールドとした課題研究の取組や独自教材など、SGH研究開発の成果を他の京都府立高校に普及させることができた。

(5) 課題

質問5「英語によるプレゼンテーションやポスターセッションを参観して、英語を学習する意欲が向上した」のA評価が23.5%、肯定的評価が83.8%と他の質問項目よりやや低かった。参観者として即興で英語を用いて質問をするのは難しいが、「グローバル・コミュニケーションⅠⅡ」の授業等をとおして、英語での質疑応答に慣れるように指導を行う。

■2018年度SGH全国高校生フォーラム、SGH甲子園2019

(1) 目的

「イノベーション探究ⅠⅡ」等で行っている課題研究の研究成果を発表し、フィードバックを受けることで課題研究内容の深化を図る。

また、同世代のSGH校生徒との課題研究に関する交流により刺激を受け、学習意欲を高めるとともに、他のSGH校の先進的な取組や手法について学び、その内容を本校の生徒間で普及させることをとおして、研究開発の質的改善を行う。

(2) 仮説との関係 仮説3

(3) 実施内容

ア 2018年度SGH全国高校生フォーラム

平成30年12月15日（土）東京国際フォーラムにて開催

2年生4名がポスターセッションに参加

タイトル「若者への認知を高めることによる京都の中小企業の人材確保に向けた方策」

イ SGH甲子園2019

平成31年3月23日（土）関西学院大学西宮上ヶ原キャンパスにて開催

2年生4名がポスターセッションにエントリー

タイトル「移民のミライ ～わたしたちと移民が共生するには～」

(4) 成果

SGH全国高校生フォーラムでは、SGH校・SGHアソシエイトの生徒に加え、アジア高校生架け橋プロジェクトによる留学生ともSDGsの達成に向けたディスカッション等を行うことができた。また、ポスターセッションでは、参観者との英語による質疑応答をとおし、課題研究内容を深化させることができた。

(5) 課題

全国レベルの高校生や海外からの優秀な留学生からの英語による質問内容は質が高く、仮に日本語であっても答えることが難しい場面を多く経験できた。独自教材として研究開発してきた課題研究のポスターについては型ができつつあるので、次年度は質疑応答の準備に重点的に取り組み、発表機会をより効果的に活用できるように改善する。

ウ 成果

科目・行事ごとに実施した評価やアンケートを基礎データとし、実用英語技能検定、GTEC及び「SGH事業に関する生徒アンケート」等の結果を踏まえて、「WEB書面調査」・「目標設定シート」を作成した。さらに、「SGH事業に関する教職員アンケート」の結果を加えて、3つの仮説を検証するために「仮説を検証するための指標」を作成し、仮説ごとに4点満点の総合評価を行った。

「仮説を検証するための指標」の改善については、平成29年度の第1回SGH運営指導委員会において運営指導委員から助言を受け、4段階評価のA（できた等）のみの評価に、AとB（概ねできた等）の評価合計を併記し、検証指標自体の妥当性についても検証を行った。

(7) 仮説の検証

a 仮説1

総合的な学習の時間「イノベーション探究ⅠⅡⅢ」及び学校設定科目「グローバル・コミュニケーションⅠⅡⅢ」等は、課題の発見・分析能力、多文化協働による主体的な課題解決能力を高める手段として有効である。

仮説1については、SGH中間評価を受け、「イノベーション探究ⅠⅡⅢ」と学校設定科目の横断的取組をさらに推進した結果、昨年度と今年度の総合評価を比較すると、A評価が1.92から2.17へ上昇し、A・B評価は4.0を維持できた。特に総合的な学習の時間「イノベーション探究Ⅰ」校内課題研究発表会のA評価が昨年度の17.0%から今年度は36.2%へ、「イノベーション探究Ⅱ」の授業アンケートA評価が24.1%から48.1%へ上昇した。また、「グローバル・コミュニケーションⅠ」のA評価が33.9%から48.3%に上昇するなど、探究のプロセスと英語学習を関連づけ、「京の智」を海外に発信するアクティブ・ラーニングを軸にした活動が成果につながった。

b 仮説2

京都府海外サテライト校への中期留学等の方策は、新しい視座と高い言語能力を確立する上で有効である。

仮説2については、昨年度と今年度の総合評価を比べると、A評価が2.75から3.08、A・B評価が2.92から3.33へ上昇した。SGH海外研修参加者のCEFRのA2レベル取得者割合については、研究開発1年次の50.0%から今年度4年次の72.4%へ上昇した。平成28年度から実施している2年生全員対象の海外研修・課題研究フィールドワークに向けた取組等をとおして、平成29年度専門学科「グローバル科」入学生のCEFRのA2レベル取得者割合が63.8%から77.2%へ上昇し、中期留学や海外研修に向けた事前・事後学習や海外留学プログラムが言語能力の向上に効果的であることが検証できた。本校生徒と海外の大学生・京都の留学生がSDGsの達成に向けて英語で議論する国際会議「鳥羽グローバル・サミット」については、昨年度と今年度を比較して、A評価が37.4%から40.3%へ、A・B評価が86.1%から88.5%へ上昇した。課題研究内容について英語を用いて議論し、提言発表を行う高度な教育活動ではあるが、困難さを乗り越えることをとおして、新しい視座を獲得しつつ、グローバル・マインドセットを涵養することができた。

c 仮説3

鳥羽の学びネットワークを活用したリベラルアーツ教育は、広い視野でグローバル社会を俯瞰できる教養力を育成するために有効である。

仮説3については、総合評価のA評価が2.33、A・B評価が4.00と昨年度と同様の値となった。昨年度と今年度を比較して、日本政策金融公庫「高校生ビジネスプラン・グランプリ」参加者のA評価が60.7%から67.6%へ、鳥羽グローバル思考力コンテストのA評価が38.1%から46.0%へ上昇するなど、グローバル企業、国際機関、SGU等の鳥羽の学びネットワークと連携しながらグローバル社会で必要とされる教養を身につける取組の評価が上昇した。

また、教職員アンケートのA評価が研究開発1年次の8.3%から今年度4年次の65.3%へと毎年上昇した。アンケートの自由記載では、鳥羽の学びネットワークとの連携から受ける刺激についての記載も多く、SGH事業が生徒に加えて教職員の変容につながることも検証できた。

(4) 生徒の変容

1～3年生全員を対象に実施した「SGH事業に関する生徒アンケート」の結果から、4年間のSGH事業の取組により、大きな変容が見られたことが分かった。

a 3年生SGH対象生徒

3年生については、昨年度と今年度の第2回に実施した結果について「4そう思う」と「3ややそう思う」を合わせた肯定的評価を比較すると、20質問中11質問で上昇が見られた。特に、研究開発中の教育課程で育むグローバル・リーダーに必要とされる5つの力に関する質問11から質問20の10質問のうち8質問が上昇し、他の2質問については同じ値となった。また、この10質問の平均は86.8%となった。昨年度3年生についてもこれら10質問全てが上昇した結果と合わせ、本教育課程がグローバル・リーダーとしての資質向上に効果的であることが検証できた。

3年間の5つの力の変容について、1年生第1回と3年生第2回のアンケート結果を比較した。肯定的評価の変容が最も大きかったのが、21.0%上昇した質問12「京都や世界の事柄について、それらの持つ新しい価値に気づくことができる」であった。昨年度の3年生も同質問について最も高い23.8%の上昇が見られたことから、本教育課程の総合的な学習の時間「イノベーション探究ⅠⅡⅢ」における京の智の再発見からグローバル・イシューの解決・SDGsの達成に向けた課題研究の一連の流れが、生徒の価値発見能力・課題分析能力の向上に効果的であることを検証できた。次に変容が大きかったのが、それぞれ9.7%上昇した質問14「異なる価値観を持つ人と協働して課題に取り組むことができる」と質問16「困難な課題に対して、あきらめずに粘り強く取り組むことができる」であった。昨年度の3年生についても3年間でそれぞれ上昇しており、本教育課程をとおり、多文化協働力や困難な課題に立ち向かう突破力・課題解決力を育成できることについても検証できた。

他の質問については、質問1「自主的に社会貢献や自己研鑽活動に取り組んでいる」が3年間で21.0%上昇し51.6%に達するとともに、質問5「英語によるコミュニケーション能力を向上させたい」が3年間85%以上を維持し、3年生第2回では89.5%に達した。グローバル社会に開かれた本教育課程における活動をとおり、自主的・主体的に社会に関わる経験を積ませるとともに、海外の大学生・高校生との英語を用いた課題研究をとおり、外国語学習に対する高い意欲を持たせ続けられることを検証できた。

一方で、1年生第1回と3年生第2回の3年間の肯定的評価の変容が大きく見られなかったのが、質問6「将来、国際化を推進する大学へ進学したい」の56.4%から58.1%、質問7「将来、できれば海外の大学へ進学したい」の17.0%から22.6%の値であった。3年間の課題研究を用いて大学入試を受験する生徒は着実に増えてはいるものの、高大接続をさらに進める観点から、次年度については進路指導と関連づけた取組をさらに充実させることを課題とする。

b 2年生SGH対象生徒

2年生は昨年度から全クラスがSGH対象となった。昨年度と今年度の第2回のアンケート結果を比較すると、20質問中15質問の肯定的評価が上昇した。特に、本教育課程で育む5つの力に関する全10質問が上昇した。最も大きく変容したのが9.2%上昇した質問13「異なる価値観を持つ人とコミュニケーションをとることができる」、次に大きく変容したのが7.0%上昇した質問20「読書や様々な体験をとおして、幅広い教養を身につけようとしている」であった。きょうと留学生生ハウスの留学生との協働学習をとおした多文化協働力の育成、課題研究の文献調査の質的向上を目的とした読書指導の成果が見られた。また、質問4「高校・大学卒業後に海外で仕事をしたり、国際的に活躍したい」については5.8%上昇し、質問5「英語によるコミュニケーション能力を向上させたい」については2年生全体で88.4%と高い値を維持できている。一方で、質問6「将来、国際化に重点を置く大学に進学したい」が39.2%とやや低いため、高大接続を見据えた進路指導を行う。

c 1年生SGH対象生徒

1年生は昨年度から全クラスがSGH対象となった。本年度第1回と第2回の結果について肯定的評価を比較すると、1年生全体については20質問中6質問が上昇した。SGHの取組を発展させて開講した専門学科「グローバル科」については20質問中16質問が上昇した。総合的な学

習の時間「イノベーション探究Ⅰ」、学校設定教科「グローバル」、学校設定科目「グローバル・コミュニケーションⅠ」等の履修の有無により、マインドセットの変容に差が出る結果となった。

1年生全体で最も大きく変容したのは、7.5%上昇した質問2「高校生として、自主的に留学または海外研修に行きたい」、以降は4.4%上昇した質問20「読書や様々な経験をとおして、幅広い教養を身につけようとしている」、2.1%上昇した質問13「異なる価値観を持つ人とコミュニケーションをとることができる」と続いた。2年生と同様に1年生についても課題研究の文献調査に関する読書指導の成果が見られた。また、きょうと留学生ハウスで学ぶSGUの京都大学や京都工芸繊維大学の留学生等との協働学習が生徒の変容に効果的であることが検証できた。

質問16「困難な課題に対して、あきらめずに粘り強く取り組むことができる」については、グローバル科は10.9%上昇したのに対し、普通科は6.2%減少した。また、質問1「自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組んでいる」について、グローバル科は12.4%上昇したのに対し普通科は4.4%減少した。次年度の課題として、教育課程の違いとそれに伴う教育活動の違いが生徒の変容にどのような影響を与えているかを分析し、改善に取り組む。また、アジア高校生架け橋プロジェクトをとおして2名の留学生を受入れ、海外の高校生とともに定常的に英語を用いながら協働学習できる環境を整え、多文化協働力をさらに高めることを課題とする。

(ウ) 教職員の変容

「SGH事業に関する教職員アンケート」を平成27年度は年1回、平成28年度以降は年2回、継続的に実施した。10項目・各4点満点の全平均が平成27年度1月は1.8であったのに対し、平成30年度第1回は3.4、第2回が3.5と4年間連続して上昇した。質問1「学校全体として体制を整え、組織的に取り組んでいると思いますか」が平成30年度第1回の3.4から第2回の3.7へ上昇するなど、「1人1役SGH」をスローガンに4年間継続して各年度当初に教職員全員で役割分担しながら研究開発を進めた成果がみられた。また、SGU大阪大学やユネスコ等と連携した発表会や学校説明会等をとおして多くの教職員が成果普及に取り組んだ結果、成果普及に係る質問10の平均値が3.8と最も高くなった。次年度は、総合的な探究の時間「イノベーション探究Ⅰ」等の探究学習の指導法をさらに共有し、教育効果の高い探究学習の指導方法や独自教材をより積極的に普及させる。

エ 次年度以降の課題

(ア) イノベーション探究研究グループ、グローバル・コンピテンシー育成研究グループ

研究開発4年次まで取り組んだ「イノベーション探究ⅠⅡⅢ」の教材開発に加えて、5年次は学校設定科目「京都の風土・世界の風土」の教材開発・冊子化を行う。また、開発した教材についてはホームページ上に公開し、より多くの教育関係者が活用できるようオープン・リソース化する。

(イ) 鳥羽の学びネットワーク研究グループ

4年次から教育課程内に位置づけて、単位認定を行った「海外インターシップ」の研究開発をさらに進め、プログラムの改善・成果検証とともに、継続的に実施できるモデル化を行う。

アジア高校生架け橋プロジェクトをとおして2名の留学生を受入れ、全生徒が英語を用いた協働研究や異文化交流を行うことができるグローバルな学習環境を整備する。

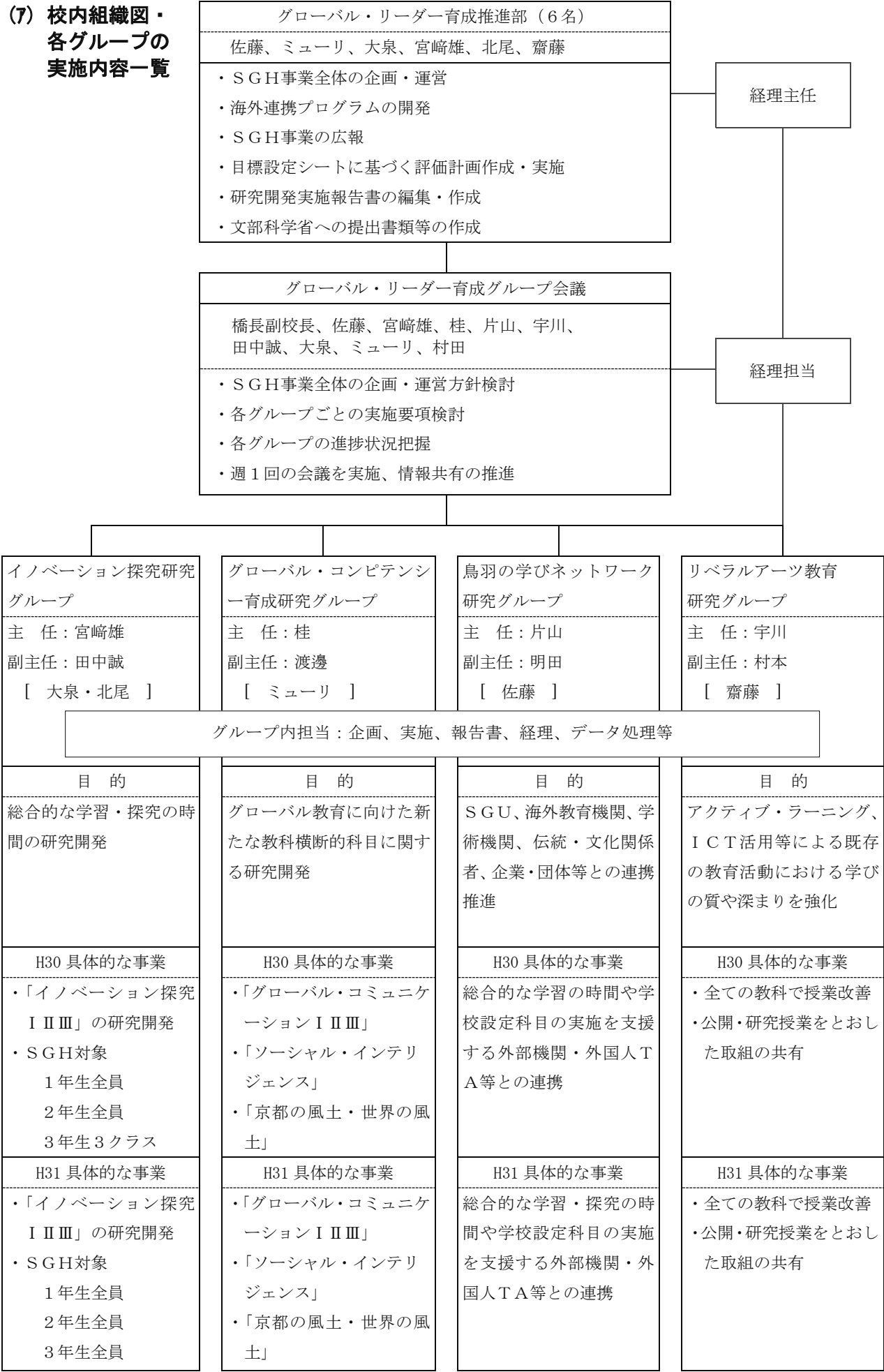
鳥羽グローバル・サミットの取組を発展させ、4年次まで参加いただいたSGUや海外の大学生、京都在住の留学生に加え、グローバル企業や国際機関の関係者、京都府教育委員会グローバルネットワーク京都校の高校生等に参加を依頼し、より多様な観点から課題研究内容を深化させられる国際会議を開催する。また、4年次に開催した中学生対象のSGHワークショップに加え、小学生対象にも同取組を開催し、SGHの成果普及を行うとともに、グローバル教育の仕組み作りに取り組む。

(ウ) リベラルアーツ教育研究グループ

SGH中間評価を受け、アクティブ・ラーニングへの指導法転換をさらに推進し、公開授業をとおした成果普及に取り組む。また、CEFRのB1レベル以上に到達する生徒数を増加させるために、ICT活用を推進し、個別最適化された主体的な外国語学習の研究開発を進める。

オ 資料

(7) 校内組織図・各グループの実施内容一覧



第1学年

平成30年度 鳥羽高校SGH 第1学年 各研究グループの実施内容一覧

月	学校行事	イノベーション探究研究グループ 総合的な学習の時間 「イノベーション探究Ⅰ」	グローバル・コンピテンシー育成研究グループ 学校設定科目 「ソーシャル・インテリ ジェンス」	学校設定科目 「グローバル・コミュニ ケーションⅠ」	リベラル アーツ教育 研究グルー プ	グローバル・リーダー育成推進部 イノベーション探究研究グループ 鳥羽の学びネットワーク研究グループ リベラルアーツ教育研究グループ
4	上			Presentation Skills ① Kyoto Topics		
	中	趣旨説明	情報社会の問題点	↓		
	下	京都イメージの確認・発表	情報セキュリティの確保	Presentation Skills ② Presenting Kyoto		GL 海外研修校内募集(韓国)
5	上		情報社会における法と 個人の責任	↓		
	中	葵祭フィールドワーク 調査方法を知る (京都ならではの葵祭を題材 に)	↓	Presentation Skills ③ Presentation Structure		GL 海外研修校内募集(上海)
	下	第1回考査	コンピュータの仕組み	↓		
6	上		情報のデジタル表現	Presentation Skills ④ Effective Pronunciation		
	中	公開授業	インターネットの仕組みと 活用	↓	公開授業	D-2 第1回英検(実用英語技能検定)
	下		情報の表現と伝達	Presentation Skills ⑤ Rehearsal		C-1 政策金融公庫ビジネスプラン・グランプリ講習Ⅰ
7	上	第2回考査	「京都フィールドワーク」ガイ ダンス	↓	教員研修	D-2 第1回GTEC検定日
	中	鳥羽グローバ ル・サミット	↓ パワーポイント等の ソフトウェア利用 各種機器の利用	Kyoto Presentations	↓	C-1 鳥羽グローバル・サミット[11日(水)～15日(日)]
	下					GL 片岡製作所 京都インターンシップⅠ C-1 JICA関西ワークショップ[27日(金)] C-1 政策金融公庫ビジネスプラン・グランプリ講習Ⅱ D-2 第1回TEAP
8	上	海外研修(韓 国)	＜カテゴリー＞ ①地域創造 ②人権 ③文化財 ④教育 ⑤産業			GL 海外研修[韓国ソウル8月6日(月)～8月9日(木)]
	中					
	下		統計とデータ活用の基本	Presentation Skills ⑥ Kyoto Research Issues		GL 海外研修校内募集(台湾)
9	上	れんが祭	既存のデータから、 データを読み取る手法 活用法、まとめ方な どを学ぶ	↓		C-1 政策金融公庫ビジネスプラン・グランプリエントリー提出 D-2 第2回TEAP
	中		データ処理と課題解決	Presentation Skills ⑦ Asking Questions		GL 第1回SGH運営指導委員会
	下					
10	上		アンケート調査から 集計と課題解決の 実践演習 仮説と検証を 実践する	Presentation Skills ⑧ Giving Comments Presentation Skills ⑨ Making Suggestions		D-2 第2回英検(実用英語技能検定) C-1 ビジネスプラン・グランプリ最終プラン提出
	中	第3回考査				GL 海外研修[上海、10月31日(水)～11月3日(土)]
	下	海外研修(上 海)				
11	上		仮説の検証	↓	研究授業 公開授業	
	中	SGH事業研究 発表会	「イノベーション探究Ⅰ」に おいて収集したデー タの分析、仮説を検証 し整理、まとめる	Kyoto Research Presentations & Discussion Debating Skills ① Debate Format	↓	A SGH事業研究発表会 D-2 第3回TEAP
	下					
12	上	第4回考査	発表準備	↓		GL 片岡製作所 京都インターンシップⅡ D-2 第2回GTEC検定日
	中	SGH全国高校 生フォーラム		Debating Skills ② Kyoto Debate Topics		GL SGH全国高校生フォーラム GL 海外研修成果報告会(終業式・韓国・上海)
	下	海外研修(台 湾)		↓		GL 海外研修[台湾、24日(月)～28日(金)]
1	上			Debating Skills ③ Making Arguments		
	中			↓		A SGU立命館大学課題研究宿泊研修
	下	グローバル思 考力コンテスト	校内課題研究発表会準備	Debating Skills ④ Rebuttals		D-2 第3回英検(実用英語技能検定) D-2 グローバル思考力コンテスト
2	上	グローバルネッ トワーク京都交流会	報告内容を学校HP 上に掲載する	↓		A グローバルネットワーク京都交流会
	中		校内課題研究発表会 まとめ・省察	Toba Debate Contest		GL 第2回SGH運営指導委員会
	下		「イノベーション探究Ⅱ」に向けて	Debating Skills ⑤ Toward Global Summit		A 課題研究発表会
3	上	学年末考査	まとめ	↓	まとめ	
	中					GL 海外研修成果報告会(終業式・台湾)
	下	SGH甲子園				A SGH甲子園

第2学年		平成30年度 鳥羽高校SGH 第2学年 各研究グループの実施内容一覧							
月	学校行事	イノベーション探究研究グループ 総合的な学習の時間 「イノベーション探究Ⅱ」	グローバル・コンピテンシー育成研究グループ 学校設定科目 「京都の風土・ 世界の風土」平日 学校設定科目 「京都の風土・ 世界の風土」土曜 学校設定科目 「グローバル・コミュニ ケーションⅡ」			リベラル アーツ教 育研究グ ループ	グローバル・リーダー育成推進部 イノベーション探究研究グループ 鳥羽の学びネットワーク研究グループ リベラルアーツ教育研究グループ		
4	上	春季休業課題図書読書成果発表会	ガイダンス「風土とは」			Advanced Debate ① Introducing Global Issues			
	中	研究グループ形成、仮研究 テーマ決定	テーマ①京都の風土物語 地形・気候からみた京都			↓			
	下		テーマ②「京都はなぜ千年以上都市であり 続けられるのか？」 ～Sustainable City Kyoto～ 都市発達史（古代・中世・近世・近代以降）			Advanced Debate ② Evidence and Definitions	GL	海外研修校内募集（韓国）	
5	上	京都光華女子大学 講義及び ワークショップ 「鳥羽高校の課題研究につ いて」	テーマ③世界の民族と宗教			Advanced Debate ③ Effective Arguments	GL	海外研修校内募集（上海）	
	中	第1回考査	世界の宗教			↓			
	下		国立民族学博物館 フィールドワーク *「イノベーション 探究Ⅱ」と共催			Advanced Debate ④ Effective Questions			
6	上	SGU大阪大学講義及び ワークショップ 「よい研究発表とはどのよう なものか？」	テーマ④「神仏習合って？」			↓	公開授業	D-2 第1回英検（実用英語技能検定）	
	中		テーマ⑤「みんなちがって、大変だ！」 ～民族・宗教の違いから～			Advanced Debate ⑤ Debate Practice		C-2 政策金融公庫ビジネスプラン・グランプリ講習Ⅰ	
	下		第2回考査			↓	教員研修	D-2 第1回GTEC検定日	
7	上	「研究計画書」Ver.1作成	風土的差異を踏まえた異文化協働学習 （「鳥羽グローバル・サミット」に向けて）			Global Issues Debate	↓	C-1 鳥羽グローバル・サミット[11日（水）～15日（日）]	
	中	鳥羽グローバ ル・サミット	夏季休業 SGU大阪大学アカデミック・ライティング *「イノベーション探究Ⅱ」と共催					GL C-1 C-1 D-2 片岡製作所 京都インターンシップⅠ JICA関西ワークショップ[27日（金）] 政策金融公庫ビジネスプラン・グランプリ講習Ⅱ 第1回TEAP	
	下						GL 海外研修[韓国、8月6日（月）～8月9日（木）]		
8	上	海外研修（韓 国）				Advanced Debate ⑥ Advanced Debate Topics		A SGU大阪大学アカデミック・ライティング研修	
	中	SGU大阪大学アカデミック・ ライティング講座 （大阪大学豊中キャンパス）				↓	GL	海外研修校内募集（台湾）	
	下	れんが祭	テーマ⑥「日本に 難民がやってき た！さあ、どうす る？」			↓			
9	上	研究グループ研究テーマ確 定 「研究計画書」Ver.2＝ポス ター作成	難民の定義と歴史 的経緯 難民の現状と各国 の対応 難民受入れの意義			Advanced Debate ⑦ Reconstruction		C-1 政策金融公庫ビジネスプラン・グランプリエントリー提出 D-2 第2回TEAP	
	中					↓		GL	第1回SGH運営指導委員会
	下					Advanced Debate ⑧ Effective Rebuttals		D-2 第2回英検（実用英語技能検定）	
10	上	第3回考査				↓		C-1 ビジネスプラン・グランプリ最終プラン提出	
	中		海外研修（上 海）	Advanced Debate ⑨ Effective Closing			研究授業 公開授業	GL	海外研修[上海、10月31日（水）～11月3日（土）]
	下			↓					
11	上	SGH事業研究 発表会	SGH事業研究発表 会			↓		A SGH事業研究発表会 D-2 第3回TEAP	
	中	ポスターセッション （課題研究中間発表）	テーマ⑦「東南アジアの風土を知ろう」 （シンガポール研修に向けて）			Academic Writing ① Report Structure	↓		
	下	ポスターセッション振返り	第4回考査			↓		GL D-2 片岡製作所 京都インターンシップⅡ 第2回GTEC検定日	
12	上	「研究計画書」Ver.3＝「研究 ノート」に向けた研究概要作 成	東南アジアの地誌			Academic Writing ② Background Information		GL GL SGH全国高校生フォーラム 海外研修成果報告会（終業式、韓国・上海）	
	中	SGH全国高校 生フォーラム	冬季休業			↓		GL 海外研修[台湾、24日（月）～28日（金）]	
	下	海外研修（台 湾）				Academic Writing ③ Hypothesis			
1	上	「研究ノート」＝研究グル ープ論文作成・完成	3年次の選択に分かれての風土学習 世界史講座 日本史講座 地理講座			↓		D-2 第3回英検（実用英語技能検定） D-2 グローバル思考力コンテスト	
	中					Academic Writing ④ Explaining Results	A	グローバルネットワーク京都交流会	
	下					Academic Writing ⑤ Conclusions	GL	第2回SGH運営指導委員会	
2	上	「イノベーション探究Ⅲ」に 向けて							↓
	中	春季休業 英語論文作成				Spring Vacation Research Report First Drafts	GL	海外研修成果報告会（終業式、台湾）	
	下	SGH甲子園					A	SGH甲子園	

第3学年

平成30年度 鳥羽高校SGH 第3学年 各研究グループの実施内容一覧

月	学校行事	イノベーション探究研究グループ	グローバル・コンピテンシー 育成研究グループ	リベラル アーツ教 育研究グ ループ	グローバル・リーダー育成推進部 イノベーション探究研究グループ 鳥羽の学びネットワーク研究グループ リベラルアーツ教育研究グループ	
		総合的な学習の時間 「イノベーション探究Ⅲ」	学校設定科目 「グローバル・コミュニケー ションⅢ」			
4	上		Advanced Academic Writing I			
	中	アカデミック・ライティング演習 Ⅰ期(英語)				
	下					
5	上	鳥羽グローバル・サミット準備				
	中					
	下	第1回考査				
6	上					
	中	公開授業		公開授業	D-2	第1回英検(実用英語技能検定)
	下					
7	上	第2回考査		教員研修	D-2	第1回GTEC検定日
	中	鳥羽グローバル・サミット	鳥羽グローバル・サミット	Global Issues Discussion	C-1	鳥羽グローバル・サミット [11日(水)～15日(日)]
	下				D-2	第1回TEAP
8	上					
	中					
	下	アカデミック・ライティング演習 Ⅱ期(英語)	Advanced Academic Writing II			
9	上	れんが祭				
	中				D-2	第2回TEAP
	下				GL	第1回SGH運営指導委員会
10	上				D-2	第2回英検(実用英語技能検定)
	中	第3回考査				
	下					
11	上			研究授業 公開授業		
	中	SGH事業研究 発表会			D-2	第3回TEAP
	下					
12	上	第4回考査			D-2	第2回GTEC検定日
	中					
	下					
1	上					
	中					
	下	学年末考査			D-2	第3回英検(実用英語技能検定)
2	上					
	中				GL	第2回SGH運営指導委員会
	下					
3	上	卒業式		まとめ		
	中					
	下					

(イ) 仮説を検証するための指標

目的	未来を見すえた新たな価値を創り出す価値創造力、異文化コミュニケーションを通じて課題に取り組む協働力、困難な課題と向き合い解決する突破力、多様な価値観を尊重する寛容力、幅広い見識を持ち広い視野で社会を俯瞰する教養力を備え、持続可能で豊かな社会を創造することに貢献するグローバル・リーダーを育成する。
----	--

仮説1	総合的な学習の時間「イノベーション探究ⅠⅡⅢ」及び学校設定科目「グローバル・コミュニケーションⅠⅡⅢ」等は、課題の発見・分析能力、多文化協働による主体的な課題解決能力を高める手段として有効である。
-----	--

分野	評価規準（SGH対象生徒に占める割合） 25%未満を1、25%以上を2、50%以上を3、75%以上を4と評価	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度							
		Aのみ		Aのみ		A・B		Aのみ		A・B					
		%	評価	%	評価	%	評価	%	評価	%	評価				
1 イノベーション探究Ⅰ	校内課題研究発表会でA評価	33.2	2	43.8	2	97.3	4	17.0	1	89.5	4	36.2	2	97.8	4
	授業アンケート各項目「できた」の平均	33.0	2	31.3	2	91.8	4	38.6	2	90.4	4	45.8	2	93.7	4
2 イノベーション探究Ⅱ	ポスターセッションでA評価	—	—	29.9	2	80.8	4	35.1	2	84.2	4	37.5	2	95.8	4
	日本語論文がA評価	—	—	30.9	2	92.6	4	52.0	3	97.6	4	論文作成中			
	授業アンケート各項目「できた」の平均	—	—	23.2	1	87.4	4	24.1	1	86.1	4	48.1	2	94.6	4
3 イノベーション探究Ⅲ	英語論文がA評価	—	—	—	—	—	—	27.5	2	93.8	4	58.0	3	100	4
	授業アンケート各項目「できた」の平均	—	—	—	—	—	—	34.8	2	86.2	4	32.1	2	86.6	4
4 グローバル・コミュニケーションⅠ	授業アンケート各項目「そうである」の平均	23.3	1	17.4	1	80.1	4	33.9	2	86.0	4	48.3	2	94.0	4
5 グローバル・コミュニケーションⅡ	Socratic Seminar でA評価	—	—	26.6	2	87.3	4	24.7	1	80.3	4	36.3	2	88.3	4
	授業アンケート各項目「そうである」の平均	—	—	29.6	2	83.8	4	27.3	2	83.2	4	39.0	2	90.1	4
6 グローバル・コミュニケーションⅢ	授業アンケート各項目「そうである」の平均	—	—	—	—	—	—	43.8	2	87.1	4	31.1	2	86.4	4
7 ソーシャル・インテリジェンス	授業アンケート各項目「あてはまる」の平均	43.7	2	45.5	2	90.8	4	51.2	3	91.7	4	54.5	3	93.0	4
8 京都の風土・世界の風土	授業アンケート各項目「そうである」の平均	—	—	23.3	1	87.1	4	30.3	2	86.3	4	48.1	2	95.1	4
仮説1の総合評価（4点満点）		1.75		1.70		4.00		1.92		4.00		2.17		4.00	

仮説2	京都府海外サテライト校への中期留学等の方策は、新しい視座と高い言語能力を確立する上で有効である。
-----	--

分野	評価規準（SGH対象生徒に占める割合） 25%未満を1、25%以上を2、50%以上を3、75%以上を4と評価	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度								
		Aのみ		Aのみ		A・B		Aのみ		A・B						
		%	評価	%	評価	%	評価	%	評価	%	評価					
1	中期留学	参加者に占める英検準2級以上取得者数	100.0	4	66.7	3	—	3	100.0	4	—	4				
2	海外研修（インターンシップを含む）	参加者に占める英検準2級以上取得者数	50.0	3	44.0	2	—	2	65.3	3	—	3	72.4	4	—	4
		国別アンケート各項目「そうである」の平均	81.5	4	76.6	4	93.1	4	87.9	4	97.6	4	73.8	3	95.2	4
3	鳥羽グローバル・サミット	参加者アンケート各項目「そうである」の平均	63.3	3	39.6	2	87.6	4	37.4	2	86.1	4	40.3	2	88.5	4
4	英検	1年生準2級以上の割合（普通科G、グローバル科）	17.5	1	53.8	3	—	3	63.8	3	—	3	55.0	3	—	3
		2年生準2級以上の割合（普通科G、グローバル科）	—	—	26.4	2	—	2	54.4	3	—	3	77.2	4	—	4
		3年生準2級以上の割合（普通科G）	—	—	—	—	—	—	31.5	2	—	2	60.5	3	—	3
5	GTEC	1年生A2以上（普通科G・グローバル科）	23.8	1	43.8	2	—	2	66.7	3	—	3	100.0	4	—	4
		2年生A2以上（普通科G・グローバル科）	—	—	19.2	1	—	1	86.2	4	—	4	98.7	4	—	4
6	外部模試	1年生A2以上（普通科G・グローバル科）	26.3	2	29.1	2	—	2	25.3	2	—	2	33.8	2	—	2
		2年生A2以上（普通科G・グローバル科）	—	—	10.4	1	—	1	16.9	1	—	1	40.3	2	—	2
		3年生A2以上（普通科G）	—	—	—	—	—	—	12.6	2	—	2	33.3	2	—	2
仮説2の総合評価（4点満点）			2.57		2.20		2.40		2.75		2.92		3.08		3.33	

仮説3	鳥羽の学びネットワークを活用したリベラルアーツ教育は、広い視野でグローバル社会を俯瞰できる教養力を育成するために有効である。
-----	--

分野	評価規準（対象者に占める割合） 25%未満を1、25%以上を2、50%以上を3、75%以上を4と評価	平成27年度		平成28年度				平成29年度				平成30年度					
		Aのみ		Aのみ		A・B		Aのみ		A・B		Aのみ		A・B			
		%	評価	%	評価	%	評価	%	評価	%	評価	%	評価	%	評価		
1	JICA関西	参加者アンケート各項目「そうである」の平均		45.2	2	60.0	3	95.3	4	52.8	3	88.3	4	47.8	2	90.5	4
2	高校生ビジネスプラン・グランプリ	参加者アンケート各項目「そうである」の平均		—	—	55.0	3	96.0	4	60.7	3	98.1	4	67.6	3	93.8	4
3	グローバル思考力コンテスト	アンケート各項目「そうである」の平均		—	—	31.4	2	85.2	4	38.1	2	88.5	4	46.0	2	87.4	4
4	生徒アンケート（1月）	Q19、Q20で「そう思う」の平均		42.5	2	46.8	2	81.3	4	39.0	2	79.6	4	34.0	2	79.6	4
5	教員アンケート（1月）	各項目「思う」の平均		8.3	1	41.5	2	77.8	4	46.5	2	87.9	4	65.3	3	93.7	4
6	学校経営計画	学習指導領域「十分達成できた」の平均		4.2	1	4.2	1	70.4	3	38.2	2	92.1	4	46.6	2	95.3	4
		仮説3の総合評価（4点満点）		1.50		2.17		3.83		2.33		4.00		2.33		4.00	

■仮説2の4～6については、学校設定科目「グローバル・コミュニケーションⅠⅡⅢ」の履修生徒が対象（専門学科グローバル科は平成29年度開講）

(ウ) 教職員アンケート結果

- 1 実施時期 平成28年1月実施 (回答数54名)
 平成28年7月実施 (回答数71名) 平成29年2月実施 (回答数68名)
 平成29年7月実施 (回答数81名) 平成30年1月実施 (回答数82名)
 平成30年10月実施 (回答数77名) 平成31年1月実施 (回答数78名)
- 2 回答方法 4 思う 3 やや思う 2 やや思わない 1 思わない 0 わからない
- 3 結果

質問	内容	H28.1月 平均値	H28.7月 平均値	H29.2月 平均値	H29.7月 平均値	H30.1月 平均値	H30.10月 平均値	H31.1月 平均値	10月-1月 増減
①	学校全体として体制を整え、組織的に取り組んでいると思いますか。	2.0	2.8	3.2	3.2	3.4	3.4	3.7	0.3
②	S G H事業の実施により、御自身の意識の変容がみられましたか。	2.7	2.5	3.0	3.1	3.2	3.4	3.4	0.0
③	教育課程の編成は、5つの力を育てるのに適切だと思いますか。 ※育む5つの力…価値創造力・協働力・突破力・寛容力・教養力	1.4	2.1	2.9	3.0	3.1	3.4	3.4	0.0
④	「イノベーション探究ⅠⅡⅢ」の取組によって、現代社会に対する関心と深い教養、論理的思考力、批判的思考力、コミュニケーション能力、問題解決能力、行動力を育成していると思いますか。	1.8	2.2	3.1	3.1	3.2	3.4	3.6	0.2
⑤	S G Hによる取組が、課題の解決に向けて主体的・協働的に学ぶ授業になっており、学校全体の授業改善になっていると思いますか。	1.9	2.3	2.8	3.0	3.1	3.4	3.4	0.0
⑥	外国語教育に関する取組は、課題研究との関連性が明確であり、研究課題に取り組むために必要な能力を向上させるための効果的な取組となっていると思いますか。	1.2	1.9	2.5	2.9	2.8	3.2	3.3	0.1
⑦	英語等も含めたグループワーク、ディスカッション、論文作成、プレゼンテーション、探究型学習、またフィールドワークや成果発表等のための海外研修等が、課題研究を実施するための効果的な取組となっていると思いますか。	2.3	2.7	3.0	3.2	3.4	3.5	3.6	0.1
⑧	地域や学校の特性を生かした鳥羽の学びネットワーク等の取組は、課題研究を中心とした学校全体の取組として効果的に行われていると思いますか。	2.1	2.2	2.8	3.1	3.0	3.4	3.5	0.0
⑨	次の3つの仮説に基づく成果や課題の分析が適切に行われていると思いますか。 ① 総合的な学習の時間「イノベーション探究ⅠⅡⅢ」及び学校設定科目「グローバル・コミュニケーションⅠⅡⅢ」等は、課題の発見・分析能力、多文化協働による主体的な課題解決能力を高める手段として有効である。 ② 京都府海外サテライト校への中期留学等の方策は、新しい視座と高い言語能力を確立する上で有効である。 ③ 鳥羽の学びネットワークを活用したリベラルアーツ教育は、広い視野でのグローバル社会を俯瞰できる教養力を育成するために有効である。	1.1	1.9	3.0	3.1	3.4	3.5	3.4	-0.1
⑩	校外向けの発表会や説明会・HP・パンフレット等を用いて、研究成果の普及に積極的に取り組んでいると思いますか。	1.7	3.1	3.6	3.6	3.5	3.7	3.8	0.1
全平均		1.8	2.4	3.0	3.1	3.2	3.4	3.5	0.1

4 質問ごとの評価分布

H30.10月実施

質問	4 思う	3 やや思う	2 やや思わない	1 思わない	0 わからない
①	58.4	29.9	9.1	1.3	1.3
②	51.9	36.4	9.1	1.3	1.3
③	55.8	35.1	3.9	0.0	5.2
④	57.1	36.4	1.3	0.0	5.2
⑤	55.8	32.5	7.8	0.0	3.9
⑥	61.0	24.7	2.6	0.0	11.7
⑦	62.3	31.2	2.6	0.0	3.9
⑧	57.1	35.1	3.9	0.0	3.9
⑨	61.0	32.5	2.6	0.0	3.9
⑩	74.0	24.7	1.3	0.0	0.0



H31.1月実施

質問	4 思う	3 やや思う	2 やや思わない	1 思わない	0 わからない
①	69.6	27.8	1.3	1.3	0.0
②	55.7	38.0	1.3	3.8	1.3
③	59.5	32.9	3.8	0.0	3.8
④	69.6	27.8	0.0	0.0	2.5
⑤	51.9	39.2	6.3	0.0	2.5
⑥	63.3	25.3	2.5	0.0	8.9
⑦	72.2	25.3	0.0	0.0	2.5
⑧	65.8	24.1	5.1	0.0	5.1
⑨	63.3	27.8	2.5	0.0	6.3
⑩	82.3	15.2	1.3	1.3	0.0

3 具体的な活動内容

(1) 研究開発単位Ⅰ：総合的な学習の時間「イノベーション探究ⅠⅡⅢ」

ア 総合的な学習の時間「イノベーション探究Ⅰ」（総合的な学習の時間・1年・1単位）

1 ねらい

「イノベーション探究Ⅰ」ー地域再発見プログラムーでは、「京の智」を再発見・発信する過程において、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に探究学習を行い、価値再認識力を高め、課題発見能力・課題分析能力を向上させる。また、校外の鳥羽の学びネットワークの外部講師と連携した講義およびワークショップ、京都フィールドワークや、立命館大学等のSGUとの連携をとおして、探究学習を効果的に進める基本的な研究手法を獲得し、協働的に探究する姿勢を身につける。

目標は次の3点である。

- 1 遺すべき地域の価値「京の智」を再発見し、発信する。
- 2 「ソーシャル・イノベーション」の主体者としてグローバルな課題意識を形成する。
- 3 グローバル・リーダーに必要な力である価値創造力・協働力・突破力・寛容力・教養力を養う。

2 昨年度の課題と今年度の改善点

昨年度は、伝統・文化に係る探究領域の再検討と「京の智」の再発見へ向けた指導体制の整備が課題であったことを踏まえ、今年度は年度初めに新たに5つの探究領域を設定し、各領域内においてどのような視点で探究していけばよいかについて、ワークショップを交えたガイダンスを実施した。また、学校設定科目「グローバル・コミュニケーションⅠ」・「ソーシャル・インテリジェンス」と総合的な学習の時間「イノベーション探究Ⅰ」を同じ教員が担当することにより、昨年度以上に教科横断的な取組を行える体制を整えた。

3 概要（実践）

(1) 年間計画

京都における地域創造、人権、文化財、教育、産業の5つを新たな探究領域とし、「京の智」を探究する課題研究を進める。身近な地域・事象から調査・探究し、異文化理解、グローバル・イシューの解決へとつなげる。探究形態としては、個人レポートの作成と研究グループ別の協働探究学習による研究を並行して進める。年間の概要は次頁の表ー1のとおりである。

(2) 評価の方法

「京の智」の再発見をとおした課題の発見と解決に向けて、主体的・協働的に探究学習を行ったプロセスを、ワークシート等により指導者が評価した。また、発表や作品については生徒が相互評価し、さらに指導者が評価した。なお、校内課題研究発表会においては、「評価票」（表ー2）を用いて生徒が相互評価および自己評価を行い、その上で指導者が最終評価を行った。

(3) 海外の高校生・大学生との協働研究

SGH韓国ソウル海外研修ではハンヨン高校、SGH上海海外研修では復旦大学・上海市嘉定一中、SGH台湾海外研修では国立台湾大学・台中市立台中工業高級中等学校と連携した取組を行った。

自分たちが日本で探究してきた課題研究について、英語によるプレゼンテーション、ディスカッション、インタビュー調査等を実施した。現地ではしか聞けない意見を聞くことができ、研究内容にグローバルな視点を組み入れることができた。また、海外の大学生から、課題研究内容や課題研究の手法について指導・助言を受けた。

表－1 「イノベーション探究Ⅰ」年間の概要（各回とも2時間連続授業）

段階	学期	回	月日	内容	海外研修
「京の智」に触れてみよう	1学期	1	4月21日(土)	ガイダンス・趣旨説明、「京都」のイメージの共有	SGH 韓国研修
		2	4月28日(土)	探究領域別オリエンテーション「①地域創造」「②人権」	
		3	5月12日(土)	探究領域別オリエンテーション「③文化財」、葵祭事前学習	
		4	5月15日(火)	葵祭フィールドワーク	
		5	5月26日(土)	講義及びワークショップ「資料論」・「地域遺産論」～文化財を創ろう～ 京都文化博物館 村野正景・西山剛先生	
		6	6月9日(土)	講義及びワークショップ 「フィールドワーク&ワークショップ入門」 福知山公立大学 杉岡秀紀先生	
		7	6月23日(土)	探究領域別オリエンテーション「④教育」「⑤産業」	
		8	7月7日(土)	豪雨のため休業(9/29へ)	
		9	7月11日(水)～15日(日)	鳥羽グローバル・サミット	
「京の智」を取り入れよう	夏休み	10		「京都フィールドワーク」(夏季) 探究領域:①地域創造 ②人権 ③文化財 ④教育 ⑤産業	SGH 韓国研修
「京の智」を出し合おう	2学期	7	9月15日(土)	「京都フィールドワーク」の成果確認、研究グループ編成	SGH 上海研修
		8	9月22日(土)	講義及びワークショップ 「チームがうまく機能する秘訣と課題研究の手法を知る」 京都光華女子大学 乾明紀先生	
		9	9月29日(土)	研究グループ別協働探究学習ガイダンス	
		10	10月13日(土)	研究グループ別協働探究学習 (午後)京都府立図書館レファレンス(グループ代表者)	
		11	10月27日(土)	講義及びワークショップ 「聞き手の心に火を付ける！プレゼンテーション術」 福知山公立大学 杉岡秀紀先生	
		12	11月10日(土)	研究グループ別協働探究学習	
		13	11月15日(木)	SGH事業研究発表会(2年生の発表を聴講)	
		14	12月8日(土)	研究グループ別協働探究学習	
		15	12月15日(土)	研究グループ別協働探究学習	
	冬休み	16		探究まとめ(パワーポイント作成準備) 冬季フィールドワーク	SGH 台湾研修
「京の智」を発信しよう	3学期	15	1月12日(土)～13日(日)	「イノベーション探究Ⅰ」課題研究宿泊研修 於:立命館大学びわこ・くさつキャンパス	ソーシャル・インテリジェンスでの実習
		16	2月2日(土)	京都府教育委員会主催「グローバルネットワーク京都交流会」 於:京都工芸繊維大学	
		17	2月23日(土)	校内課題研究発表会	
	春休み	18	3月下旬	春休み課題(課題図書) SGH甲子園	

表ー2「イノベーション探究Ⅰ」校内課題研究発表会評価票

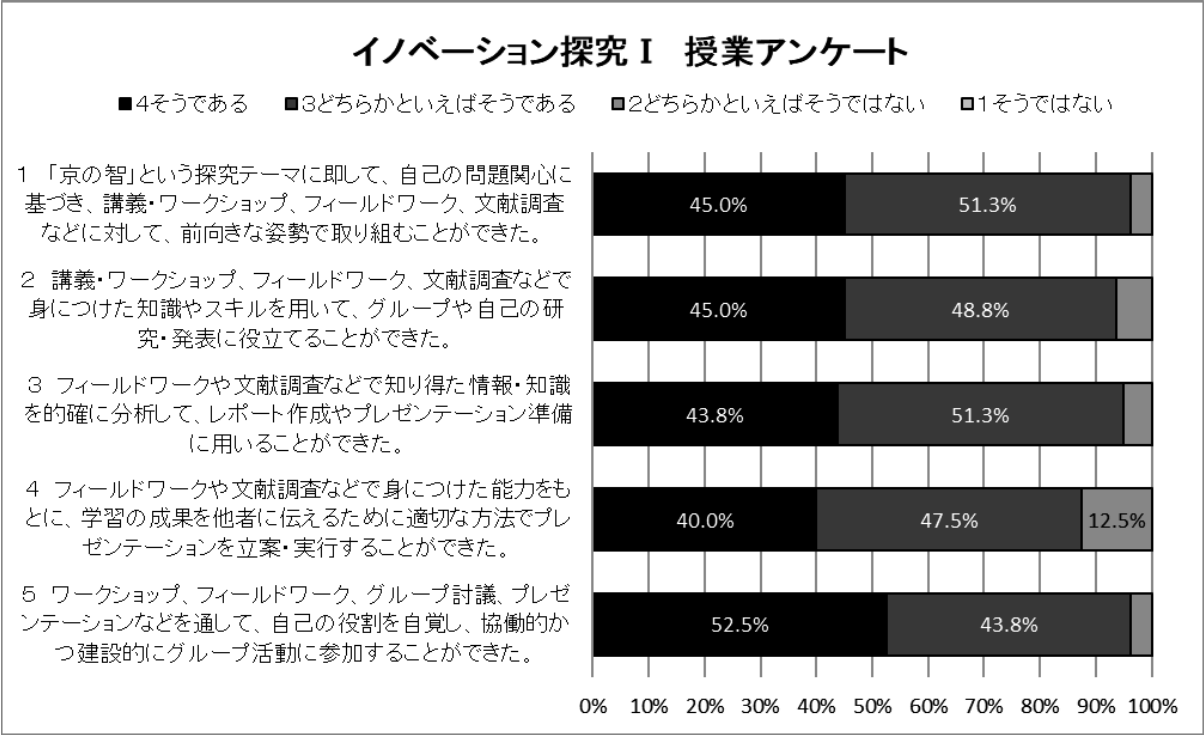
平成30年度 イノベーション探究Ⅰ 校内課題研究発表会評価票						
評価者						
研究グループ		—				
		関心・意欲・態度	論理的思考力・判断力・表現力		協働力・他者理解力	知識・理解
		「京の智」発見力	分析力	表現力	協働力	調査力
評価基準	A: 完璧 (Great)	「京の智」を再発見し、「京の智」を継承する意義を見出して発信することができた。	「京の智」を継承するにあたっての課題を見つけ、資料を根拠として多角的に分析し、解決方法を提案することができた。	聞き手を引きつけるような、効果的なプレゼンテーションができた。	研究グループで協働的に役割分担をして探究・発表を行い、各自が十分に役割を果たすことができた。	書籍やインターネットを用いて文献調査を行い、インタビュー調査を十分に実施して、資料を収集した。
	B: 合格 (Good)	「京の智」の再発見に挑み、「京の智」を継承する意義を見出して発信する努力をした。	「京の智」を継承するにあたっての課題を見つけ、資料を根拠として分析し、解決方法を提案することができた。	聞き手に伝わるプレゼンテーションができた。	研究グループで協働的に役割分担をして、探究・発表ができた。	書籍やインターネットを用いて文献調査を行い、インタビュー調査も実施して、資料を収集した。
	C: がんばろう (Needs Work)	「京の智」を再発見できなかった。	「京の智」を継承するにあたっての課題を見つけ、分析することができなかった。	聞き手に伝わるプレゼンテーションができなかった。	研究グループで協働することができなかった。	インターネットのみで文献調査を行い、資料を収集した。
評価記入欄 A～C						
よりよい研究発表にするための方策						

※「京の智」とは・・・京にまつわる様々な営みを探究したことで改めて気づいた、京都で育まれ今後も遺していくべき価値のこと

総合評価 (A～C)

4 成果

(1) アンケート結果



(2) 生徒の感想

- ・自分で調べたことから分析する力を身につけたので、来年度はさらに様々な視点から分析ができるようになりたい。
- ・様々なワークショップや講義をとおして、グループ内で助け合う力や、探究学習を進める上で自分たちに必要とされている力を知ることができた。
- ・活動をとおして、物事を客観的に見る力が向上した。自分の発表に対して批判的な目で見ることができるようになった。
- ・課題を様々な角度から見ようとする姿勢が身についた。初めから答えを決めつけて考えるのではなく、小さな問いから考えていくことで、より課題を深く理解でき、的確な答えを見つけることができるようになった。
- ・特定の問題の要因となっている事柄について、1つだけではなく複数あることを考察する力や、その事柄の真偽や解決に向けた資料を検索・分析する力が入学当初よりも身についた。
- ・普段なら気にしないようなことも、興味・関心を持って深く調べることができた。
- ・課題分析した内容を表すために、どのようなグラフを用いることが的確なのか判断する力が身についた。
- ・自分で課題を設定し、その課題を解決するためにどのような資料が必要なのか、どのようなプレゼンテーションが効果的なのかについて、グループで協力しながら探究する能力が身についた。

(3) 分析できる成果

生徒の感想のとおり、探究学習をとおして、各生徒に自分の意見を客観的に見る力、様々な視点から物事を捉える力を身につけさせることができた。

アンケート評価については、全体的には昨年度以上の肯定的な意見を得ることができた。特に、質問4「フィールドワークや文献調査などで身につけた能力をもとに、学習の成果を他者に伝えるために適切な方法でプレゼンテーションを立案・実行することができた」については、昨年度「4そうである」と答えた生徒が21.5%であったの対し、今年度は40.0%に増加した。これは1学期に鳥羽の学びネットワークの講師と連携した講義及びワークショップを行うことで、夏休みの京都フィールドワーク実施前に、探究の「作法」を習得した効果であると考えられる。生徒自らが訪問先にアポイントメントを取ってインタビューを行うことで、現場の声を得ることができ、多角的に課題を分析することができた。また、他者に伝えるための適切な発表手法を2学期に学ぶことで、グループ別協働探究学習を効果的に進めることができた。

5 課題

「京の智」の再発見・再発信がテーマであったが、課題研究のまとめにおいて5つの探究領域は意識しつつも、京都の地域性との関連への意識がやや薄いグループがあった。探究の過程においてこの関連を意識させる指導を充実させる。調査方法については、フィールドワークを積極的に取り入れたことにより課題研究発表が単なる資料で得た情報の紹介になることを防ぐことができた一方で、インターネットに加えて書籍を活用した文献調査を充実させる必要がある。次年度は、代表生徒が参加した京都府立図書館でのレファレンス研修内容を生徒間で共有できる仕組みを作る。また、教科横断的な指導をとおして、パワーポイントを用いた資料作成やプレゼンテーションは質的に向上したが、質疑応答には課題が見られた。次年度は、質疑応答を想定した継続的な指導体制を構築する。



探究領域「地域創造」の
オリエンテーション



福知山公立大学の杉岡秀紀准教
授によるワークショップ



グループ別協働探究学習

イ 総合的な学習の時間「イノベーション探究Ⅱ」（総合的な学習の時間・2年・1単位）

1 ねらい

1年次の地域再発見プログラムにおいて培った価値の発見・発信力を研磨するため、「グローバル・ジャスティスプログラム」として、公正・正義の視点を持ってグローバル・ 이슈を発見し、国家・民族・宗教を超えた課題を探究する。

目標は次の4点である。本年度より、1年次のねらいに「現状探究」を、2年次のねらいに「原因探究」を位置づけた。

- 1 異文化理解・多文化協働を通じて、グローバル・リーダーとして必要な社会性を習得する。
- 2 ソーシャル・イノベーションの主体者としての意識を高める。
- 3 価値創造力・協働力・突破力・寛容力・教養力を向上させる。
- 4 課題発見や原因探究をとおして、仮説構築力をつける。

2 昨年度の課題と今年度の改善点

(1) 課題研究の流れの確立・深化

研究グループで作成する「研究計画書」をそのままポスター化し、課題研究中間発表を行い、さらにバージョンアップし、個人考察を経て、研究グループ論文「研究ノート」を編集するという一連の流れを昨年度整理した。本年度は、次の①～⑤の流れを確立し、鳥羽高校の課題研究を深化させた。①Step1「研究テーマ（仮）決定シート」を作成し、「ツッコミシート」で仮研究テーマに磨きをかける。②Step2「研究計画書 Ver.1」を作成し、大阪大学アカデミック・ライティング講座に個人の「調査シート」を持参し、リサーチクエスションに磨きをかける。③Step3「研究計画書 Ver.2＝ポスター」を作成し、ポスターセッションをとおして仮説に磨きをかける。④Step4「研究計画書 Ver.3＝研究概要」を作成し、課題発見→リサーチクエスションの掘り下げ→仮説構築までの流れを確認する。⑤Step5「研究ノート」を作成し、3年次の「英語論文」へと接続する。

また、2年次のスタートにあたり「先行研究検索シート」を用いて必ず先行研究論文に当たることとし、課題研究の質を担保した。さらに、ワークショップ「鳥羽高校の課題研究について」を行い、リサーチクエスションと仮説の構築に主眼を置く本校の課題研究の流れや意義を確認した。

(2) 高大社連携の一層の緊密化・継続化

これまで本校の課題研究を協働で作り上げてきた、大学・研究機関・社会教育機関・企業の方々と、昨年度までの諸課題を持ち寄り、身につけさせたい力を共通で認識し、定期的に打合せをすることにより、鳥羽高校の課題研究の質の向上をはかることができた。また、本年度内に、次年度に向けた構想を練り始めることもでき、継続性が強化された。

(3) 「京都の風土・世界の風土」との連携

学校設定科目である「京都の風土・世界の風土」の授業で、グローバル・イシューの考察に資する民族・宗教等の内容や難民問題に関するテーマ学習を行ったほか、地球規模で事象を考察するためのフィールドワークや授業を共催することにより、課題研究の時間不足を解消し、内容を深化させることができた。

(4) 「グローバル・コミュニケーションⅡ」との連携

学校設定科目である「グローバル・コミュニケーションⅡ」の授業で、昨年度に引き続き「イノベーション探究Ⅱ」の研究テーマをもとにグループを作り、研究テーマに関連したトピックで海外大学生とディベートを行った。海外大学生との協働学習をとおし、国際的な視点を身につけた。

(5) 「イノベーション探究Ⅲ」との接続

2年次に作成した「研究ノート」を「英語論文」にする課題を春休みに課したことにより、3年次の「イノベーション探究Ⅲ」へのスムーズな移行が可能となった。また、英語のパラグラフライティングを意識して「研究ノート」の指導を行うことにより、「英語論文」作成の指導を充実させた。

(6) 企業連携の強化

グローバル・イシューを探究するにあたり、実社会においてどのような課題があるのか、またどのような対策が取られているのかなどを調査するため、さらに、課題研究をとおしてキャリア観を育成するために、企業との連携を一層進めた。昨年度に引き続き本年度も京都中小企業家同友会に

お世話になった。本年度は2つの研究グループが、中小企業の経営課題について課題研究を行った。7月には経営者インターンシップを実施し、経営者に密着して経営課題について学び、社員の方々とディスカッションを行った。11月には「2018 高大社連携研修事業」（京都中小企業家同友会主催）に本校生が参加し、課題研究の発表を行ったほか、「中小企業の本気の経営課題に学生はどきまで取り組むことができるのか!？」というテーマで、経営者・大学生とグループ討論を行った。さらに、一連の経験を代表生徒が12月に行われた第16回高大連携教育フォーラム（京都高大連携研究協議会主催）においてパネリストとして発表した。

3 概要（実践）

(1) 年間計画

学期	回	月日	内容	海外研修	教科横断	連携
1 学期	1	4月21日(土)	春休み課題図書読書成果発表会、ガイダンス(趣旨説明)			
	2	4月28日(土)	研究グループ決定・研究テーマ検討			
	3	5月12日(土)	講義及びワークショップ「鳥羽高校の課題研究について」 京都光華女子大学 乾明紀准教授		グローバル・コミュニケーションⅡ 京都の風土・世界の風土	高大
	4	5月26日(土)	国立民族学博物館フィールドワーク 特別展示・常設展示見学 *「京都の風土・世界の風土」との共催(1~4限)			高社
	5	6月9日(土)	講義及びワークショップ「よい研究発表とはどのようなものか？」 大阪大学 進藤修一教授 柿澤寿信講師			高大
	6	6月23日(土)	「研究計画書」Ver.1作成 京都光華女子大学 乾明紀准教授			
		7月7日(土)	豪雨のため休業(9/29へ)			
		7月11日(水)~15日(日)	鳥羽グローバル・サミット			高大社
夏 休 み		7月30日(月)	経営者インターンシップ*関連2グループ参加			高社
			大阪大学アカデミック・ライティング講座「調査シート」作成、読書	SGH 韓国研修		
		8月17日(金)	大阪大学豊中キャンパス 講義及びワークショップ「アカデミック・ライティング講座」 大阪大学 堀一成准教授 坂尻彰宏准教授 進藤修一教授 大阪大学TA6名			高大
2 学期	7	9月15日(土)			グローバル・コミュニケーションⅡ 京都の風土・世界の風土	
	8	9月22日(土)	「研究計画書」Ver.2作成			
	9	9月29日(土)				
	10	10月27日(土)	「研究計画書」Ver.2を用いたポスターセッションリハーサル 大阪大学 進藤修一教授 大阪大学TA10名	SGH 上海研修		高大
	11	11月10日(土)*1~4限	ポスターセッション最終準備 (ポスター及び原稿修正、想定問答集作成)			
	12	11月15日(木)	SGH事業研究発表会 ポスターセッション(課題研究中間発表)			高大社
		11月23日(金・祝)	午後 京都中小企業家同友会高大社連携研修事業 (中小企業会館)*関連6グループ参加			高大社
	13	12月8日(土)	「研究計画書」Ver.3作成 午後 高大連携教育フォーラム(キャンパスプラザ京都) *代表者参加			高大
	14	12月15日(土)	「研究計画書」Ver.3完成・「研究ノート」作成 全日 SGH全国高校生フォーラム(東京国際フォーラム) *代表1グループ参加(英語発表)			
			「研究ノート」考察部分(個人担当)作成	SGH 台湾研修		
3 学期	15	1月12日(土)*1~4限	「研究ノート」作成		シンガポール 研修 京都の風土・世界の風土	
		1月21日(月)~25日(金)	シンガポール研修(全員)			
	16	2月2日(土)*1~4限	「研究ノート」作成・完成 グローバルネットワーク京都交流会(京都工芸繊維大学)ポスター セッション*代表3グループ参加			
	17	2月23日(土)	「研究ノート」輪読 まとめ・省察、「イノベーション探究Ⅲ」に向けて			
		3月23日(土)	SGH甲子園(関西学院大学)ポスターセッション*代表1グループ参加			
			英語論文作成			
春 休 み						

(2) 具体的な活動内容

ア 講義及びワークショップ「鳥羽高校の課題研究について」(写真1)

研究テーマ(仮)が妥当かどうかを検証し、リサーチクエストを導くには、「どこの?」「誰の?」「いつの?」「どのように?」といった小さな問いで、研究テーマを掘り下げていくことの必要性や、この繰り返しにより課題研究の考察の質を高められることを学ばせた。また、鳥羽高校の課題研究がなぜ仮説構築までを主眼としているかについても理解させた。

イ 国立民族学博物館フィールドワーク(「京都の風土・世界の風土」との共催)(写真2)

博物館でのさまざまな仕事をとおして、博物館で働くひとびとが何をおもい、何をまもり、何を伝えようとしているのかを学ばせた。また、民族・宗教・文化について考え、人類文化の普遍性、多様性をふまえて共生する世界をめざして人類規模・地球規模で考える態度を養った。さらに、博物館の機能や学芸員の仕事について知ることで、チームによって文化財や資料が守られていること等にも気づかせ、キャリア観形成の一助とした。

ウ 講義及びワークショップ「よい研究発表とはどのようなものか?」(写真3)

①研究目的が明確であること、②思考に分析と論理が含まれていること、③的をしばった調査ができていること、以上3点がよい研究発表の条件であることを理解させた。また、「主題」・「トピック」・「仮説」について考えさせたほか、分析的思考や論理的思考についても実践的に学ばせた。鳥羽高校の課題研究では仮説構築までを主眼としているが、本来の研究では仮説検証が重要であることも理解させた。

エ 講義及びワークショップ 大阪大学「アカデミック・ライティング講座」(写真4)

①書くために考える、②まねてはいけない! : レポートの注意点、③パラグラフライティングの3部構成のワークショップを行った。大学院生TAからアドバイスを受けながらアカデミック・ライティングの作法や手順を学び、課題研究等を進める技法を身につけさせた。また、各自のリサーチクエストに関する「調査シート」を作成・持参し、それをもとにワークを行うことで、調査内容やリサーチクエストを深く掘り下げた。

オ ポスターセッションリハーサル

ポスターセッション(課題研究中間発表)に向けたリハーサルを行い、大阪大学の教授や10名のTAから評価・コメント、講評をいただいた。これらを基に、ポスターや原稿の修正、想定問答集の作成、発表に必要な補助資料の準備を行うことが可能となった。

カ S GH事業研究発表会 ポスターセッション(課題研究中間発表)(写真5)

リハーサルでの教授、TA、生徒からの評価内容を反映させ、発表会を行った。オーディエンスとして、文部科学省、S GH運営指導委員長、大学関係者、大阪大学TA、企業関係者、全国のS GH校・S GHアソシエイト・高等学校、京都府名誉友好大使、きょうと留学生ハウスの留学生に参加いただき、本校1年生も加え、発表者と参加者の一体感があるポスターセッション(課題研究中間発表)を実施できた。

キ 高大社連携研修事業(写真6)

課題研究において企業経営者に対する調査を行う本校生21名が、京都中小企業家同友会主催の「2018 高大社連携研修事業」に参加した。「中小企業の本気の経営課題に学生はどこまで取り組むことが出来るのか!」というテーマで、企業経営者及び福知山公立大学、京都府立大学、京都光華女子大学の学生と膝詰めグループ討論を行い、本校生徒が発表した。また、本校生徒が課題研究の発表を行ったほか、インタビュー調査を企業経営者に行い、課題研究を深化させた。



写真1



写真2



写真3



写真4



写真5



写真6

(3) 評価の方法

ワークシートや記録ノートを指導者が評価したほか、「研究計画書」及びポスターセッション、研究グループ論文である「研究ノート」については、「観点別評価のためのルーブリック」としてポスターセッション評価票（表－1）、「研究ノート」評価票（表－2）を用いた。なお、SGH事業研究発表会においては来校者に評価していただいたほか、同級生からの評価、下級生からの評価も行い、ピア・ラーニングの視点を持たせた。

表－1 ポスターセッション評価票

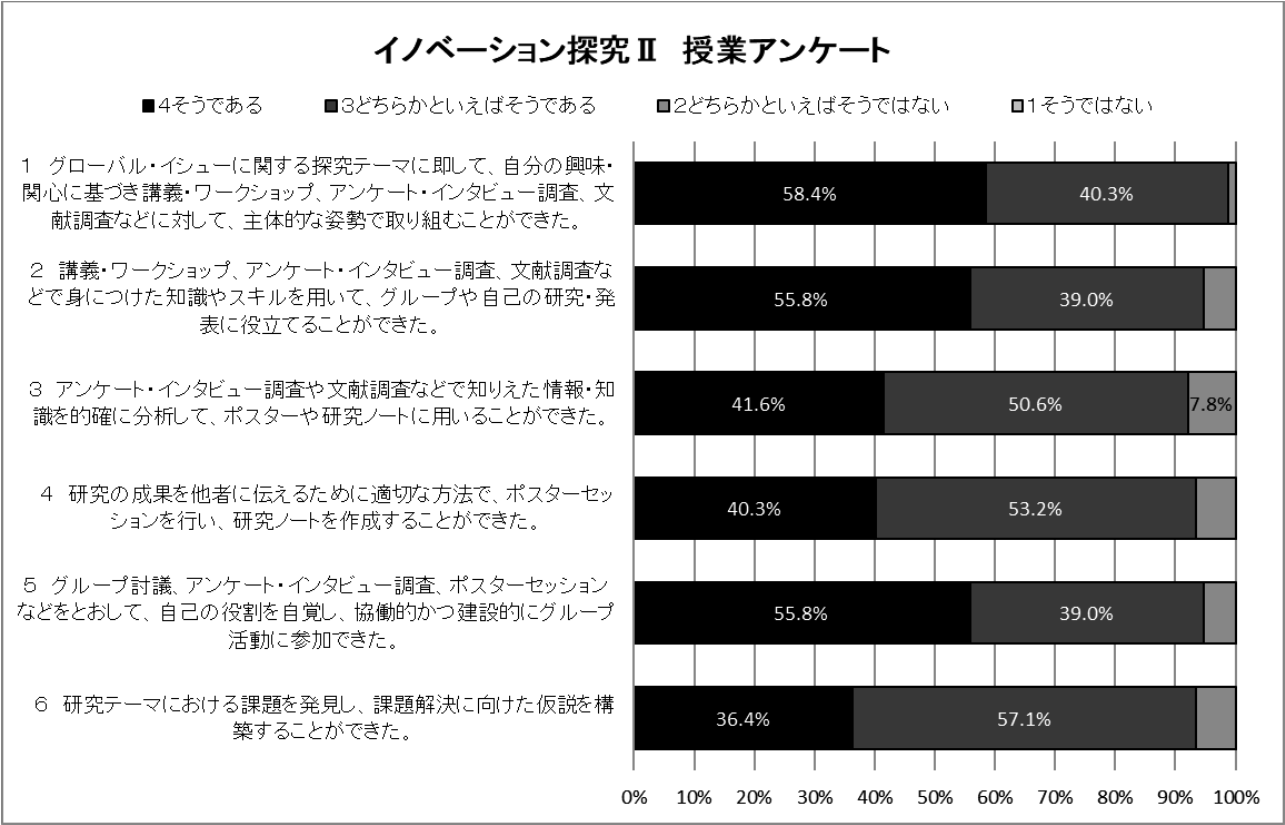
平成30年度 イノベーション探究Ⅱ ポスターセッション評価票

評価者						平成30年11月15日(木)
研究グループ		—				
		発見力	分析力・調査力		表現力・協働力	
		研究の動機・問題の背景	リサーチクエストン(RQ)	現時点での仮説	最終的な研究テーマ	発表と質疑応答
関連するポスターの項目番号		1	2→3→4	5	7	全般
評価基準	A: 完璧 (Great)	現状を十分に理解し、グローバルな視点で多角的に研究を進めようとしている。	研究テーマについて、実態を把握し、原因を分析するために、小さな問い(RQ)を立てて調査することをおして、具体的でオリジナリティのある問い(RQ)を立てている。	「因果」あるいは「比較」を含んだオリジナリティのある仮説になっている。	問い(RQ)や答え(仮説)が明確に読み取れ、説得力がある文章になっている。	グループの全員が発表と質疑応答に参加し、質疑応答によって、参加者の知的好奇心が一層刺激されている。
	B: 合格 (Good)	現状を理解し、グローバルな視点で研究を進めようとしている。	研究テーマについて、実態を把握し、原因を分析するために、小さな問い(RQ)を立てて調査することをおして、具体的な問い(RQ)を立てている。	「因果」あるいは「比較」を含んだ仮説になっている。	問い(RQ)や答え(仮説)が読み取れる文章になっている。	発表と質疑応答を、グループ内で役割分担して行うことができる。
	C: がんばろう (Needs Work)	現状の理解が不十分で、一面的な研究になっている。	小さな問い(RQ)を立てて調査することが不十分なため、研究テーマについての理解が深まっていない。	「因果」も「比較」も含まないあいまいな仮説になっている。	問い(RQ)や答え(仮説)が読み取れる文章になっていない。	発表と質疑応答における役割分担があいまいで、一部の人が行っている。
評価記入欄 A～C					ポスターセッションでは評価しません	
よりよい研究にするための方策						

表ー2 「研究ノート」評価票
平成30年度 イノベーション探究Ⅱ 観点別評価のためのルーブリック「研究ノート」評価票

対象研究グループ		—		評価者		組 番 氏名		
		協働力						
		発見力	分析力・調査力				表現力	
関連する「研究計画書」Ver.3の項目		研究の動機・問題の背景	掘り下げるためのリサーチエッセンス	具体化されたリサーチエッセンス	仮説	仮説検証に向けた展望	参考文献	最終的な研究テーマ
関連する「研究ノート」の章など		第1章	第2章	第3章	第3章	第3章	参考文献	表題
評価基準	A:完璧 (Great)	現状を十分に理解し、グローバルな視点で多角的に研究を進めようとしている。	現状を確認・分析するための適切な問いを立て、根拠に基づき順序立てた検討ができている。	研究テーマについての理解が十分深まった上で問いを立てている。	「因果」あるいは「比較」を含んだ仮説になっていて、因果関係や比較に説得力がある。	調査を踏まえ、仮説検証に向けた展望を根拠に基づいて考察できている。	複数の書籍・論文や公共性の高いデータを含む参考文献を明示している。	問い(RQ)や答え(仮説)が明確に読み取れる論理的な文章になっている。
	B:合格 (Good)	現状を理解し、グローバルな視点で研究を進めようとしている。	現状を確認・分析するための適切な問いを立て、検討できている。	研究テーマについての理解が深まった上で問いを立てている。	「因果」あるいは「比較」を含んだ仮説になっている。	仮説検証に向けた展望を示した考察ができている。	書籍・論文を含む参考文献を明示している。	問い(RQ)や答え(仮説)が読み取れる文章になっている。
	C:がんばろう (Needs Work)	現状の理解が不十分で、一面的な研究になっている。	現状を確認・分析するための適切な問いを立てられていない。	研究テーマについての理解が深まっていない。	「因果」も「比較」も含まない仮説になっている。	仮説検証に向けた展望を示した考察ができていない。	参考文献を明示している。	問い(RQ)や答え(仮説)が読み取れる文章になっていない。
評価記入欄 A～C		第2章 (1)	第2章 (2)	第2章 (3)	第2章 (4)	第2章 (5)	第2章 (6)	
		第2章総合						
文言評価								

4 成果
(1) アンケート結果



(2) 生徒の感想

- ・私たちのグループは一番多く方針転換し、見方を変えたと思う。TAやたくさんの大人からアドバイスをいただけたことがうれしかった。グループで協力することはもちろん、目でわかるものではない難しい問題に取り組むことへの抵抗感がなくなったことが、自分自身の成果だと思う。
- ・どうやって調べるか、どの資料を使用するのかなどの調査力を身につけることができた。自分には様々な角度から物事を考える力が足りず、グループで話し合うと、こういう考えがあるのかと思う機会が多々ある。こういう時にグループだとお互いの考えを深め、高めあうことができる一方で、自分の考えの甘さがよく分かり毎回反省している。
- ・「児童労働」というテーマにしたことを後悔するくらい、この一年は悩みの連続だった。悩んで悩んで悩み抜いて絞り出した答えが自分にとって納得できるものだとしても、グループで共有すると友人の意見のほうの説得力があったりして学ぶことが多かった。
- ・自分の知識不足をつきつけられた。しかし、この授業をとおして、あらゆる問題に対して興味を持ったり、言葉の使い方を学んだり、少しずつですが自分の中で成長が感じられた。
- ・壁という壁にはぶつかったように思えます。それを乗り越え、乗り越えて今に至ります。互いの主張がぶつかり合っていたのが、ポスターセッションをとおして仲も深まり議論も深まり、とても有意義な時間にすることができた。
- ・意見は自分一人ではなく、他の人からの助言や意見の交換・共有でよりよい意見として「成立」するものだとしみじみ実感した。先生や他の班のメンバーに積極的に質問したり、話したりして意見の質を高める大切さを学んだ。

(3) 分析できる成果

アンケート結果より、すべての質問に対して肯定的回答が90%を超えている。生徒の感想においても、ワークショップ等で学んだ知識・技能を活かしながら協働して探究活動やポスターセッション、研究グループ論文作成を行い、様々な力を獲得した様子がうかがえるとともに、この授業で学んだ知識・技能を他の授業や大学や社会での学びに活用しようとする積極的姿勢が多く見られた。テーマ設定から仮説構築まで自分たちで「つつこみ」合うことで、グループのメンバーとして、さらにグループとして成長できたことを実感する意見が多かった。仮説構築までの試行錯誤が、学び合う姿勢、困難に立ち向かう姿勢を身につけることにつながったと思われる。知識不足を実感し、新書を読むようになったという意見が多くあったことも成果としてあげられる。

5 課題

調査・研究のためのCAI教室、図書館等の使用については、今年度は担当者の都合上「イノベーション探究I」と同時時間帯の開講であったため調整が難しかった。しかし、時間割作成において他教科との調整を行い、計画的に「京都の風土・世界の風土」と教科横断的に連携することにより、課題研究を実施することができた。ICT環境を整備し、オンラインによる協働学習を推進する。

ワークシートや「研究計画書」、「研究ノート」等の様式が確立したため、鳥羽高校オリジナルテキスト（デジタル版）が実質上できあがっている。最終年度の微調整を経て完成させたい。また、最終年度中に、教員間で課題研究の指導法を共有するとともに成果普及に取り組む。

ウ 総合的な学習の時間「イノベーション探究Ⅲ」（総合的な学習の時間・3年・1単位）

1 ねらい

1・2年次の課題探究を総合し、「ユニバーサルプログラム」において、価値の普遍化をはかり、未来を見すえた新たな価値を創り出す価値創造力を高める。

2 概要（実践）

(1) 年間計画

学期	月	学習内容
1	4	アカデミック・ライティング演習Ⅰ期
	5	↓ 鳥羽グローバル・サミット準備
	6	↓
	7	英語論文完成 鳥羽グローバル・サミット
2		アカデミック・ライティング演習Ⅱ期
・		↓
3		↓

(2) 具体的な活動内容

ア 英語論文作成

前年度は2年次の「イノベーション探究Ⅱ」におけるポスター及び日本語論文と3年次の「イノベーション探究Ⅲ」における英語論文の形式・章立てが異なり、構成の変更に時間がかかったという課題があった。

本年度は2年次の「イノベーション探究Ⅱ」のポスターと日本語論文、「イノベーション探究Ⅲ」の英語論文の書式・章立てを全て統一することで効率化を図ることができた。また、同じテーマについてこれら3つの異なる手法で探究学習を進めることで、課題研究を深化できた。

イ 「鳥羽グローバル・サミット」

シンガポール国立大学、復旦大学（上海）の大学生及びきょうと留学生ハウスの留学生とともに、英語によるプレゼンテーション及びディスカッション等をとおして SDGs に係る課題探究を深化させ、提言を発表した。

ウ 連携

学校設定科目「グローバル・コミュニケーションⅢ」でのアカデミック・ライティング学習等において探究学習と連携することで、論理的思考力及び英語力の向上を図った。

(3) 評価の方法

研究論文については、日本語論文の研究内容が反映され、さらに深化させる形で論理的に文章にまとめられているかについて評価を行った。ディスカッション及びプレゼンテーションについては、生徒相互の評価、海外大学生及び京都で学ぶ留学生の方々からの評価及びフィードバックを受けた。



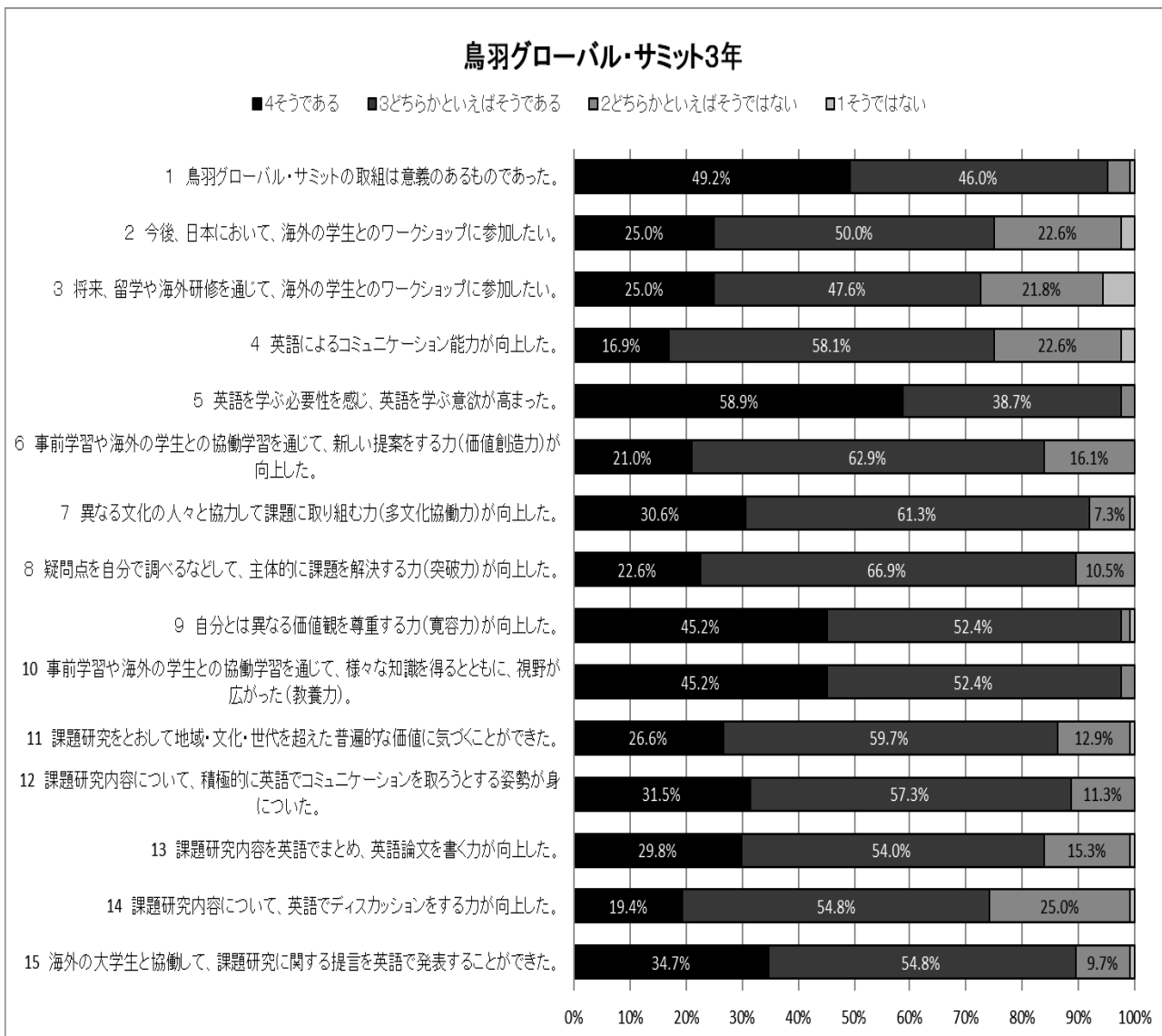
鳥羽グローバル・サミットにおける海外の大学生とのディスカッション



SDGs の達成に向けた提言を、海外の大学生とともに英語でプレゼンテーション

3 成果

(1) アンケート結果



(2) 生徒の感想

- ・英語を使って海外の大学生や留学生と議論することで、今まで日本人だけでは思いもつかないアイデアを聞くことができた。もっと英語力をつけて、様々な国の人々とアイデアを共有したい。
- ・海外の大学生や留学生の英語を聞いて、英語の流暢さと語彙の多さに驚いた。リーディングに向けた語彙の学習に偏らないように、スピーキングで使える語彙を増やしたい。

(3) 分析できる成果

2・3年次に共通して用いる課題研究の型を研究開発し、効率よく効果的に英語論文作成を行った結果、83.8%の生徒が英語論文を書く力が向上したと回答するなど、英文アカデミック・ライティングの力を伸ばすことができた。また、海外の大学生とのディスカッションをととして、83.9%の生徒が価値創造力が向上したと回答するなど、グローバルな多様性の中での学びが創造力を育成することを検証できた。

4 課題

英語論文の作成及び指導をより効果的に行うために、ICTを用いて同時作業できる環境を整備する。生徒アンケートの結果から、鳥羽グローバル・サミットにおける即興性が求められるディスカッションに課題があるので、1学期の準備段階からディスカッションの練習機会を増やす必要がある。

(2) 研究開発単位Ⅱ：グローバル・コンピテンシーを高める教科横断的科目群

ア 「グローバル・コミュニケーションⅠ」（学校設定科目・1年・3単位）

1 ねらい

グローバル社会における多様性を受け入れる姿勢と多文化対話力を育成する。課題探究内容を効果的に英語でプレゼンテーションする能力を養う。基本的なディベートをとおして批判的思考力を養う。

2 概要（実践）

(1) 年間計画

学期	月	学 習 内 容	評 価 の 観 点
1	4	<文法事項> 文型、時制、助動詞、受動態、不定詞	文型、時制、助動詞、受動態、不定詞の用法を正しく理解・習得するとともに、コミュニケーション場面において正確に運用することができる。
	5	<プレゼンテーション> 1 Kyoto & Japan	海外の高校生との協働学習として、京都と日本の伝統・文化を英語で説明できる。
	6	2 Deep Kyoto <パラグラフ・ライティング> 英文エッセイ	ループリックを用いて評価（資料1） テーマに沿った 80 語程度の文章を英語で書くことができる。
	7		
2	8	<文法事項> 動名詞、分詞、比較、関係詞	動名詞、分詞、比較、関係詞の用法を正しく理解・習得するとともに、コミュニケーション場面において正確に運用することができる。
	9		
	10	<プレゼンテーション、ディスカッション>	
	11	「イノベーション探究Ⅰ」の課題研究についてプレゼンテーション	ループリックを用いて評価（資料2）
3	1	<文法事項> 仮定法、接続詞	仮定法、接続詞の用法を正しく理解・習得するとともに、コミュニケーション場面において正確に運用することができる。
	2	<ディベート> チーム・ディベート大会	ディベートのルールを理解し、説得力のある主張や反論ができる。
	3		

(2) 具体的な取組

学校設定科目「グローバル・コミュニケーションⅠ」では、「英語表現Ⅰ」の学習内容を発展させ、総合的な学習の時間「イノベーション探究Ⅰ」の課題研究内容と関連させた様々なテーマで、プレゼンテーション、ディスカッション、パラグラフ・ライティング、ディベートに取り組んだ。

ア 1学期

(ア) パラグラフ・ライティング

自分の意見を論理的に表現する方法や文章構造について学び、テーマについてペアワーク、ブレインストーミング、ディスカッション等に取り組み、80語程度の文章を英語で論述した。

テーマ例：How can we maintain our health?

Why do people attend college or university?

What is a particular medium of news you prefer and why?

(イ) プレゼンテーション、ディスカッション

台湾の高雄市天主教明誠高級中学との協働学習に向け、京都と日本の伝統・文化に関する問いを英語で作成した。京都と日本に関心を持ってもらうための発表内容の工夫や、アイコンタクトなど効果的なプレゼンテーション方法について学んだ。

次に、鳥羽グローバル・サミットで来校した海外の大学生へプレゼンテーションを行った。海外ではあまり知られていないが、外国人が関心を持つ京都文化ー“Deep Kyoto”ーという、「イノベーション探究Ⅰ」の探究領域に関連させたテーマを設定し、生徒が各自で発表内容を選定し、iPadを使ってプレゼンテーション資料を作成した。当日は本校生徒6～7名と海外の大学生1名の少人数グループに分かれて発表し、グループディスカッションを実施した。

発表内容の例：Fake Maiko, How Amanohashidate was Formed,

The Story of Ikkyu, History of Street Names in Kyoto,

The Sugidama in Fushimi, How Strong is the Five Story Pagoda,

Exotic Animals of Kamo River

イ 2学期 プレゼンテーション、ディスカッション

総合的な学習の時間「イノベーション探究Ⅰ」において取り組んでいる、「京の智」の再発見に向けた課題研究の内容について英語でプレゼンテーションし、互いに質問、意見や感想を英語で述べた。また、グループの課題研究内容の方向性について、ディスカッションと提案を行った。

課題研究の5領域：Industries, Cultural Heritage, Education,

Human Rights, Local Revitalization

ウ 3学期 ディベート

基本的なディベートのルール、構成、説得力のある表現方法、批判的思考について学んだ。ディベートの定義や理由、反論の仕方、ジャッジの方法などを学んだ後、8人制のグループディベートを行った。2月に2年生と協働し、1・2年生合同のチーム・ディベート大会を実施した。

ディベートテーマ：Japan should protect itself with nuclear weapons.

We should abolish the death penalty.

Self-driving cars will make humans happy.



京都と日本の伝統・文化
を英語で紹介



Deep Kyoto プレゼンテーション



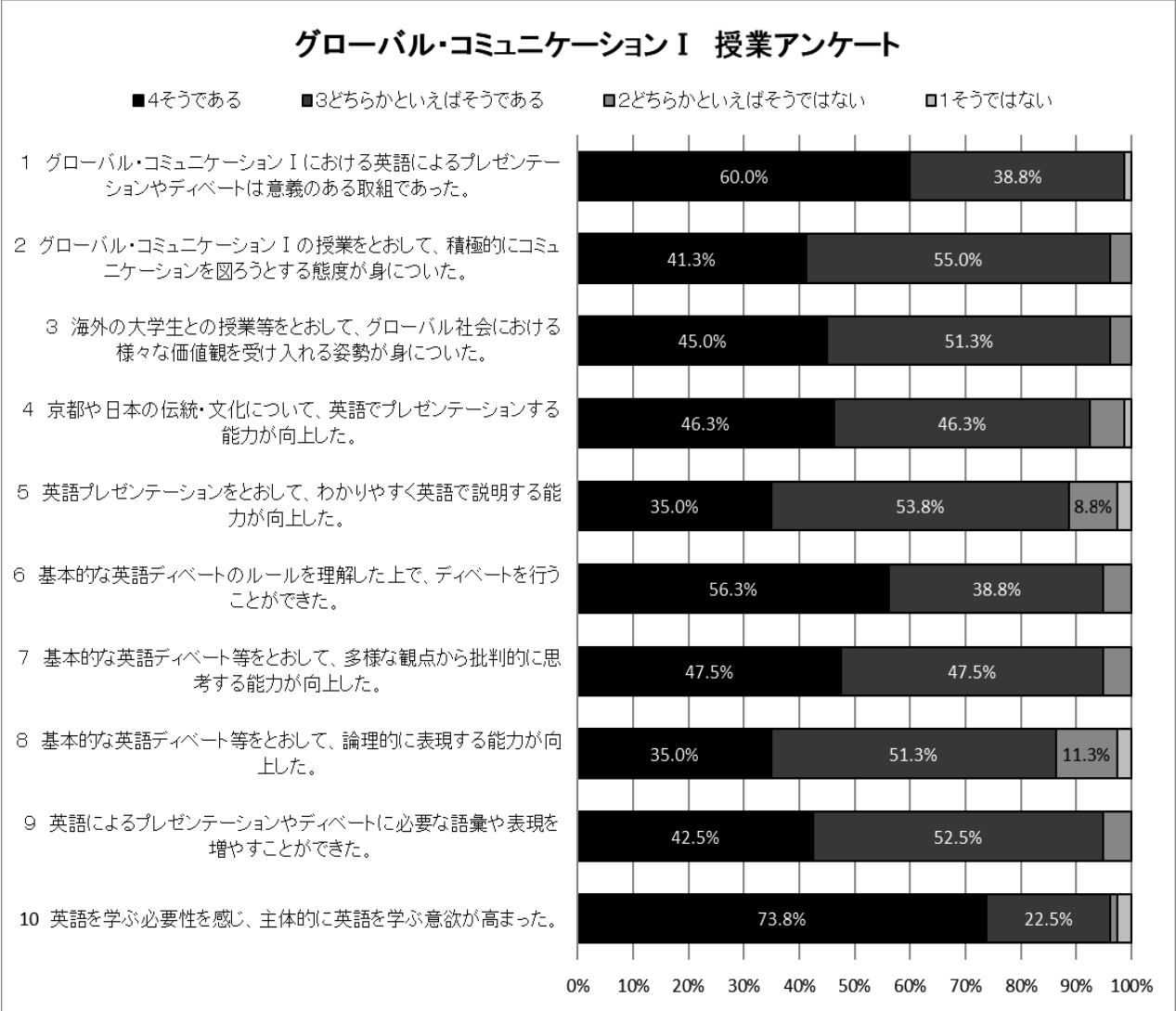
課題研究について英語で発表

(3) 評価の方法

定期考査、各種テスト、取組状況に加えて、スピーチやディベートのパフォーマンス評価、プレゼンテーションやディスカッションについてはルーブリックを用いた評価等、総合的に評価した。

3 成果

(1) アンケート結果



(2) 生徒の感想

- 海外の大学生や高校生との協働学習をととして、文化や言語の違いなどを感じることができた。英語を使って直接コミュニケーションをとることの重要性がわかった。
- 課題研究に関して英語で表現する機会が多く、文法だけでなく話し方も大切だと感じた。プレゼンテーションやディベートを行う際、文法が合っていても、速すぎたり、声が小さかったりすると伝わらない。何を伝えたいのかを考えながら英語を話したい。
- 京都の伝統・文化を英語で話すことで、これまで気がつかなかった発見があった。また、海外の大学生や高校生にインタビューすることで、海外の人たちから見た京都を知ることができた。
- 英語を話すときに、どれだけ英語が好きで得意であっても、緊張すると話せなくなってしましますが、このような機会をととしてどんどん慣れていけば、もっと可能性が広がると思いました。
- 英語のディベートをととして、英語を使うことがおもしろくなった。最初は何を言えばいいかわからなかったが、やっていくうちにどうすれば相手の意見に反論して、自分の意見を主張するかを考えることができ、英語に対する苦手意識が少なくなってきた。
- プレゼンテーションやディベートをととして、相手が理解できる英語を話そうという意識が高く

なった。また、自分の考えを様々な視点で考えることができ、相手の考えもしっかり受け入れようと思えるようになった。

- ・2年生と1年生が協働したチーム・ディベート大会に参加し、グローバル科の先輩から考え方や発表の仕方を学ぶことができ、刺激になった。

(3) 分析できる成果

総合的な学習の時間「イノベーション探究Ⅰ」と学校設定科目「グローバル・コミュニケーションⅠ」を同じ教員が担当することにより、教科横断的な取組をさらに円滑に行うことができた。

生徒アンケートについては、質問10「英語を学ぶ必要性を感じ、主体的に英語を学ぶ意欲が高まった」について73.8%が「4そうである」と回答し、質問4「京都や日本の伝統・文化について、英語でプレゼンテーションする能力が向上した」について92.6%が肯定的に回答した。京都の伝統・文化を海外の大学生・高校生に英語で発信する取組や、基礎的な英語ディベートの学習が、生徒の学習意欲を高めることを検証できた。

また、質問3「海外の大学生との授業等をとおして、グローバル社会における様々な価値観を受け入れる姿勢が身についた」について96.3%が肯定的に回答するなど、京都の伝統・文化をテーマとしたディスカッションが、多角的視座の獲得や異文化理解に効果的であることも検証できた。

4 課題

生徒アンケートの質問5「英語プレゼンテーションをとおして、わかりやすい英語で説明する能力が向上した」と質問8「基本的な英語ディベート等をとおして、論理的に表現する力が向上した」について、それぞれ「4そうである」と回答した生徒の割合が35.0%と、他の質問より低い結果となった。結論を先に伝える、理由を整理して伝える、具体例を示すなど、わかりやすく自分の考えを伝える話し方について指導を充実させる。

また、プレゼンテーションやディベートの活動を増やす一方で、基本的な語彙力や文法力の定着を図り、インプットとアウトプットのバランスを考慮した授業を展開し、2年次の「グローバル・コミュニケーションⅡ」へとつなげる。

1st Grade Global Summit “Deep Kyoto” Rubric

資料 1

Class () No. ()		Name ()		Topic ()			
		5 points	4 points	3 points	2 points	1 point	
1. Could you understand the students' presentation?	I completely understood.	I somewhat understood.	I understood about half.	I understood less than half.	I understood almost nothing.		
2. How was their voice and eye contact?	Their voice was loud and clear, and they had good eye contact.	Their voice was fairly loud and clear, and their eye contact was adequate.	Their voice was hard to hear in parts, and/or their eye contact was lacking.	Their voice was very hard to hear, and they mostly failed to make eye contact.	I could not hear them and there was no eye contact.		
3. How was their attitude toward communicating with you?	They had a very positive attitude and tried hard to communicate.	They had a fairly positive attitude and made an effort to communicate.	Their attitude was not very positive and their effort to communicate was lacking.	Their attitude was negative and they didn't make much effort to communicate.	They had a bad attitude and made no effort to communicate.		
4. Did you find their presentation interesting and surprising?	It was very surprising and interesting, and completely new. I want to learn more.	It was somewhat surprising and interesting, and I didn't know much about it before.	It was not very surprising and interesting, and/or I already knew about it.	It was hard to be interested in it, and it was already well-known.	It was uninteresting and very common knowledge.		
Did you discover something new or find something in common?	Please write some comments:						
TOTAL:						/20	

1st Grade Innovation Research Project Presentation Rubric

資料 2

Group No. ()

	4 points	3 points	2 points	1 point
Voice	Loud, clear, and understandable pronunciation.	Mostly understandable, but lacking in clarity or volume in some parts.	Somewhat understandable, but generally lacking in loudness or clarity.	Mostly not understandable, unclear, and not loud enough.
Delivery	Delivered with content-appropriate chunking, intonation, speed, and manner (eye contact, gestures).	Mostly appropriate chunking, intonation, speed, and manner, but lacking in some parts.	Generally delivered robotically or as if reciting a memorized text, and/or inappropriate speed or manner.	Markedly robotic, poor delivery, with inappropriate speed or manner throughout.
Content	All basic content was covered, including their research theme, fieldwork, and what they learned.	All basic content was covered, but was not explained sufficiently in parts.	Some basic content was explained, but one or more parts were missing or incomplete.	Basic content was mostly missing or incomplete.
Background Information	Necessary background information (such as Japanese terms or concepts) was clearly explained.	Some background information was explained, but it was incomplete or unclear in parts.	Background information was generally lacking, incomplete, or unclear.	Background information was mostly missing or incomplete.
Logic	The parts of the presentation connected logically.	The parts of the presentation were basically connected logically, but unclear in parts.	The connection between the parts of the presentation was generally confusing or unclear.	The connection between the parts of the presentation was markedly illogical and confusing.
Interaction	Responded appropriately to audience questions, comments, and suggestions.	Response to audience was basically appropriate, but lacking in some respects.	Were able to respond somewhat appropriately to the audience, but response was generally lacking.	Were mostly unable to respond appropriately to the audience.

イ 「グローバル・コミュニケーションⅡ」(学校設定科目・2年・3単位)

1 ねらい

実践的コミュニケーション能力を向上させ、多文化対話力を身につけるとともに、課題研究内容についてのディベートを行うことで、戦略的・批判的思考力を身につける。また、課題研究に関する英語論文作成のために、アカデミック・ライティングの基本的な能力を身につける。

2 概要(実践)

(1) 年間計画

学期	月	学 習 内 容	評 価 の 観 点
1	4	<文法事項> 文の主語、時制、助動詞、受動態、仮定法	1年次に学習した文法の知識を実践的に活用した英語によるコミュニケーションができる。
	5	<スピーキング> 情報や自分の意見を相手に伝えるペアスピーキング活動 10回	情報や自分の意見を正確に伝えることができる。
	6	<ディベート> ディベート学習発展編(主張や質問の仕方) 14回	ディベートにおいて、説得力のある効果的な主張、反論、質問ができる。
	7	鳥羽グローバル・サミットで海外の大学生及び留学生とディベートを実施	
2	8	<文法事項・英語の表現> 不定詞、文型、使役動詞・知覚動詞、分詞、関係詞、	1年次に学習した文法の知識を実践的に活用した英語によるコミュニケーションができる。
	9	名詞、冠詞、形容詞、目的の表現、程度・結果の表現、原因・理由の表現、譲歩の表現	
	10	<スピーキング> 情報や自分の意見を相手に伝えるペアスピーキング活動 17回	情報や自分の意見を正確に伝えることができる。
	11	<ディベート> ディベート学習発展編(定義や反論の仕方) 5回	ディベートにおいて、説得力のある効果的な主張、反論、質問ができる。
3	12		
	1	<英語の表現> 比較の表現、条件・仮定の表現、否定の表現	1年次に学習した文法の知識を実践的に活用した英語によるコミュニケーションができる。
	2	<スピーキング> 情報や自分の意見を相手に伝えるペアスピーキング活動 13回	情報や自分の意見を正確に伝えることができる。
	3	<アカデミック・ライティング> パラグラフの構成、Topic Sentence, Supporting Sentence, Concluding Sentence 書き方の学習 8回	パラグラフの構成を理解し、説得力のあるパラグラフを適切に書くことができる。

(2) 具体的な取組

学校設定科目「グローバル・コミュニケーションⅡ」では、「英語表現Ⅱ」の学習内容に加えて、1学期と2学期の前半はディベート、2学期の後半はアカデミック・ライティングを学習し、年間をとおして、ほぼ毎回、割り当てられたテーマについて自分の意見を相手に伝えるペアスピーキング活動を実施した。

ア 1学期は「グローバル・コミュニケーションⅠ」で学習した基本的なディベートを発展させ、即興型パラメンタリーディベートの基本ルールを学習し、説得力のある主張の仕方やPoint of Information (POI) 質問の仕方を練習した。7月の鳥羽グローバル・サミットでは、「イノベーション探究Ⅱ」の課題研究に関連させた論題について、肯定側チーム(2人または3人) 対否定側チーム(2人または3人) のディベートを行い、海外の大学生及び留学生のTAはジャッジとしてそれぞれの役割を果たした。

論題(例) : Japan should approve same sex marriage.

Japan should accept more refugees.

Developed countries should eliminate poverty around the world.

We should strictly limit working hours.

イ 2学期の前半はディベートの学習をさらに発展させ、定義の仕方や効果的な反論の仕方に取り組んだ。「イノベーション探究Ⅱ」の課題研究に関連させた論題について、ある肯定側の主張を聞き、必要に応じて質問(POI)をした。その後、どのように反論したらよいかをブレインストーミングし、各自で反論スピーチを考えて発表した。

論題(例) : We should replace paper money with virtual money.

Japan should make University education free.

Students should be required to do volunteer work in a developing country.

ウ 2学期の後半と3学期は次年度「イノベーション探究Ⅲ」で行う英語論文作成のために、アカデミック・ライティングの基本を学習した。パラグラフの構成(Topic Sentence, Supporting Sentence, Concluding Sentence)を学び、パラグラフ・ライティングの演習を実施した。演習は3段階で行った。まずは、生徒が書いたパラグラフを隣同士で交換させて、ピア評価をする。次に教師によるフィードバックを行い、パラグラフを書き直す。最後にルーズブリックを使って、書き直したパラグラフを評価する。この3段階のサイクルを3学期で2回行った。春休みの課題としては、英語論文のフォーマットを学び、「イノベーション探究Ⅲ」で行う英語論文の下書きに取り組んだ。



グローバル・サミットのディベート



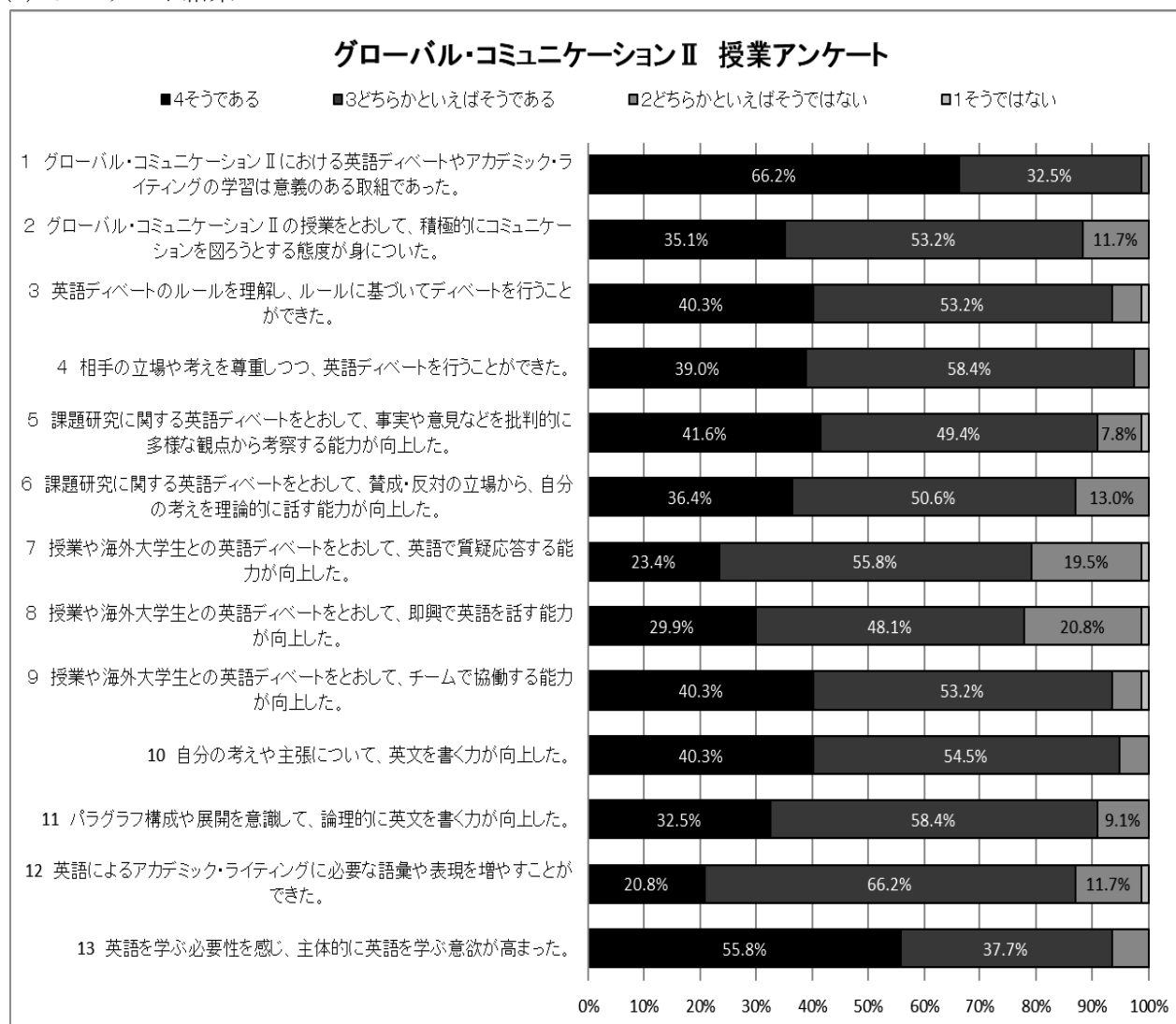
反論のブレインストーミング

(3) 評価の方法

文法事項や英語の表現について、定期考査で評価を行った。スピーキングやディベートについては、TAからのフィードバックを参考にし、パフォーマンス評価を行った。アカデミック・ライティングについてはペア評価用紙(資料1)とルーズブリック(資料2)を作成し、評価した。

3 成果

(1) アンケート結果



(2) 生徒の感想

- ・ディベートなどの授業でシンガポールの大学生と協働学習ができて、その中で実際に agree の意見か disagree の意見かどちらが説得力あったかを判断してもらった授業は、鳥羽高校のグローバル科ならではの授業であり、とても楽しかった。
- ・グローバル・コミュニケーションⅡの活動をととして英語を話す能力が一番身についた。中学生の時は、音読などでしか発音しなかったが、この授業をととして自分の考えを伝えたり、説明したりする機会が多くあったので、英語ってこんなに楽しいんだと感ずることができた。
- ・アカデミック・ライティングはイノベーション探究Ⅱの論文作成の時にも役に立っし、大学に行っても必要な力だと思う。グローバル・コミュニケーションⅡで学ぶことができてよかった。
- ・私はこのグローバル・コミュニケーションⅡの授業の中でディベートが一番好きだった。定義を決めたり、相手の主張を正確に聞いたりするのは難しかったが、その分、一所懸命に英語を理解しようとし、その時学んだ文章の書き方の学習はとても役に立った。
- ・この授業で英語でのコミュニケーションの大切さを感じ、この能力が少し向上したように感ずる。英語が苦手で、授業でも日本語を使いがちだが、積極的に英語を使わなければならないということ学んだ。
- ・ディベートで自分の考えを発表する際に両方の立場から考えることができた。
- ・ディベートや毎日のスピーキングタスクなどをととして、「英語を話すことへの恐怖心」が無くなり、前より自信を持てるようになった。どうやったら相手に伝わるか、また、より分かりやす

く伝えるにはどうしたらいいかを考えるようになった。

- ・自分が特に成長を感じるのはライティングだ。自分の意見を組み立てて、その内容を相手に伝わるように構築していくことがやりやすくなってきた。また、英語のアカデミック・ライティングを学んだことで、日本語で文章を書くことについても以前より上達したように感じる。

(3) 分析できる成果

昨年度のアンケート結果と比較すると、すべての質問に関して「4 そうである」と答えた割合が増えた。特に、質問 1 「グローバル・コミュニケーションⅡにおける英語ディベートやアカデミック・ライティングの学習は意義のある取組であった」が 40.7%から 66.2%に、質問 5 「課題研究に関する英語ディベートをとおして、事実や意見などを批判的に多様な観点から考察する能力が向上した」が 19.5%から 41.6%に、質問 11 「パラグラフ構成や展開を意識して、論理的に英文を書く力が向上した」が 19.5%から 32.5%までにそれぞれ上昇した。生徒の感想にあるように、「イノベーション探究Ⅱ」との教科横断的な取組がアカデミック・ライティングの力や論理的思考力を向上させることを検証できた。

また、質問 13 「英語を学ぶ必要性を感じ、主体的に英語を学ぶ意欲が高まった」について「4 そうである」と回答した生徒の割合は、昨年度の 43.1%から 55.8%に上昇するなど、半数以上の生徒が英語を学ぶ意識に変容がみられたと回答した。

さらに、生徒の感想に見られるように、海外の大学生及び留学生との協働学習、日々の授業中のディベートやスピーキング等のコミュニケーション活動をとおして、主体的な英語学習者としての姿勢を身につけさせることができた。

4 課題

生徒アンケートの質問 7 「授業や海外大学生との英語ディベートをとおして、英語で質疑応答する能力が向上した」について「4 そうである」と回答したのは 23.4%、質問 12 「英語によるアカデミック・ライティングに必要な語彙や表現を増やすことができた」については 20.8%の回答となり、他の質問と比べて低かった。即興で英語を話す機会を継続して増やすとともに、英語論文で頻繁に使用する表現について、3 年次の「グローバル・コミュニケーションⅢ」において定着させることを課題とする。

＜資料 1＞

Paragraph Peer Editing Worksheet

Paragraph Writer: Class () No () Name ()

Paragraph Topic: _____

Date: _____

Questions:

<i>Format</i>	<i>Yes</i>	<i>No</i>
1. Did they indent?		
2. Is the format correct? (write to end of line, etc.)		
3. Are periods, commas, and capital letters correct?		
4. Are there two spaces between sentences?		
5. Is the writing easy to read?		
6. Is the spelling all correct?		

<i>Organization</i>	<i>Yes</i>	<i>No</i>
1. Do they have a topic sentence?		
2. Is the topic sentence focused?		
3. Does the topic sentence make an argument?		
4. Do they have enough supporting sentences?		
5. Are the supporting sentences all related to the main idea?		
6. Do they have a concluding sentence?		

<i>Content</i>	<i>Yes</i>	<i>So-so</i>	<i>Needs work</i>
1. Is the content interesting?			
2. Is the argument persuasive? (説得力)			
3. Did they give enough details?			
4. Did they give enough examples?			
5. Is the content easy to understand?			

Comments:

1. What was good about your partner's paragraph?

2. What can they do to make their paragraph better?

Class () No () Name ()

Paragraph Writing Rubric

Writer: Year () Class () No. () Name ()

	<i>Excellent (4 pts.)</i>	<i>Good (3 pts.)</i>	<i>Needs Improvement (2 pts.)</i>	<i>Poor (1 pt.)</i>
Format	Indentation, punctuation, spelling, and capitalization are all correct and the handwriting is clear and easy to read.	The format is mostly correct and the handwriting is mostly easy to read.	There are many errors and/or many parts are unreadable.	The format is mostly incorrect and/or the paragraph is mostly unreadable.
Topic Sentence	The main idea is clearly stated, focused, and makes an argument.	The main idea is clearly stated but is not focused or not argumentative enough.	The main idea is unclear, is not focused, and/or does not make an argument.	The main idea is not stated, not understandable, or there is no topic sentence.
Supporting Sentences	The sentences all support the main idea and give enough details and examples.	The sentences all support the main idea, but are somewhat lacking in details or examples.	Some of the sentences do not support the main idea, and/or are markedly lacking in details or examples.	Most of the sentences do not support the main idea or don't give details or examples.
Concluding Sentence	The main idea is clearly restated, and a warning, prediction, or opinion is added.	The main idea is clearly restated, but a warning, prediction, or opinion is lacking.	The main idea is unclear or different from the main idea stated in the topic sentence.	The main idea is not stated, not understandable, or there is no concluding sentence.
Overall Content	The paragraph is original, interesting, and persuasive.	The paragraph is adequate but not quite original, interesting, or persuasive enough.	The paragraph is definitely not original, interesting, or persuasive enough.	The paragraph is completely unoriginal, uninteresting, and unpersuasive.
Comments:	TOTAL			/20